

#### 4号穴遺物 (第197図17~22)

(17・18)は全体が鋸びに被われ、断面方形を呈し、鉄鎌の頸部の破片と思われる。不明鉄器(19)は棒状を呈し、断面方形に近い。鉄片(20)は幅2.1cmを測り、湾曲している。刀の金具と思われる。(21)は大部分を欠損しているが、刀金具と思われ、幅0.8cmを測る。耳環(22)は1個出土し、銅芯鍍金製のやや細身で、鍍金の残りは悪い。環の端面で金箔を折り込んでいる。断面は円形に近く、長径2.4cm、短径2.2cm、太さ0.6cmを測る。

#### 5号穴遺物 (第197図23~26、第198図1~6、35~51)

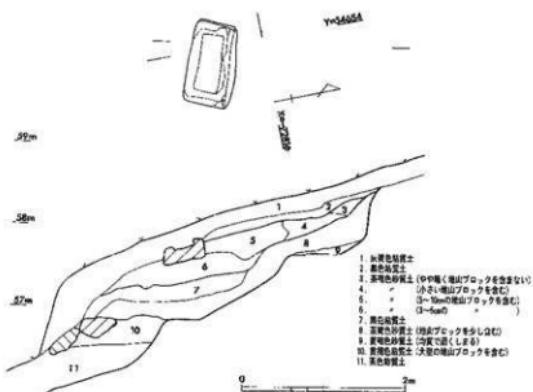
鉄斧(23)は刃部が鋸びに被われている。方形の袋部を持つ両肩式である。全長9.0cm、刃部幅4.3cm、袋部幅2×3.2cm、刃部から肩部の長さ4.6cmを測る。銅碗(24)は9.7g分の破片で、底部の形態は不明。口径8.5cm、厚さ0.05cmを測る深目の碗で、口縁端部内面が肥厚し、外面には沈線を巡らす。耳環(25・26)は銅芯鍍金製で、2個あるが大きさが違う。(25)は大きく鍍金の残りは悪い。環の端面で金箔を折り込んでいる。断面は梢円形に近く、長径2.7cm、短径2.5cm、太さ0.7cmを測る。(26)は鍍金の残りは非常に悪い。断面は梢円形に近く、長径1.8cm、短径1.6cm、太さ0.6cmを測る。玉類(1~6)は6点すべて丸玉である。茶褐色(1~3)は砂岩、黒色(4~5)は蛇紋岩、灰色(6)は凝灰岩あるいは溶岩である。すべて小口には面を持つ。<sup>(註)</sup> 大刀(35)は棟幅0.6cm、幅2.2cmを測り、表面には木目が残る。関付近の破片(36)は刃部には木目が残るが、柄部はない。柄部幅は2.1cmを測る。柄部(37)にある目釘は径0.6cm、長さ1.4cmを測る。(40)は刃部から柄部の破片で、柄部は6×13mmを測る。足金具(41)は方形の突起に円形の穴が開く。断面は半月状になる。(42)は鏽跡が付いた刀子と思われる。(43)は断面方形で、釘の可能性がある。鉄鎌(44~47)の内、(44)は厚さ2mmの両側に木質が残る。(48~51)はかすがいあるいは鉄釘と思われる。断面方形の鉄棒が先端から9.5~11cmで、L字形に曲がっている。先端は鋭く、先端から8cm前後まで平行した木目があり、そこから曲がったところまで直行した木目が残る。(51)の断面は0.7~1cmの方形である。(51)の直行する木目の厚さは2.7cmであり、木材の厚さは3cm前後であったことがわかる。

#### 6号穴遺物 (第197図27~29、第198図7)

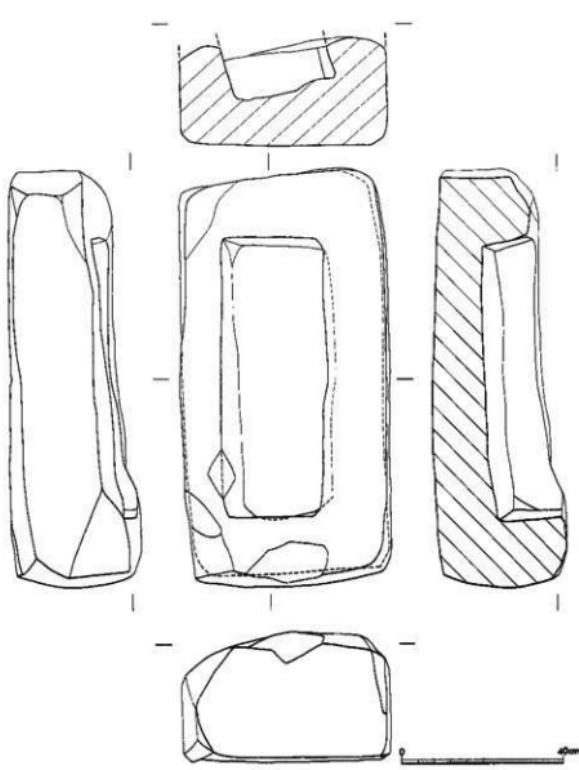
棒状鉄器(27)の用途は不明で、先端が少し肥厚し、断面も不整形を呈する。残存長6.3cmを測る。刀(28・29)の破片は鋸びや割れが著しく、刃も残っていない。ガラス小玉(7)が1点出土し、小口はきれいな面を持つ。

#### 7号穴遺物 (第197図30~35、第198図8~34、図版149)

不明鉄器(30)は鋸びと割れが著しいが、表面は平坦である。直角に2回折れており、用途は不明。鉄製輪燈(31)は吊り下げ部と下部が欠損している。吊り下げ部は0.8×2.8cmの長方形断面で、かつ、平坦であり、



第199図 半分城跡石製品土層図 (S=1/60)



第200図 半分城跡石製品実測図 (S=1/12)

輪部の断面は台形に近い。目釘部の小片(32)は径0.6cmの目釘がある。(33)は巻の引手と思われるが剥離が著しい。長径4.2cm、短径3.6cmを測る。刀金具(34)は銀装で、1.4×2.4cmを測り、幅1.2cmのベルトが付く。大刀(35)は残存長60.2cm、背の幅0.8cm、幅2.6cmを測る。全体に錆びに被われ、3つに割れている。背は直線的で、関は両開で、1.6×3cmの銀装の金具がある。柄部は0.4×1.8cmの断面長方形で、刀身と茎には木質が残る。翡翠製勾玉(8)は小型で扁平、厚みがなく、両側穿孔である。ガラス小玉(9~34)は181個出土し、26個圓化した。薄

い鉄色で、形や規模はバラエティーに富んでいるが、小口は面を持つ。その他に古銭が一枚出土している。表面には「政」と「通」の文字があり、1111年に北宋で初鋤された「政和通宝」の可能性がある。

## 5. 半分城跡

### 調査の概要

半分城跡は出雲平野の南側丘陵上、神戸川が平野部に流れ出た東側に位置する。主郭は県立出雲工業高校の東側に位置し、西1郭は中国電力送電線鉄塔工事に伴い発掘調査が行われている。また、南側の三田谷に面した場所には櫛現山城跡があり、斐伊川放水路事業に伴い発掘調査が行われている。半分城跡西1郭からは土壘や土坑や柵列跡、ピットが検出された。遺物は土師器、備前焼鉢の他、肥前系播鉢があり、室町時代から安土桃山期に比定されている。<sup>(注1)</sup>

今回の調査は、半分城跡上郭（第62図）から丘陵が大井谷方向に伸び、大井谷に達し南北に丘陵が分かれた、南側に位置する。頂部は標高62.28mを測り、平坦でなく丸みを持ち、西側と北側と南東

方向に尾根は伸びている。なお、前面に木々がなければ平野部中央部や篠ヶ城跡、旅伏山、弥山などの北山や仏経山が見える。

調査は頂部から人力により掘り下げていった。その結果、北側斜面、南側、北東尾根上に加工段を確認し、その他に、石製品や尾根上と斜面に道状遺構を検出した。加工段からはピットや遺物の出土はなかった。

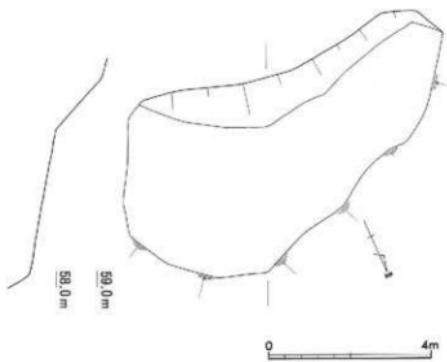
#### 石製品（第199、200図）

石製品は頂部の南側斜面の標高58m付近に存在した。調査前は盛土や石組みなどの目印ではなく、表土を除去すると石製品が現れた。急な斜面を二段に削り、 $2 \times 5$ mの平坦面を確保し、その上に約1mの盛土を行い石製品を置いている。

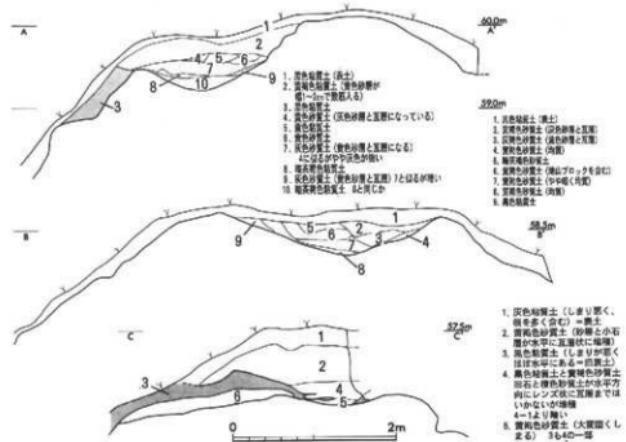
細かく土層を見ると、10層に20~30cmのやや大きめの石を置く。一見すると土止め用の石にも見える。その上に6~8層を盛る。このときには上段も埋められ、平坦面を造っている。この平坦面上に石製品は置かれているが、やや斜面下方に傾むく。2層に黒色土が堆積しており、一時、表土化していた可能性がある。

石製品には天井石がなく、内部の穴には凝灰岩や砂岩の小片を含んだ土が入っていた。内部の土砂を分析したが、骨や副葬品は検出できなかった。

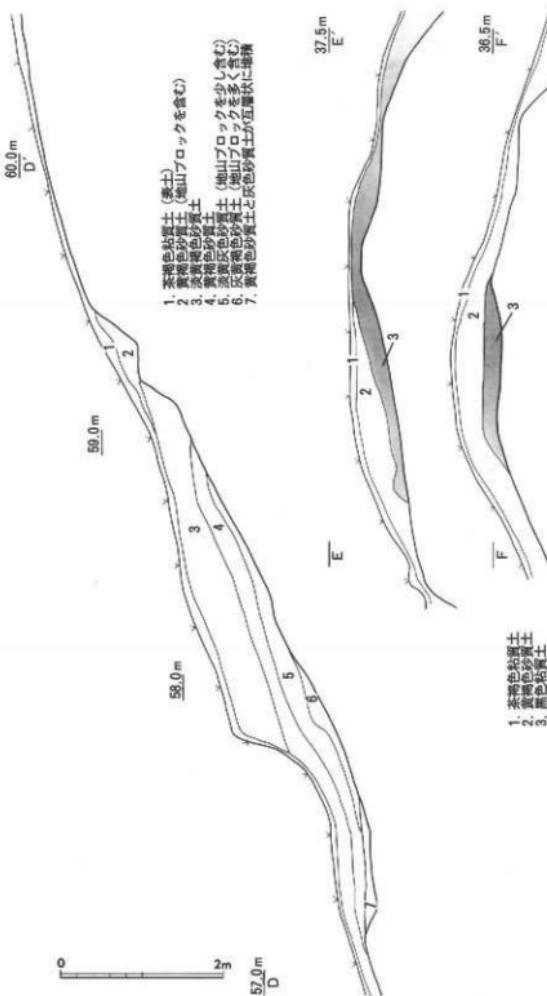
石製品は長さ100cm、幅50cm、厚さ23~31cmを測る。床面付近には幅3~5cmで面取りされている。側壁や床面は平坦であるが、角は丸みをもっている。上面は少し崩れていますが、削り込みなどは初めてからなかった。



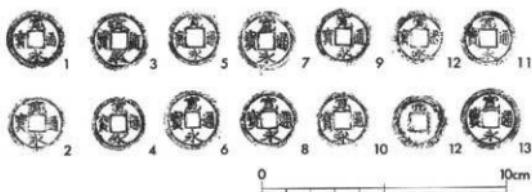
第201図 半分城跡加工段実測図 ( $S=1/120$ )



第202図 半分城跡土層図 ( $S=1/60$ )



第203図 半分城跡土層図 ( $S=1/60$ )



第204図 半分城跡出土古錢拓影 ( $S=1/2$ )

と思われる。中央には長さ66cm、幅25cm、深さ11~15cmの穴が穿たれている。穴は一部オーバーハングしている。床面は側壁周辺ではかなり凸凹で、工具痕も残る。工具痕は幅5cm程度の平刃である。外側の表面は風化しているので、工具痕は確認できなかった。

#### 加工段1 (第107図)

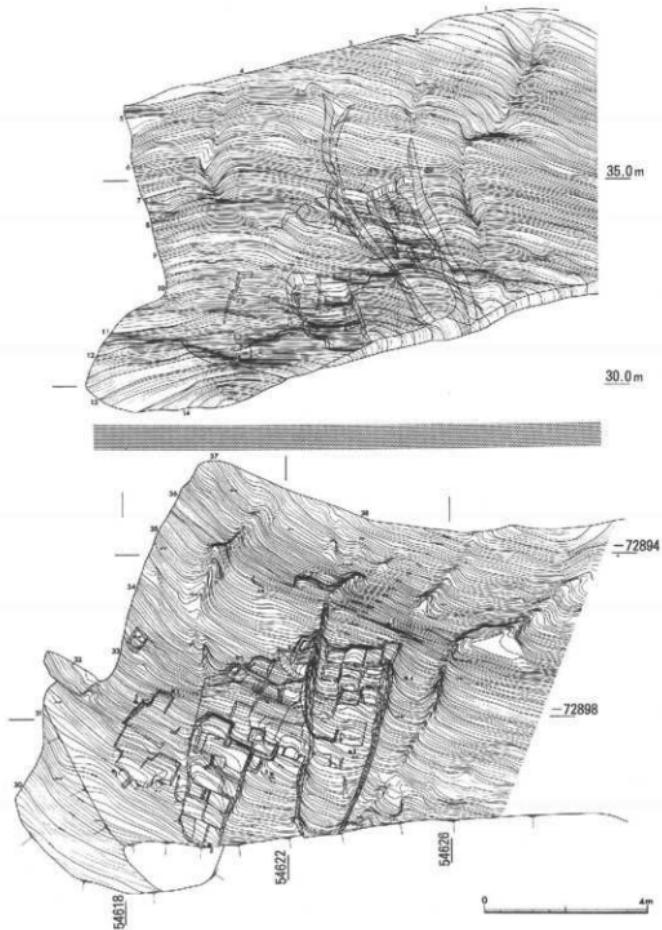
頂部の南東尾根上で確認できた。標高は59.5m付近で、頂部との比高は3mある。規模は幅4m、長さ10.5mの長方形である。

#### 加工段2 (第201図)

頂部から北側に伸びる尾根上で確認できた。急で、狭い尾根をL字形にカットし、平坦面を削り出している。頂部との比高差は4.5mで、規模は3×8mの半月状を呈する。加工段からは大井谷から前方の出雲平野を見下ろすことができる。

#### 加工段3 (第201図)

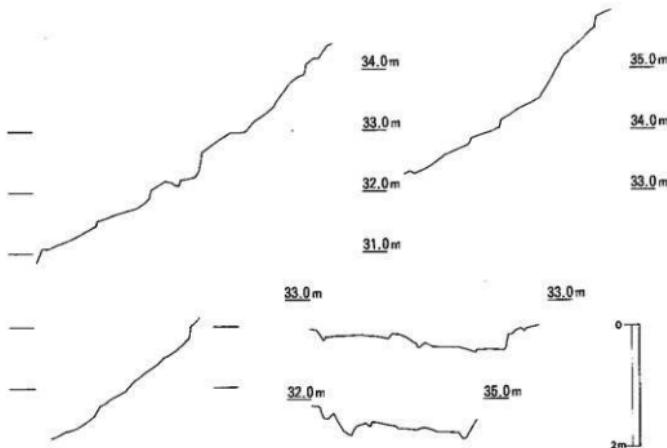
大井谷から入る小さい谷奥の北西斜面に存在する。標高58.5m付近で、頂部との比高差は4mを測る。斜面をL字形にカットし、平坦面を削り出している。規模は1×7mである。



第205図 上塩冶横穴墓群第22・23支群石切場平面図（下）・正面図（上）（S=1/120）

#### 道状造構（第107、202、203図）

溝は上塩冶横穴墓群第12支群上から上塩冶横穴墓群22-21号穴の上を通り、南へ伸びる尾根上まで続く。D-D'では幅1.5~2mの溝状になり、その上部には厚さ1.2mの盛土がされている。幅3mの尾根を深さ0.6~0.8mのU字形に掘り込んでいる。溝は頂部の南側から南尾根に続いており、一部消失している箇所もある。A-A'やC-C'では旧表土が一部残っている。堆積した土層を観察すると、砂質の黄色土と黒色土が水平堆積し、下層の土は地山と見間違うほど固い。この堆積土の上面は幅2.5~3mの平坦面を形成している。この堆積は自然堆積の可能性もあるが、人工的なものであ



第206図 上塙治横穴墓群第22・23支群石切場断面図 ( $S=1/80$ )

れば、U字形に溝を掘り、そこに土を積み上げ、しっかりした道状の遺構を築いているとも考えられる。時期は不明である。

### 盛土

頂部の南側斜面は厚さ1.2mほどの盛土を行っている。黄褐色土と褐色土を盛りが、土は砂質の上であり、地山の土と同質のものである。盛土により、上部には幅4mの平坦面が長さ15mにわたり形成されていた。盛土の下からは前述した道状遺構が確認できた。

### その他

第12支群の尾根上から古銭が表土中から出土した。古銭は一列に並んで見つかった。周囲を精査したが、土坑や石組みなどの遺構は検出できなかった。

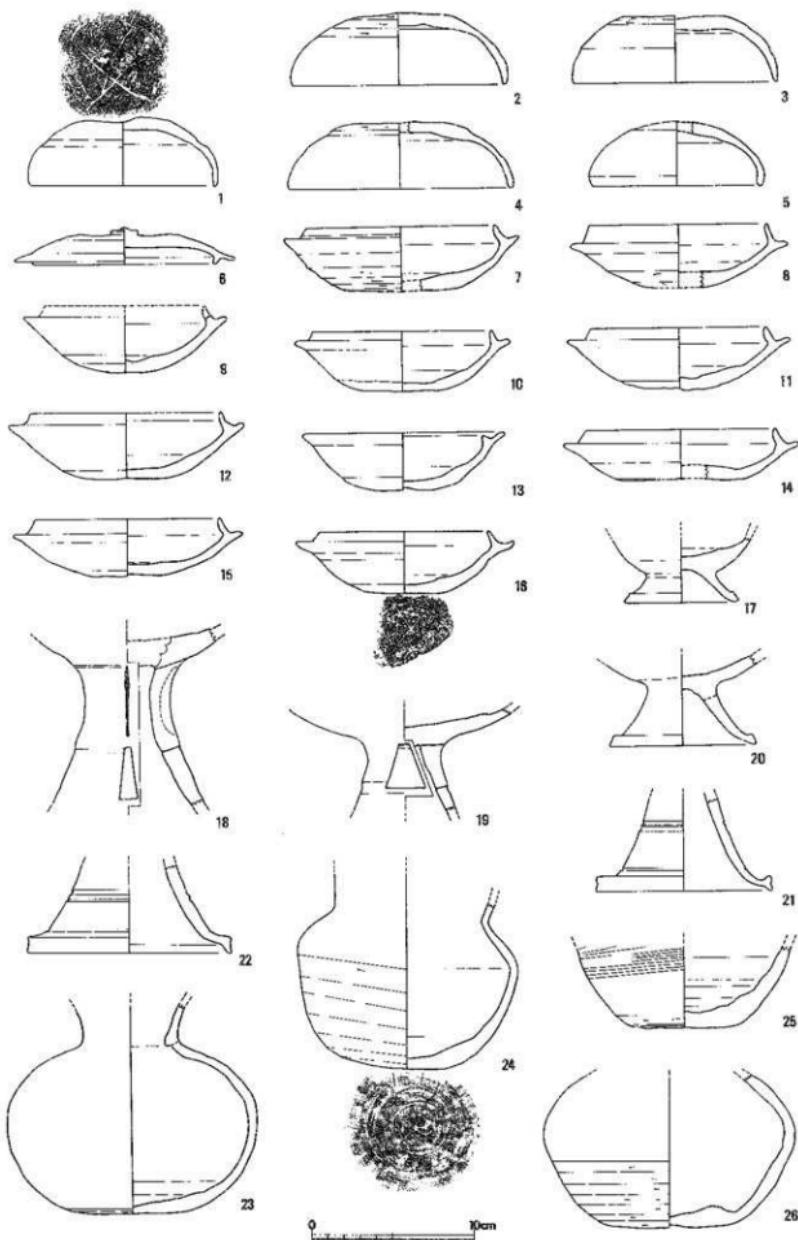
#### 古銭（第204図）

古銭は全て寛永通宝である。比較的保存状態はよい。古寛永通宝(6~8・13)と新寛永通宝(1~5・9~12)があり、(12)は裏側に「元」の文字が見られる。

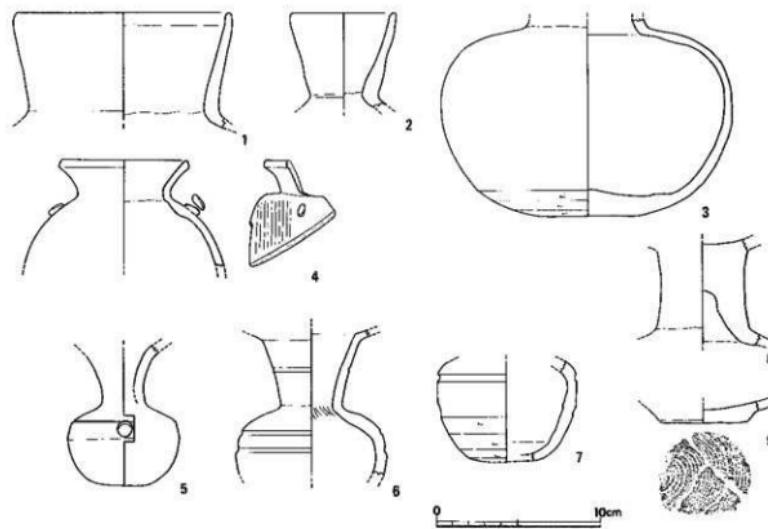
### 6. 石切場跡

石切場跡は上塙治横穴墓群第22、23支群の位置する谷奥、南向き斜面にある。調査前には10~20cmの表土があり、確認できなかった。表土を除去すると、凝灰岩の岩盤に6×7mの範囲で石切場跡が確認できた。急斜面に小規模な石切場が築かれ、単独に存在する。表面は風化しており、丸くなっていた。

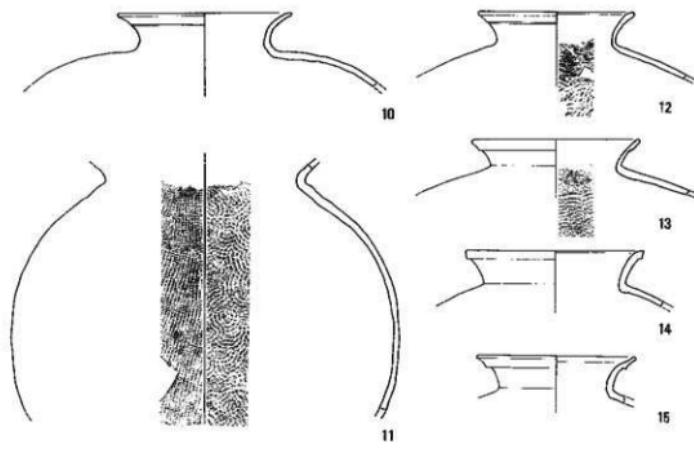
土層の堆積はほとんどが表土で、深いところで20cmほどであった。標高は30~35mである。岩盤に



第207図 上塙冶横穴墓群第22・23支群出土遺物実測図 ( $S=1/3$ )

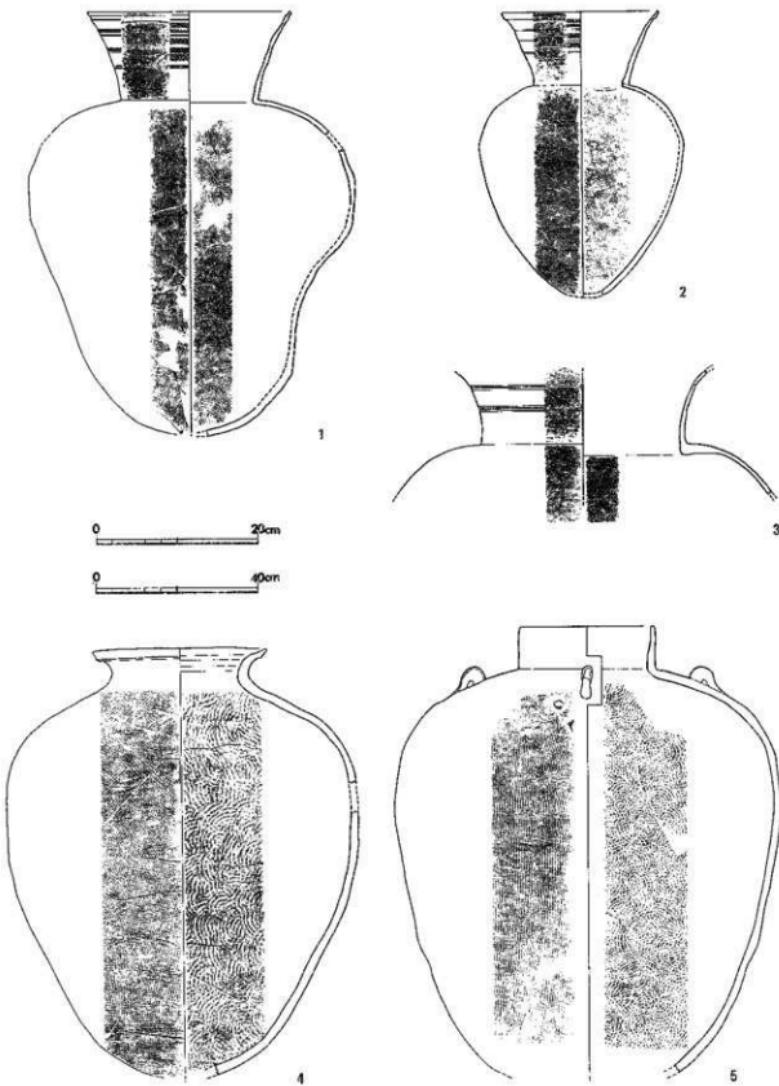


0 10cm

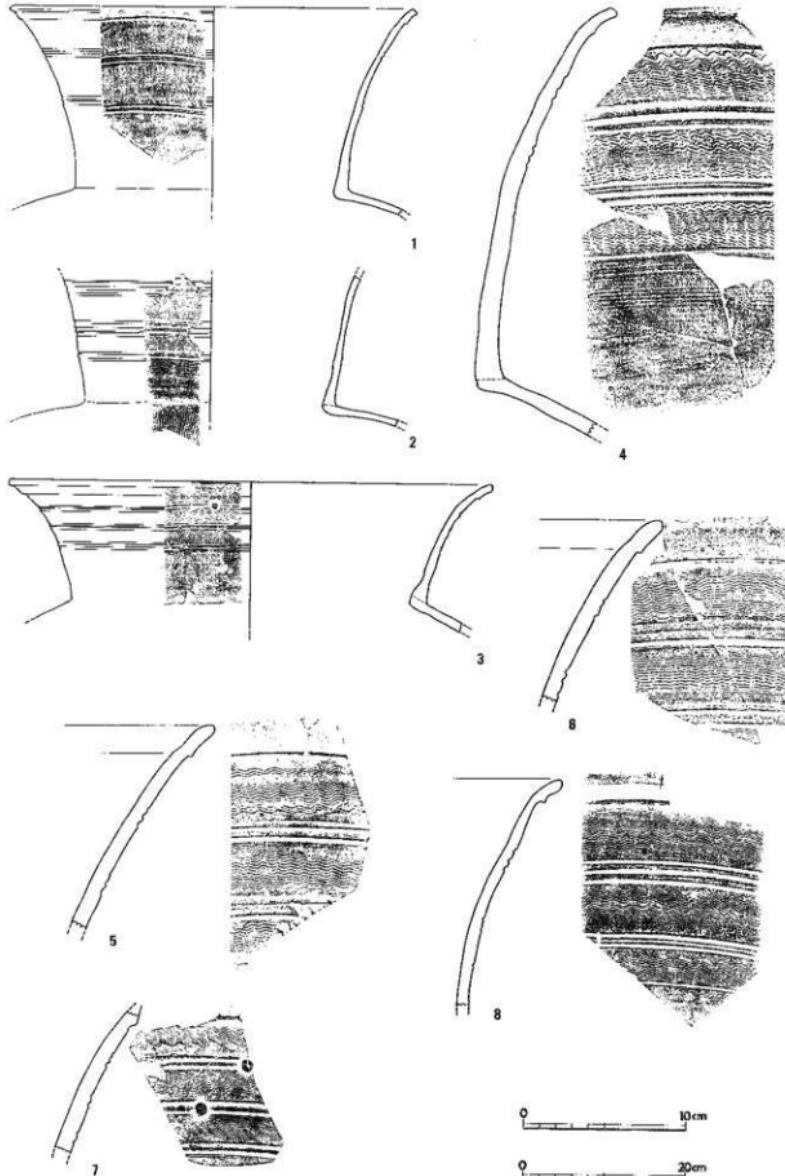


0 20cm

第208図 上塙治横穴墓群第22・23支群出土遺物実測図 1~9 (S=1/3) 10~15 (S=1/6)



第209図 上塙治横穴墓群第22・23支群出土遺物実測図 1~3 (S = 1/2) 4·5 (S = 1/6)



第210図 上塙治横穴墓群第22・23支群出土遺物実測図 1~3 (S=1/6) 4~8 (S=1/3)

は等高線に直行するように三ヵ所にクラックがあり、それに沿って、一边40×40mと60×80cmの方形の石を切り取っている。切り出し方法は周間に幅8~10cmの溝を必要な深さまで掘る。溝に残っている工具痕を見ると、幅2~5cmの平刃である。基本的に同じ深さで、掘られているが、2~2'の下部は周囲より深く、石の切り出しは2段階であった可能性もある。しかし本米の地形が不明であり、石切りが小規模のため、地形の制約で深くなっている可能性もある。

## 7. 上塙治横穴墓群第22・23支群谷部の調査

谷部はトレンチ調査の結果を受け、谷の入り口付近を調査した。調査の結果、表上の下に、20cmほどの黒色土があり、その中から須恵器や中世の土師器などが出土した。さらに、その下は凝灰岩や砂岩片を多量に含んだ層が30~50cm堆積していた。その上下では遺構を確認できなかった。さらにその下にも厚さ10~20cmの黒色土が堆積し、多量の須恵器が出土した。黒色土を除去すると、無遺物層の茶褐色土に達する。茶褐色土上は幅5mの断面U字形の溝になっていた。

須恵器は大きなもので0.4×1mの砂岩や凝灰岩に接して、比較的まとまって検出された。須恵器には甕、壺、蓋壺、高壺、龜などがあった。

### 遺物（第207~210図）

(207-2~4)は天井部にヘラケズリを施している。(207-6)は天井部につまみを持ち、口縁部はかえりがある。(207-7・8)の壺身は底部にヘラケズリをもつ。(207-18)は二段二方向の透かしを持つ。

(208-8)は土師器の高壺である。(209-9)は底部糸切りで、底部と体部には明瞭な段がある。

甕は破片が多量に出上り、復元できるものもある。(209-5)は四耳を持ち、口縁部が直口で、上方に伸びる。(207-3・7)は口縁部に浮文が数ヵ所に施されている。同一個体の可能性がある。

### 注

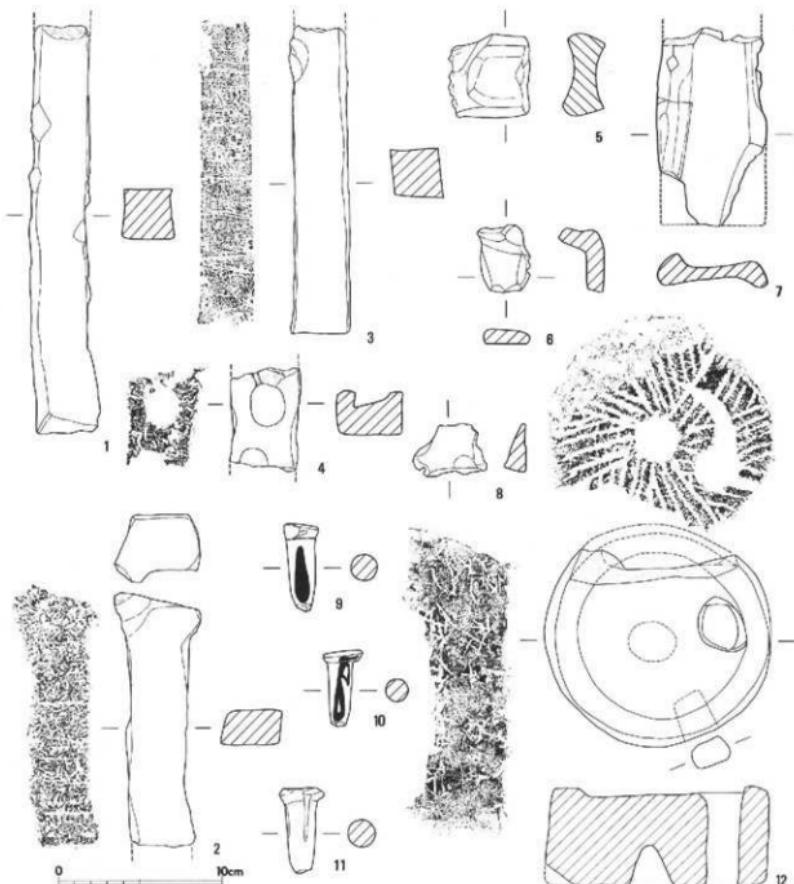
- 1 島根県教育委員会他『出雲・上塙治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』 1980
- 2 西尾克己・角田徳幸『出雲・上塙治横穴群第22支群』『島根県埋蔵文化財調査報告書』 XII 1986
- 3 島根県教育委員会林健介氏のご教示による。
- 4 全製品は奈良県立文化財研究所村上隆先生に分析をお願いした。
- 5 銅碗は奈良県立文化財研究所村上隆先生に分析をお願いしました。
- 6 石材分析は島根大学澤田先生にお願いした。また、類例として林43号墳出土玉の分析もお願いした。林43号墳出土玉については玉湯町教育委員会鷹部衛氏にご協力いただきました。
- 7 出雲市教育委員会『中国電力高圧送電線鉄塔工事にともなう大井谷城跡・半分城跡発掘調査報告書』 1979年

## X 半分瓦窯跡

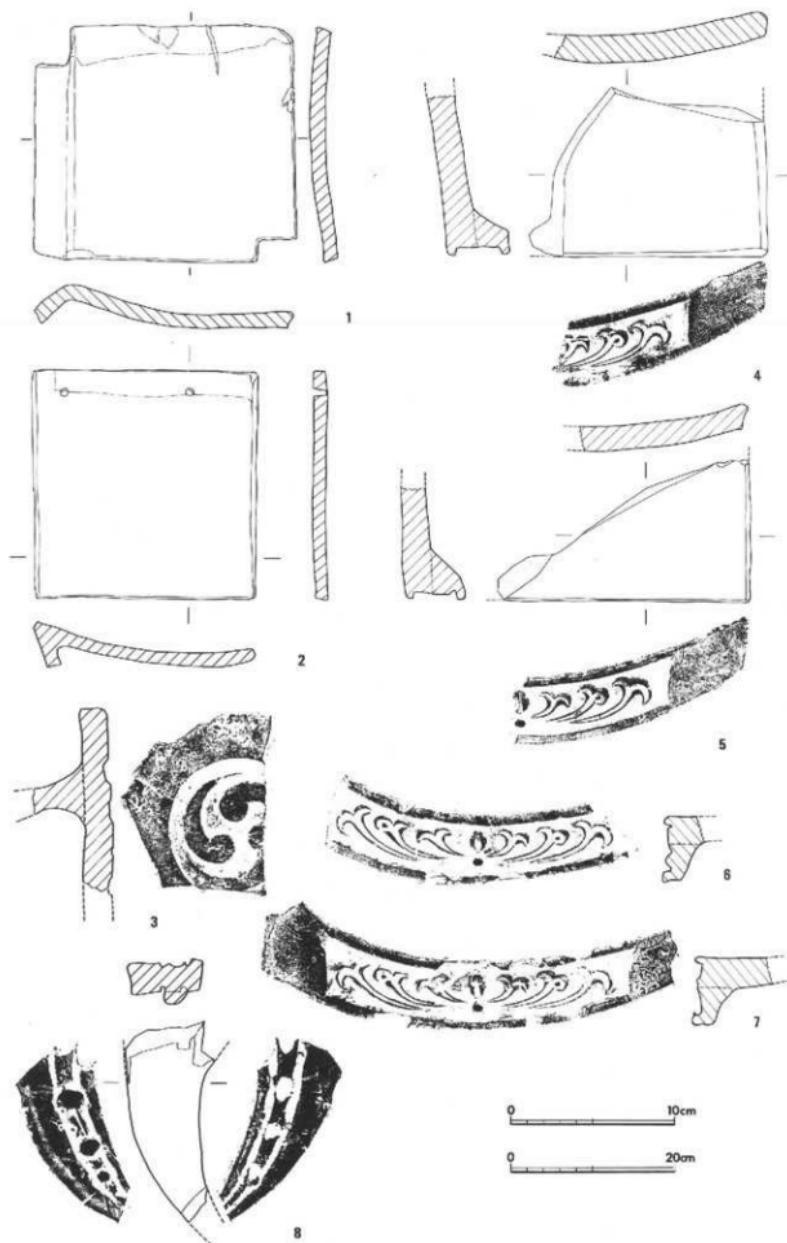
調査を行ったが、窯跡などの遺構は確認できなかったので、遺物をコンテナ2箱分採集するにとどめた。遺物の分布は浄福寺北側の丘陵上や周囲の水田・畑跡（三田谷I遺跡）にも広がっている。

聞き取り調査によると、3軒の家が3基の共同窯を使用し、1つ使うと次は別の窯を使い、作業は浄福寺南側の家の周囲で、乾燥は寺の東側の広場で行われた。戦後まで使用され、昭和30年代に他へ移動し、窯跡は完全に壊したと言う。土は現在の出雲工業高校周辺で採集されていた。<sup>(8)</sup>

注 半分瓦窯跡については出雲市上塩治町半分地区の内田一信氏にご教示いただきました。



第211図 半分瓦窯跡出土遺物実測図(1) (S=1/3)



第212図 半分瓦蒸跡出土遺物実測図 (2) 1、2 ( $S=1/6$ ) その他 ( $S=1/3$ )

## XI まとめ

今回、数カ所で発掘調査を行い、その結果を報告してきた。特に、上塩治横穴墓群では47穴もの横穴墓を発掘した。また、上塩治横穴墓群ではこれまで数度の発掘が行われているので、調査研究の状況を年表風にまとめてみた。

### 上塩治横穴墓群調査研究年表

1717（享保2）年	黒沢長尚の神門郡塩治の条に「古城山麓に岩窟大小二十ばかりあり上朝山塩治境なり城主しれす」の記述があり、岩窟が横穴墓の可能性がある（文献1）
1887（明治20）年	ウェーリアム・ガウランド 出土土器の調査（文献2）
1925（大正14）年	野津左馬之助『島根縣史』4で墳穴として2ヶ所紹介（文献3）
1951（昭和26）年	山本清『出雲市誌』「上塩治方面の横穴群など」として5箇所記載（文献4）
1954（昭和54）年	門脇俊彦「横穴考」発表（文献5）
1955（昭和30）年	美多実 第6支群（エーゲ横穴墓群）発掘調査 初めての発掘調査
1956（昭和31）年	門脇俊彦「山雲国大井谷横穴群の研究」を発表（文献6） 池田満雄『出雲市の文化財』1集に概要載せる（文献7） 8支群21穴確認
1962（昭和37）年	近藤正 第32支群（T.業高校裏横穴墓群）発掘調査 山本清「横穴の型式と時期について」発表（文献8）
1970（昭和45）年	山本清 2カ所の家形石棺を紹介（文献9）
1978（昭和53）年	島根県教育委員会 第17支群（岸宅裏支群）発掘調査 出雲市教育委員会 第27支群（半分城跡横穴墓群）発掘調査
1979（昭和54）年	島根県教育委員会 第22支群1号穴発掘調査 出雲市教育委員会 第27支群報告書（文献10） 渡辺貞幸「風土記の丘」館報に土師器紹介（文献2） 詳細な分布調査
1980（昭和55）年	門脇俊彦「上塩治横穴群」報告（文献11） 集大成を行い、32支群107穴報告 池田満雄「山雲平野周辺地域の考古学的研究の歴史」で学史を詳細にまとめ、 上塩治横穴墓群にふれる（文献11） 門脇俊彦「山陰地方横穴墓序説」発表（文献12）
1984（昭和59）年	山本清 第32支群の装飾大刀を紹介（文献13）
1986（昭和61）年	島根県教育委員会 第22支群1号穴報告（文献14）
1988（昭和63）年	山本清 石棺を紹介し、同時に支群の同定をする（文献15） 西尾克己・丹羽野裕「山陰の横穴墓」発表（文献16）
1991（平成3）年	建設省による斐伊川放水路事業に伴う事前調査開始 出雲市教育委員会 第33支群発掘調査

1992(平成4)年	島根県教育委員会 第14・15・20・21支群発掘調査
1993(平成5)年	島根県教育委員会 第16支群発掘調査 出雲市教育委員会 第30支群発掘調査
1994(平成6)年	島根県教育委員会 第7・35・36支群発掘調査
1995(平成7)年	島根県教育委員会 第20・21支群報告書(文献17) 島根県教育委員会 第22・23・37支群発掘調査
1996(平成8)年	出雲市教育委員会 第17・34支群発掘調査(文献18) 島根県教育委員会 第7・12・28・33支群発掘調査
1997(平成9)年	島根県教育委員会 第14・15・16支群報告書(文献19) 出雲市教育委員会 第18・19・38支群(文献18)
1998(平成10)年	島根県教育委員会 第7・12・22・23・33・35・36・37支群報告書(本書)

#### 上塩治横穴墓群遺構・遺物

##### I、遺構について

###### 1. 支群

現在の支群名は1980年の報告で、はじめて使用された。<sup>(注1)</sup> それによると、支群は同一斜面に存在する横穴墓群を支群と位置づけている。しかし、近年の発掘調査は丘陵を全面的に発掘するため、横穴墓が1穴で存在するものや同一斜面でありながらかなり離れた地点で発見されるものがあり、支群の付け方が曖昧になる場合がある。前者の例では22-21号穴、第35支群、第37支群、後者の例では23-1～3号穴と4～7号穴や第12支群などがある。

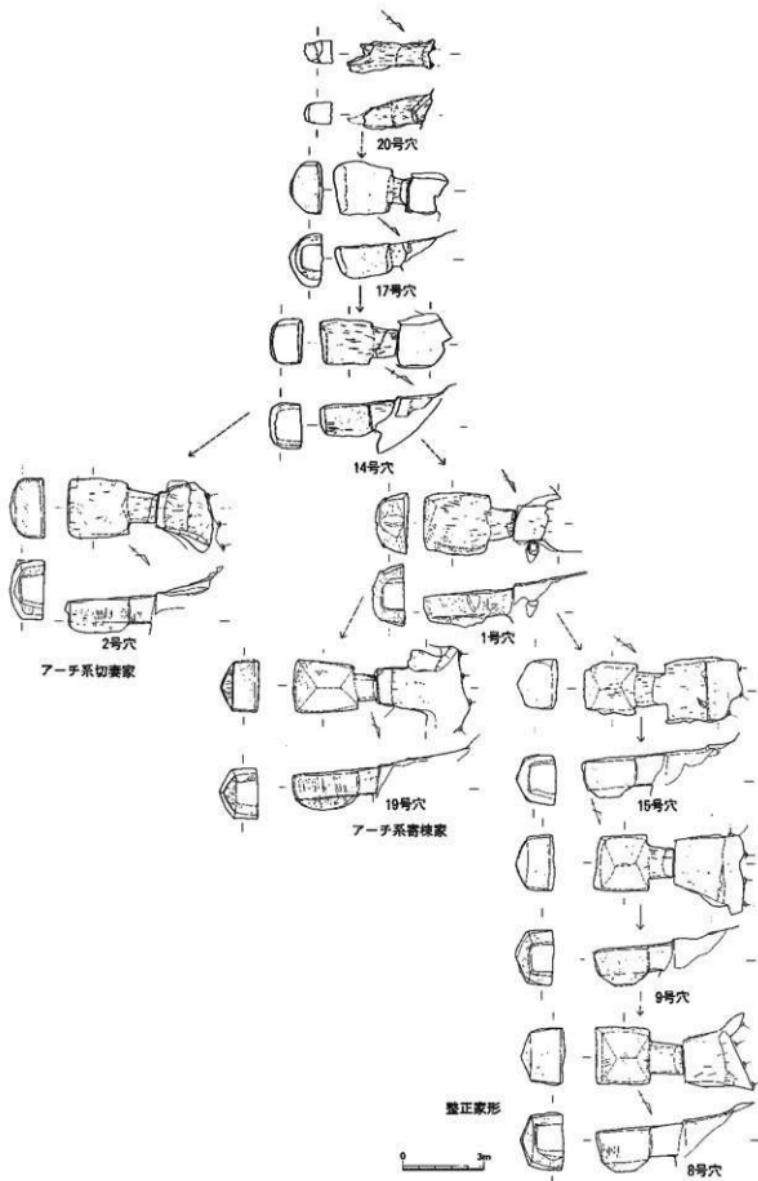
支群を細かく見ると、1～5穴程度の横穴墓がまとまって一つのグループを形成していることがわかる。第22支群を例にとると、1～5号穴、6・7・17号穴、8～11号穴、12・13号穴、14～16号穴、18～20号穴、21号穴のグループに分けられ、このグループがまとまって、一つの支群が形成されていると見える。第20支群では1～5号穴の小グループで1つの支群を形成している。小グループと支群の違いは何かを今議論するだけの知見は持っていないが、この問題の解決が新たに横穴墓が発見され、支群名を付ける際に大きなウェイトを占めると思われる。

###### 2. 立地

上塩治横穴墓群は丘陵頂部付近から水田に接するような丘陵裾部の低い場所まで存在し、現在、38支群が知られ、島根県下最大級の横穴墓群である。<sup>(注2)</sup> また、横穴墓時期や形態や岩質は密接な関係がある。<sup>(注3)</sup> 上塩治横穴墓群の導入期である出雲4期<sup>(注4)</sup>の横穴墓は丘陵先端付近の軟質な上(凝灰質砂岩層や礫層)に掘られているが、5期になると凝灰岩にも掘られるようになる。この時期、玄室形態が家形のものが現れており、横穴墓の掘られる岩質と形態は密接な関係がある。

一方、横穴墓と丘陵上の遺構との関係では、一部の横穴墓<sup>(注5)</sup>の丘陵には後背墳丘が存在することは周知の事実である。東出雲町島田池古墳群では出雲3期から6期前半まで後背墳丘が存在し、5期から6期前半の後背墳丘はコ字形に溝を巡らした簡単なものであるという。<sup>(注6)</sup>

上塩治横穴墓群では盛土を行った確実な後背墳丘は見つかっていないが、第35・36支群では丘陵が



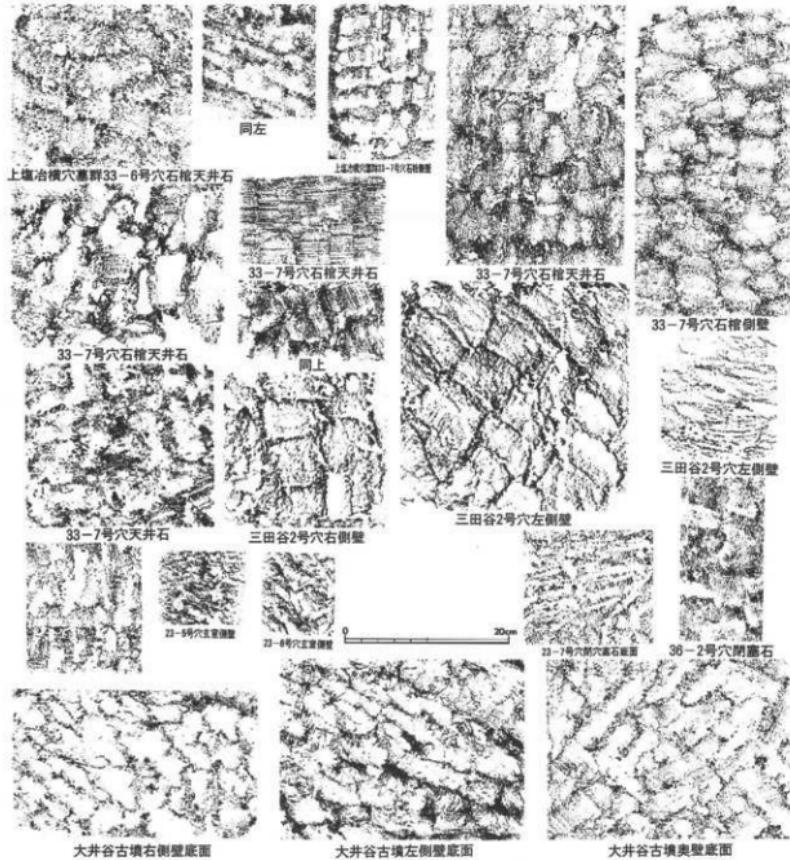
第213図 上塙治横穴墓群第22支群製作工程推定図

独立峰的な尾根を意識して、横穴墓が掘られた可能性がある。また、23-4号穴の尾根上には削り出しの径5mの円墳状高まりがあり、その溝から須恵器壺片が出土した。23-6号穴の壺片と接合し、尾根上の高まりから主体部が検出できなかったことから、後背墳丘の一種と考えた。さらに、第14～16支群で尾根上頂部でも須恵器壺片が出土している。<sup>(註4)</sup> 23-4～6号穴の時期は出雲5期から6期であり、島田池横穴墓群の例から後背墳丘の終わり頃と思われる。

### 3. 玄室形態（第213図）

出雲東部の家形平入りに対して、上塩治横穴墓群は家形妻入りが主流と言われている。<sup>(註5)</sup> 今回の調査でも追認できたが、他の形態もあることもわかつてき。

第22支群は典型的な家形妻入りが多い。その中で、2・14号穴はアーチ系切妻家形<sup>(註6)</sup>を呈し、5・10・19号穴はアーチ系寄棟家形、18号穴は家形平入りである。小グループで形態のまとまりはなく、



第214図 工具痕拓影 (S=1/6)

小グループ内にもいろいろな形態の横穴墓が存在している。全ての横穴墓が開口していたので、時期的な変遷は不明である。第23支群ではアーチ系寄棟家形やアーチ系切妻家形などがあり、アーチ系家形でまとまりがある。

第22支群において、工具痕と形態に注意し、山陰横穴墓調査検討会の研究に従い、玄室を中心には、アーチ形、アーチ系寄棟家形、アーチ系切妻家形、整正家形に分類した（表4）。また、その分類ごとに横穴墓の製作過程を想定してみた（第213図）。しかし、製作途中や未調整の横穴墓もあり、分類の困難なものが多く、今後、検討をくりかえしたい。以下、分類と製作工程を含めて報告する。

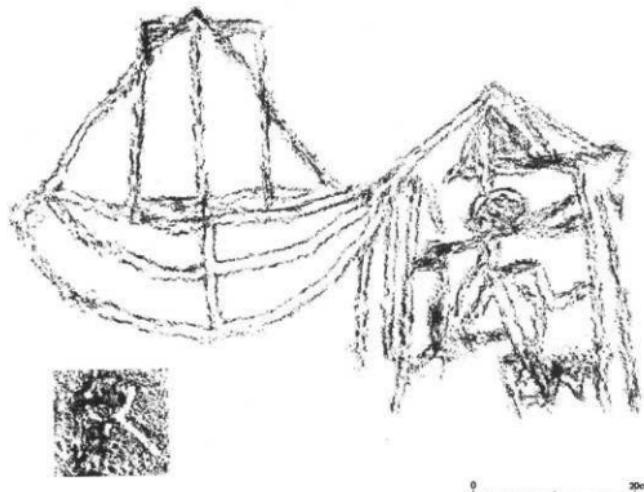
#### A、アーチ系切妻家形

第22支群で最も製作当初の形態をとどめているのは20号穴である。床面、天井、側面など全てに溝状痕（多くが平刃で施す）があり、横穴幅は中央で狭くなっているが、玄室や玄門部等の明確な区別はない。

その後の形態は、直接繋がるか不明であるが、17号穴が工具痕が粗い。奥壁と側壁の区別がつき、横断面は半円形である。側壁や床面に溝状痕が残り、刺突痕も施されている。各コーナーは丸く、軒線はない。玄門部には天井と側壁の界線はない。この段階はアーチ形である。17号穴に類似するのが14号穴である。基本的には同じである。工具痕は溝状痕と刺突痕である。側壁の奥壁側には傾斜を変えただけの軒線が施されている。刺突痕で界線が表現されている。この段階でアーチ系切妻家形となる。しかし、まだ、肋骨状技法の工具痕はない。その肋骨状技法があるのが2号穴である。玄室の奥壁側には溝状痕が残り、玄門部側には丸刃による肋骨状技法が施されている。

#### B、アーチ系寄棟家形

典型的な横穴墓は19号穴である。軒線や棟線は明確で、天井は寄棟になる。天井部から側壁にかけては丸刃による肋骨状技法が施される。その前の段階は不明であるが、考えられるものとしては1号



第215図 上塙治横穴墓群23-7号壁画拓影 (S=1/6)

穴を指摘できる。1号穴の軸線は平刃で表現され、溝状痕や刺突痕があり、平刃で強く削っている。奥壁は垂直に立ち、やや縦長長方形プランを呈する。ほぼ完成した状態の横穴墓としては5、10号穴がある。溝状痕や刺突痕が残るが、天井を中心に壁表面は平刃で調整され、一部には丸刃で縦方向に調整され、肋骨状を呈している。天井部の形態は妻側を残し、他の面を削っている。この天井形態は整正家形でも同じで、大谷氏のⅢ段階である。<sup>(注1)</sup>

### C、整正家形

当初の段階は不明であるが、可能性としてはアーチ系寄棟家形と同じで、20号穴→17号穴→14号穴→1号穴である。他の形態が縦長長方形であり、整正家形は方形プランが多く、20号穴から1号穴と直接繋がるかは不明である。

整正家形といえはじめるのは、15号穴である。床面には溝状痕があり、側壁を中心に刺突痕が残る。調整では平刃も使用している。形態は各コーナーが丸く、壁面は凸凹である。棟線は壁面の傾斜を変えている。11号穴も天井や側壁はまだ調整されておらず、凸凹である。床には溝状痕があり、壁面には刺突痕や平刃による強い打痕が残る。9号穴は平刃で壁の表面を一部調整している。12、16号穴は9号穴より、調整が進んでいるが、まだ表面は凸凹である。

4、7、8、13号穴はほぼ完成したものであり、各コーナーや界線は明瞭に表現され、壁面の立ち上がりも垂直に近い。工具痕は床に溝状痕が残り、壁の表面は平刃で調整されている。

他の支群を見ると、第20支群や第21支群には整正家形が多く、調整され、完成しているものが多い。<sup>(注2)</sup>また、14-9号穴<sup>(注3)</sup>は平天井を呈し、15-5号穴<sup>(注4)</sup>は縦長長方形で、断面方形の変わった形態のものもあり、上塙治横穴墓群の中で、視野を広くして形態分類する必要がある。

## 4. 尻床

他の形態的特徴として尻床がある。22-1号穴は奥壁に沿って尻床があり、22-7号穴は階段状になる。22-10・18、23-2号穴は両側に削り出した尻床を持ち、23-5・7号穴は両側に有縁尻床があり、23-4号穴は片側に削り出しの尻床を持つ。両側に削り出す尻床をもつものは20-1～3号穴や21-3、7、10号穴<sup>(注5)</sup>など、整正家形に多い。

横穴墓名	所在地	かれたもの	描かれた場所	文献
十王免1号穴	松江市山代町	船、人物、山代、佐た	玄室全壁	20
十王免2号穴	松江市山代町	矢、五輪塔、人物、帆船	右側側壁以外の側壁	20
十王免7号穴	松江市山代町	矢、人物	玄室側壁	20
狐谷6号穴	松江市山代町	矢をもつ人物、動物	玄室側壁	21
狐谷12号穴	松江市山代町	帆船、人物	玄室側壁	21
狐谷15号穴	松江市山代町		玄室前壁	21
島田池4-4号穴	東出雲町山雲郷	帆船、大佛、鳥居、建物	玄室側壁	22
深谷田横穴墓	出雲市芦渡町	人物、	玄室側壁	23
飯ノ山横穴墓	西郷町	人物、動物	奥壁	24
上塙治横穴墓群	出雲市上塙治町	人物、建物、帆船	玄室全壁	…
23-7号穴				

表3 島根県内の横穴墓に描かれた壁画一覧表

また、22-10号穴の床面は頭部に当たる部分が枕状に掘り廻められていた。横穴墓や尻床での類例としては大田市久手町大師堂山横穴墓、<sup>(注11)</sup> 福岡県中間市宮田山7号穴、安来市飯生町飯生八幡山2号穴、安来市飯梨町鷺の湯病院跡2号穴、<sup>(注12)</sup> 安来市矢田町矢田2-1号穴、<sup>(注13)</sup> 松江市山代方墳、<sup>(注14)</sup> 福岡県王塚古墳、<sup>(注15)</sup> 宮崎県平清水2号穴、南平1号穴、南平2号穴、一本木横穴墓、吾平原横穴墓、春姫登横穴墓<sup>(注16)</sup>などがある。時期がわかるもので、一番占いものは下塚古墳であり、分布は九州地方に多い。しかし、石枕は古墳時代前期から中期にかけても存在し、土器枕<sup>(注17)</sup>などは弥生時代にも存在していることから、これらを含めて系譜などは考えなければいけない。

## 5. 石棺

33-6、7号穴からは家形石棺が検出された。33-6号穴は出雲4期で、山雲平野で横穴墓に内蔵される石棺では一番古い。石棺の形態は特徴的で、天井には分銅形の棟線を持ち、側壁と天井石が一枚の石で造られている。小口側には繩掛突起も大きく存在している。分銅形の天井石は大念寺古墳にも見られ、大古墳に採用された形態が横穴墓にも採用されたと考えられる。ただ、出雲5期の33-7号穴の天井石はすでに棟線が線状になり、同時期と考えられる石室墳の石棺が幅広の棟を持つことから、横穴墓の石棺は石室墳より早く線状の棟線になった可能性もある。しかし、33-7号穴の石棺については天井石の色や工具痕が2枚の石で違い、追葬や再利用の可能性があり、また、空間が狭いための技法とも考えられ、慎重に検討しなければならない。

## 6. 玄門部・前庭部

第22・35支群の玄門部は天井と側壁の界線が明瞭で、断面方形を呈する。第23支群では側壁は垂直気味に立ち上がるが、天井頂部で丸い釣り鐘状を呈する。前庭部は幅広のものが多く、22-4号穴など前庭部床面を人工的に埋め、平坦面を造ったと考えられるものもある。出雲東部においても、前庭部先端を盛土で形成したものがあり、<sup>(注5, 10)</sup> 横穴墓の一般的なものであろう。

22-13号穴は二重羨道になっており、出雲東部に分布する「意字型」横穴墓<sup>(注18)</sup>に似る。出雲6期の横穴墓であり、出雲東部から直接伝播したと考えるより、石棺式石室の影響を受けた地蔵山古墳、小坂古墳、大坂古墳<sup>(注19)</sup>などの横穴式石室を内部主体に持つ古墳との関連を考えたほうが自然ではないだろうか。羨道部の天井形態など不明な点も多く、類例を待ちたい。

第23支群は玄室床面と玄門部床面が段差を持ち、玄門部と玄室を区別している。神門横穴墓群や立花町鬼限横穴墓群には同じ場所に石を置いたり、溝や段を持つ横穴墓があり、<sup>(注8, 19)</sup> 玄室と玄門部を区別する意識がある可能性がある。

第33支群の前庭部は墓道と表現した方がよく、幅0.6~1.15mと狭く、奥行き2.8~3.3mと長い。この支群は出雲4、5期の山雲西部でも導入期のものが多く、疊層に掘られている。山雲東部でも導入期の横穴墓は墓道を持っている。<sup>(注4, 18)</sup> この特徴は疊層で天井部が崩れやすいと言う地質的な要因とともに横穴墓の導入段階の形態と思われる。

各横穴墓は急な斜面に位置するが多く、横穴墓に行くための墓道の存在は考えられる。今回斜面を発掘し、22-6号穴、22-12号穴、23-4号穴の周辺から岩盤を削った平坦面を確認した。また、22-10号穴や22-15号穴の前庭部前方には凝灰岩の碎片が堆積した幅0.5~1mの平場があった。これらは、横穴墓掘削時に使用した可能性もあるが、横穴墓使用時にも通路として使用していたものと考えられる。

支群名	横穴墓	玄室形態	主軸方向	岩盤	閉塞方法	出土土器				備考
						4期	5期	6期	6期d	
7	1	ドーム形	S-15°-W	凝灰岩	押さえ石					未使用
	2	ドーム形	S-43°-W	凝灰岩	押さえ石		○			
	3	家形	S-51°-W	凝灰岩						
	4		S-19°-W	凝灰岩						
12	1	アーチ形	N-66°-E	砂岩	押さえ石					未成形
	2	アーチ形?	N-51°-E	砂岩			○	○		
	4	ドーム形	N-59°-E	砂岩						
	1	アーチ系切妻家形	N-61°-W	凝灰岩		○	○			
22	2	アーチ系切妻家形	N-45°-W	凝灰岩	凝灰岩切石	○	○	○	○	石床
	3	整正家形	N-40°-W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚	○	○	?		
	4	整正家形	N-47°-W	凝灰岩	凝灰岩切石	○	○			屍床
	5	アーチ系寄棟家形	N-39°-W	凝灰岩	凝灰岩切石	○	?			
	6	整正家形	N-33°-W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚	○	○			
	7	整正家形	N-12°-W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚	○				屍床
	8	整正家形	N-62°-W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚	○				
	9	整正家形	N-72°-W	凝灰岩	凝灰岩切石	○				
	10	アーチ系寄棟家形	N-67°-W	凝灰岩						屍床
23	11	整正家形	N-69°-W	凝灰岩		○?	○?	○?	○?	
	12	整正家形	N-54°-W	凝灰岩						
	13	整正家形	N-34°-W	凝灰岩		○				
	14	アーチ系切妻家形	N-31°-W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚	○				
33	15	整正家形	N-35°-W	凝灰岩		○				
	16	整正家形	N-40°-W	凝灰岩		○	○	○	○	
	17	アーチ形	N-41°-W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚	○	○	?		
	18	整正家形平入	S-61°-W	凝灰岩	凝灰岩切石	○	○	○	○	屍床
	19	アーチ系寄棟家形	N-73°-W	凝灰岩	凝灰岩切石1枚	○	○			
	20		N-44°-W	凝灰岩						
	21	ドーム形	S-56°-W	砂岩		○				
	1	アーチ形	S-35°-E	砂岩	凝灰岩・砂岩切石	○				
	2	アーチ系寄棟家形	S-34°-E	砂岩		○	○	○	○	屍床
35	3	アーチ形	S-23°-E	砂岩		○	○	○	○	
	4	アーチ形	S-30°-E	凝灰岩	凝灰岩切石	○				屍床
	5	アーチ形	S-11°-E	砂岩	凝灰岩切石	○	○	○	○	屍床
	6	アーチ系切妻家形	S-7°-E	砂岩		○				
	7	アーチ系切妻家形	S-26°-E	砂岩		?				屍床
	3	丸天井	S-60°-E	礫層	押さえ石?	○				
	4		S-64°-E	礫層		○	○			
36	5		S-51°-E	礫層	自然石	○				
	6	丸天井	S-47°-E	礫層	砂岩切石	○				家形石棺
	7		S-46°-E	礫層	砂岩切石	○				家形石棺
	8	丸天井	S-40°-E	礫層		○	○			
37	1	整正家形	S-55°-E	砂岩	砂岩切石	○	○			
	1	ドーム形	S-5°-W	砂岩	押さえ石	○				
36	2	整正家形	S-11°-W	砂岩	凝灰岩切石	○	○	○	○	
	3	ドーム形	S-5°-W	砂岩		○	○	?		
	1	アーチ形	S-68°-E	砂岩						

表4 上塩冶横穴墓群形態一覧表 玄室形態や出土土器の時期は山陰横穴墓調査検討会『出雲の横穴墓』1997

丸天井はドーム形、アーチ形のどちらかわからぬときに使用した。

出土土器の○はその時期の蓋坏の存在を表す。

6期dは「B1」がある時に○をした。6期については検討を要する。

主軸方向は横穴墓によって磁北と座標軸方向の違いがある。

支群名	横穴墓	須恵器	土師器		装身具		鉄器			その他
			环	高环	玉類	耳環	大刀	刀子	鉄鎌	
7	1		◎							陶磁器 銅製つまみ 陶磁器
	2	○								?
	3									
	4									
12	1	○					●	○	○	
	2	○		◎		○	●	○		
	3	○	◎						○	
	4	○					○			
	5	○					○	○		
	6	○								
	7	○			○	○	○	○	○	古鏡
	8	○	○							
	9	○			○	○			○	金糸、金製の環
	10									
	11	○	◎							
	12						○			馬具
22	13	○							○	
	14	○	◎				○	?	○	馬具
	15	○	◎						○	馬具
	16	○			○	○			○	
	17	○					○			
	18	○							○	
	19	○						○	○	鉄斧
	20									
	21	○								
	1	○	◎			○	○	○	○	
	2	○		○				○	○	
23	3	○		○						
	4	○				○			?	
	5	○			○	○	○	○	○	鉄斧、銅碗、鏡
	6	○			○					
	7	○			○	○	●			馬具
	3	○							○	
	4	○							○	
	5	○			○	○				
33	6	○			○					鉄斧
	7	○			○					鉄斧
	8	○								
	35	1	○		○	○	○	○	○	紡錘車
	36	1	○				●			
	2	○					○	○		
	3	○						○		馬具
	37	1								鉄津

表5 上塙治横穴墓群出土遺物一覧表

◎中世土師器

●装飾大刀

## 7. 閉塞方法

閉塞方法のわかるものを表1にまとめた。切石の凝灰岩や砂岩を使用するものが多く、その中でも1枚で閉塞するものと複数の石を使用するものがある。整正家形の横穴墓は切石1枚で閉塞するものが多い。しかし、他の支群を見るとそうとも限らない。36-2号穴は砂岩に掘られているが、閉塞石は凝灰岩であり、23-7号穴は凝灰質砂岩に掘られているが砂岩の閉塞石を使うなど、石材の移動の問題もある。また、閉塞施設としては砂岩や白石がまとめて出土する横穴墓がある。玄門部前の溝や出土状況から切石の閉塞石や閉塞板などを押さえるためのものと思われる。

## 8. 壁画

23-7号穴から壁画と格子文を確認した。県内例は表3で10箇所確認できる。人物や帆船が多い。23-7号穴は奥壁に人物、右側壁に帆船、建物の中に人物が描かれている。船は三角マストあるいは方形のマストである。壁画の線は玄室の天井部に書かれた横線や縦線と同じ深さや風化度合いであり、同時期と思われる。出土遺物として須恵器などの横穴墓使用時の遺物の他に、北宋錢や近世の磁器があり、また、開口していることから、壁画が描かれた時期は不明といわざるを得ない。さらに、島根県内の他例も壁画が描かれた時期は確実なものはなく、今後の類例の増加に待ちたい。

## 9. その他

第22支群SK01や第23支群SK01はどちらも谷の先端側に位置し、横穴墓群の一一番端である。この周辺は凝灰岩や砂岩が崩壊し、層自体も薄くなる。横穴墓の掘削途中とも考えられるが、性格は不明である。また、7-4号穴は凝灰岩と砂岩の境に位置し、横穴墓の中心が礫層にある。この場所には横穴墓は作れず、この遺構の性格は不明である。

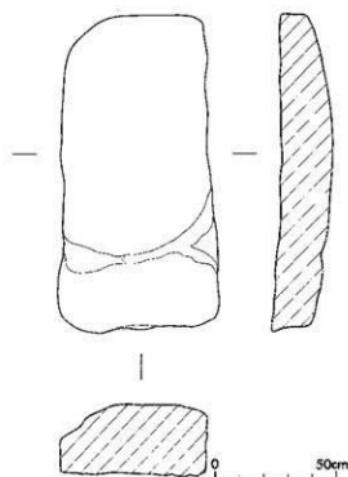
## II、遺物について

今回の調査では47穴の横穴墓を検出した。しかし、横穴墓は全て開口したり、盗掘を受けており、出土した遺物が全て横穴墓の埋葬にかかる遺物とは考えられない。よって、横穴墓の築造時期や追葬時期などを考えるには問題が多いと思われる。遺物の詳細を表5にまとめた。

### 1. 石製品

22-16号穴の前底部から長さ1.3m、幅0.2×0.6mの直方体の切石が出土した。同様なものが21-1号穴の玄室から2個出土している。<sup>(4)(5)</sup> 1つは長さ60cm、18×33cmを測り、もう1つは長さ58cm、14×29cmを測る。これらは横穴墓の掘られた凝灰岩と同質であり、閉塞に使用されたものか、棺台かは不明である。

22-1号穴と2号穴の間からも長方形の石材が検出で



第216図 上塩治横穴墓群22-6号穴  
出土石材実測図 (S=1/20)

きた。石棺の大井石と推測されるが、閉塞石の可能性も指摘されている。<sup>(130)</sup> 石材を動かすと裏面は平坦で、石棺の蓋石と同じような形態・規模である。周囲から遺物はなく、時期や用途は不明である。

## 2. 赤色顔料

上塙治横穴墓群33-7号穴出土の环身（第84図14）内には赤色顔料が付着していた。赤色顔料については島根県の類例は飯塚康行氏によってまとめられている。<sup>(131)</sup> 横穴墓の例として、出雲市祝廻横穴墓（环身）、<sup>(132)</sup> 松江市弥陀原4号穴（环蓋2個の内面）、<sup>(133)</sup> 松江市奥山B-1号穴（环身の底部内面）、<sup>(134)</sup> 大田市松田谷II-4号穴（环身环蓋各1個）、<sup>(135)</sup> 海上町高津久横穴墓群（須恵器内）<sup>(136)</sup> がある。飯塚氏は大まかに3区分し、これらの使用法を「副葬品的な使用」と位置づけて、「塊状に顔料を副葬した3類から横穴墓に見られるような环類に納めて副葬する」流れがあるとした。今回の上塙治横穴墓群33-7号穴出土例もこの流れに当てはまると思われる。さらに、33-7号穴からは赤色顔料を塗布した高环が出土している。他の例も詳細に見ると、赤色顔料を塗布した高环や玄室内に散布した弥陀原4号穴などがあり、他の用途で使用した赤色顔料を入れた蓋环を横穴墓に副葬したと思われる。

## 3. 金製品（表6）

22-9号穴からは金糸とともに金製の環が大小の2点出土した。両方の表面にはきざみ目が施されていた。全国でも2例と少なく、特異なものである。類例としては7世紀前葉から後葉にかけての岡山県北房町定東塚古墳があり、大小2点出土している。<sup>(137)</sup> 定東塚古墳からは金糸も出土しており、9号穴との出土遺物の組成が似る。使用方法は不明であるが、朝鮮半島では冠に勾玉を繋ぎ留める金具<sup>(138)</sup> や刀子の鍔に類似した金具<sup>(139)</sup> がある。

金糸は島根県2例目で、前回出土した21-10号穴は裏側斜面に位置する。他県の例を見ると、6世紀中頃の甲山古墳が最も古く、6世紀後半から7世紀の古墳に副葬されるものが多い。また、古墳の

表6 金糸出土古墳一覧表

名 称	所 在 地	主 体 部	出 上 位 置	時 期	文 献
上塙治横穴墓群21-10号穴	出雲市上塙治町	横穴墓	玄室東側ベッド上、中央付近		17
上塙治横穴墓群22-9号穴	出雲市上塙治町	横穴墓	玄室東から玄門部		
阿武山古墳	大阪府高槻市	石棺式石室	頭から脣部、脣甲骨上の樹皮の上	7 C	25
塙堀古墳	大阪府河南町	石棺式石室	羨道付近	7 C 3 / 4	26
池尻15号墳	兵庫県加古川市	横穴式石室			27
甲山古墳	滋賀県野洲町	横穴式石室	石棺のそば	6 C 1 / 1	28
志島10号墳	三重県				
上総金鈴塚古墳	千葉県木更津市	横穴式石室		6 C 末 ~ 7 C 中	29
福塚40号墳	千葉県成田市	箱形石棺	足下付近	7 C 初 ~ 前葉	30
石川稲荷山古墳	群馬県高崎市	横穴式石室	玄室左側	6 C 後 ~ 6 C 末	31
マケン塚II-C支群19号穴	鳥取県西伯町	横穴墓	人骨の下	6 C 後 ~ 7 C 前	32
定東塚古墳	岡山県北房町	横穴式石室		7 C	33

規模を見ると、古墳が存在する地域の有力な古墳であることが多く、規模もその地域では相対的に大きい。この傾向から鳥取県マケン編横穴墓群や上塩治横穴墓群の性格をうかがうことができる。

上塩治横穴墓群では22-1号穴<sup>(注20)</sup>や33-1号穴<sup>(注20)</sup>から金銅装大刀、22-2号穴や23-7号穴や32-6号穴と思われる横穴墓<sup>(注21)</sup>から銀装大刀が出土している。上塩治横穴墓群の周囲には同時代の横穴式石室が少なく、また、他の副葬品や石棺の存在から見ても上塩治横穴墓群にはかなり有力者も横穴墓に埋葬されていると考えられ、安来地方の横穴墓もかなりの有力者が埋葬されており、類似した性格を見てとれる。<sup>(注22)</sup> 上塩治横穴墓群でも、三田谷に面した横穴墓と大井谷に存在する横穴墓とでは副葬品や規模で画一的でなく、三田谷の横穴墓の優位性が指摘されている。<sup>(注23)</sup>

#### 4. 須恵器

上塩治横穴墓群からは多数の須恵器が出土し、それらはすでに上塩治横穴墓群第20・21支群<sup>(注24)</sup>や上塩治横穴墓群第14~16支群<sup>(注25)</sup>で出土した蓋壺類を中心に分類されている。また、近畿地方の須恵器との関係は、前者ではTK217併行、後者ではTK209からTK217併行と考えられている。

今回の調査では出雲4期から7期までの須恵器が出土した。35-1号穴や36-1・3号穴からはあまり見ない低い高台を持つ壺身が検出された。また、受け部のない壺身でも底部がケズリのままのものとケズリ後ナデが施されているものがあり、傾向として前者の方が口径が大きい。今回は壺蓋と壺身のセット関係を検討できなかった。

横穴墓出土遺物であり、追葬など一括りに乏しい資料ではあるが、各種形態が出土しており、6世紀後半から7世紀代の須恵器の変化をうかがうことができる。蓋壺のセット関係は第33支群の資料や22-11号穴出土の土器(第168-31~33)が参考になる。

上塩治横穴墓出土須恵器で一番古手のものは33-6号穴出土須恵器で、壺蓋は口径11.8~12.6cm、器高3.7~4.5cm、壺身は口径9.9~10.7cm、器高3.5~4.1cmを測り、天井部や底部はヘラケズリが施されている。次は33-7・8号穴のヘラケズリが見えない蓋壺である。壺蓋の口径は11.8~13.5cm、器高4.0~4.5cm、壺身の口径は10.5~11.7cm、器高3.7~4.1cmを測る。なお、33-7号穴の蓋の中には有蓋高壺の蓋も入っているが、規模や形態は酷似している。口径や器高が小さくなる傾向があり、その後は蓋壺の逆転した形態のものが出現し始める。この出現期は未だ押さえられていないが、八束郡八雲村折原上堤東遺跡SK06山上遺物<sup>(注26)</sup>や渋山池遺跡SB11出土遺物<sup>(注27)</sup>などを参考に上塩治横穴墓群でも検証していく必要がある。さらに、高台付身(壺B)の出現時期も問題である。<sup>(注28)</sup> 今後の課題としておきたい。

#### 5. 銅碗

古墳出土の銅碗は毛利光氏により分類され、<sup>(注29)</sup> 23-5号穴出土品は無高台の小型品と思われ、この形態は7世紀に出土し始めるという。島根県での銅碗の山上は邇摩郡仁摩町明神古墳、<sup>(注30)</sup> 隠岐郡知夫村多沢横穴墓<sup>(注31)</sup>がある。明神古墳は横穴式石室で、家形石棺を内蔵している。遺物は玄室内の2か所にまとめており、銅碗は北西隅に須恵器や金銅装大刀などと共に出土している。多沢横穴墓は削り出しの屍床をもち、玉類や大刀、耳環、土器、7世紀代の須恵器と共に銅碗の蓋が出土している。

### III、上塩治横穴墓群のまとめ

上塩治横穴墓群は島根県下最大級の横穴墓群で、出雲4期から出雲8期まで継続している。出雲4期から築造が始まり、当初は礫層など軟質な土層に掘られた。形態としては縦長方形プランで、丸天井系で、横穴墓の中には石棺を内蔵するものもある。周辺の横穴墓では地蔵堂北横穴墓群<sup>(注3)</sup>や井上横穴墓群<sup>(注3)</sup>、祝迦横穴墓<sup>(注4)</sup>などがあり、出雲平野でも点々と分布し、数も少ない。

出雲5期になり、急激に数を増加させ、凝灰岩にも掘り込まれ、併せて切妻家形、寄棟家形、整正家形などの家形や正方形プランも出現する。<sup>(注4,注5)</sup>さらに、出雲6期には追葬も合わせ、上塩治横穴墓群は最盛期を迎える。この時期、石棺や装飾大刀や金製品を持つものがあり、横穴式石室壇の減少と横穴墓の増加には密接な関係があると思われる。周辺の遺跡でも出雲4期から続く神門横穴墓群などは上塩治横穴墓群に匹敵する大横穴墓群になる。出雲平野東部でも斐川町平野西横穴墓群<sup>(注6)</sup>やその周辺の横穴墓群が当てはまる。墓域を決めたかのように横穴墓が集まり、大横穴墓群を形成するのもこの時期である。出雲東部では横穴墓数が減少していくこの時期、出雲平野の横穴墓の数は増加している。

出雲7期の須恵器を出土する横穴墓は急激に減少する。また、前代の上器とともに出土していることから初葬とは考えられず、追葬と思われる。さらに、上塩治横穴墓群では今のところ見つかっていないが、糸切りを持つ須恵器も横穴墓から出土し、<sup>(注7)</sup>出雲8期まで横穴墓は使用されていたと考えられるが、数は少ない。

上塩治横穴墓を中心に出雲平野の横穴墓を概観した。しかし、上塩治横穴墓群以外の横穴墓群の様相が不明であり、今後の発掘調査で、新たな知見が得られると思われる。

古墳名	所在地	墳形	墳丘規模	玄室規模 幅×長さ	石室主軸	時期	備考	文献
若塚古墳	安来市久白町	方墳	11	.15×1.95	S-2° -W			3 4
イガラビ2号墳	松江市大井町	方墳	6.64×6.4	1×1.6	S-17.5° -E	6期	列石	3 5
イガラビ3号墳	松江市大井町	方墳	4.7×4.1	0.7×1.7	S-22.5° -E	6,8期	列石	3 5
イガラビ4号墳	松江市大井町	方墳		1×1.95				3 5
イガラビ5号墳	松江市大井町	方墳	4.5×4	0.9×1.5				3 5
イガラビ6号墳	松江市大井町	方墳	5.3×5	1.1×2.8	S-18° -E	6期?		3 5
イガラビ8号墳	松江市大井町	方墳	7×5.5	0.9×2.6				3 5
池の奥2号墳	松江市大井町	方墳	9×9.4	1.28×1.85				3 5
堀原1号墳	松江市朝日町	方墳	10	0.74×1.61	S-8° -W			3 4
阿弥陀寺古墳	松江市福富町			1.5×1.6	S-7° -E			3 4
古妙見古墳	松江市坂本町			1.2×1.8	S-13° -E			3 4
鏡北廻古墳	宍道町東来待	方墳	10数	1×1.8	S-2° -W			3 4
講武岩屋古墳	鹿島町北講武			1.35×1.8	S-28° -E			3 4
人井谷古墳	出雲市上塩治町	方墳	7×7.5	1.05×1.65	S-11.5° -E	6期	列石	
高野1号墳	斐川町下阿宮			0.95×1.93	S-11° -W			3 4
高野2号墳	斐川町下阿宮			0.9×1.8	S-11° -E			3 4
高野3号墳	斐川町下阿宮			1.2×2.4	S-11° -W			3 4
布子谷古墳	斐川町阿宮	方墳	10	1.3×1.9	S-6° -W			3 4
武部西古墳	斐川町武部			1.1×1.95	S-13° -E			3 4
切石古墳	佐田町朝原			0.85×2.5	S-20° -E			3 4

表7 古墳一覧表

時期は山陰横穴墓研究会『出雲の横穴墓』 1997

#### IV、上塩治横穴墓群と横穴式石室

上塩治横穴墓群の所在する墓域内には、三田谷1、2号墳、大井谷古墳などがある。三田谷2号墳は出雲3～4期で、上塩治横穴墓群が形成される直前あるいは一部かかる時期のものであった。また、大井谷古墳は周辺から出雲6期の須恵器が出土しており、上塩治横穴墓群が盛行していた時期に当たる。

同時期や同形態の石室を表7に集めた。安来市若塚古墳や松江市廻原1号墳などの単独墳と松江市イガラビ古墳群のような群集するものに分けられる。大井谷古墳は周囲を発掘したが、1基しかなく単独墳と思われる。大井谷古墳は、上塩治横穴墓群の墓域内にあり、横穴式石室と横穴墓が混在した状況で、花田氏の分類では龍王山型になり、7世紀に登場するという。<sup>(注42)</sup> 大井谷古墳の副葬品は不明であり、横穴墓との被葬者の違いについては今後の課題にしたい。

#### 大井谷城跡・半分城跡

大井谷城跡では南1郭、南2郭を中心に調査した。南1郭は主郭の背後に位置するが、細片ながら中国製青磁や鉄軸などが出土したが、焼物跡はなく、造成面のみであった。一方、南2郭は掘立柱建物跡を確認したが、遺物はない。また、半分城跡では加工段のみ確認した。これらの遺構遺物の違いは各郭の機能の違いと思われ、他の郭の時期や遺構が不明な現地點では、各郭の機能は即断できない。

島根県内で同時期の可能性がある山城跡は時期を決める出土遺物が少なく、検索は困難であるが、斐川町大井城跡、松江市茶臼山城跡がある。これらの山城跡からは瀬戸美濃系陶器や青磁や白磁が出土しており、山頂部で、何らかの活動が行われていた可能性がある。

表8 島根県における発掘調査された山城

遺跡名	所在地	加 工 施 設	堆 積 土 坑	上 方 櫛	その他の	赤 胎 殻	備 前 磁	青 磁	白 磁	美 濃	古 銭	その他の	文献	
猿道城跡	邑智郡瑞穂町	○	○		ピット								36	
堀越城跡	邑智郡瑞穂町	○	○		通路状遺構、堀切		○	○					37	
長瀬地木谷城	邑智郡瑞穂町	○											38	
滝ノ屋谷城跡	邑智郡瑞穂町		○		石列、ピット			○					39	
桜尾城跡	邑智郡瑞穂町	○	○		ピット、堀切								39	
森迫城跡	邑智郡瑞穂町		○		ピット								39	
内ケ原城跡	邑智郡瑞穂町		○		ピット、溝	○	○						39	
日和城跡	邑智郡石見町	○	○	○	溝		○	○	○			石口 鉄鍊	40	
丸山城跡	邑智郡川本町		○				○	○	○	○		橋軸	41	
七尾城跡	益田市七尾町		○				○	○	○	○			42	
半分城跡	出雲市上塩治町	○	○	○	土壘	○		○				石臼、鉄鍊	43	
大井谷城跡	出雲市上塩治町	○	○	○	石列、堀切	○	○					瓦器、鉄軸	43	
富岡城跡	能義郡広瀬町	○	○	○			○	○	○	○		肥前系陶器	44	
松江城跡	松江市殿町	○	○	○	門、トイレ	○		○	○	○			肥前系陶器、萩焼、檍、瓦石	45
稻葉城跡	松江市西尾町	○	○		ピット		○	○	○				46	
荒野城跡	松江市国原町	○		○	土壘	○	○	○	○			瓦石、鏡、硯、陶器	47	
茶臼山城跡	松江市山代町	○			横穴遺構	○	○	○	○			瓦質土器、埴行、鐵片	48	
池平城跡	八束郡鹿島町												49	
大井城跡	簸郡都斐川町	○		○	空堀、土壘		○					瀬戸、常滑系	50	
人谷城跡	人原郡加茂町	○			集石、ピット	○		○					51	
佐世城跡	大原郡大東町												52	
三刀屋城跡	簸郡二刀屋町	○			石垣、石列	○						陶磁器	53	
じゃ山城跡	簸郡三刀屋町							○	○			常滑	53	
羽森城跡	簸郡郡掛合町												54	

注

- 1 島根県教育委員会他『山雲・上塙治地区を中心とする埋蔵文化財調査報告』 1980
- 2 第61図の1や2にも横穴墓が存在する。1は丘陵先端の凝灰岩に存在する。
- 3 松山智弘「出雲平野の横穴墓に見られる造墓技術について」『島根考古学会誌12』 1995
- 4 人谷晃二「出雲地方の須恵器編年図」「出雲の横穴墓」山陰横穴墓研究会 1997  
大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌11』 1994
- 5 島根県教委員会他『島田池遺跡・鶴貫遺跡』 1997
- 6 島根県教育委員会他『大井谷石切場跡・上塙治横穴墓群第14支群・上塙治横穴墓群第15支群・上塙治横穴墓群第16支群』 1997
- 7 門脇俊彦「山陰地方横穴墓序説」「古代文化談叢7」 1980
- 8 松山智弘「出雲平野における横穴墓の形態変遷」「出雲の横穴墓」山陰横穴墓研究会 1997
- 9 東森市良他「安来市・飯梨穴神古墳」「島根考古学会誌13」 1996
- 10 島根県教育委員会『上塙治横穴墓群第20・21支群』 1995
- 11 山本清「古墳の示す三瓶周辺の文化」「山陰文化研究紀要3」 1962
- 12 大谷晃二「彩色横穴墓の謎に迫る 安来市穴神横穴墓シンポジウム」 1995
- 13 山本清「安来・矢田横穴群」「島根県埋蔵文化財調査報告書I」 1995
- 14 出雲考古学研究会『石棺式石室の研究』 1987
- 15 京都帝國大学文学部考古学研究報告15『筑前国嘉德郡王塚装飾古墳』 1940
- 16 長津宗康「日向の横穴墓」「おおいた考古4」 1991
- 17 豊岡市立郷土資料館他『七川塚古墳群』 1978
- 18 島根県教育委員会他『岩屋口北遺跡・臼コクリ遺跡(F区)』 1997
- 19 福岡県立花町教育委員会『鬼隈横穴群』 1987
- 20 西尾克己・角田徳幸「出雲・上塙治横穴群第22支群」「島根県埋蔵文化財調査報告書XII」 1986
- 21 松江市教育委員会他『笠代1号境外発掘調査報告書I』 1994
- 22 西尾良一・黒谷達典「祝賀横穴」「出雲・上塙治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告」 1980
- 23 岡崎雄二郎・飯塚康行「松江・弥陀原横穴群」「島根県埋蔵文化財調査報告書XVII」 1991
- 24 島根県教育委員会『奥山遺跡発掘調査報告書』 1998
- 25 島根県教育委員会『大田市松田谷横穴群』 1982
- 26 西尾克己「高津久古墳について」「隱岐の文化財15」 1998
- 27 岡山大学考古学研究室定古墳発掘調査団『定古墳発掘調査現地説明会資料』 1997
- 28 岡山大学新納泉助教授のご教示による。
- 29 平田洋司「森の宮遺跡の銀装刀子」「薪火58」 1995
- 30 出雲市教育委員会松山智弘氏のご教示による。
- 31 山本清「横穴被葬者の地位をめぐって」「島根考古学会誌1」 1984
- 32 八雲村教育委員会『折原上提東遺跡発掘調査報告書』 1994
- 33 島根県教育委員会他『淡山池遺跡・原の前遺跡』 1997
- 34 菅田哲郎「近畿地方西部・山陰・山陽」「古代の土器研究 第5回シンポジウム7世紀の土器」 1997
- 35 毛利光俊彦「古墳出土銅鏡の系譜」「考古学雑誌64-1」 1988
- 36 「新指定文化財二件」「季刊文化財57」島根県文化財愛護協会 1982
- 37 内田律雄「原始・古代の遺跡」「新修知夫村誌」 1996

- 38 出雲市教育委員会『地蔵堂横穴墓群発掘調査報告書』 1994
- 39 出雲市教育委員会『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書19』 1997
- 40 西尾克己他「出雲西部における横穴墓の様相」『湖陵町誌研究1』 1992
- 41 斐川町教育委員会『平野遺跡群発掘調査報告書I・II』 1983・84
- 42 放れ山横穴墓群から出土している。島根県教育委員会平石充氏のご教示による。
- 43 花井勝広「畿内横穴墓の特質」『古文化談叢22』 1990

## 文献

- 1 「大日本地誌体系 墓陽志」雄山閣 1971
- 2 渡辺貞幸「ガウランド氏と山陰の古墳」『八雲立つ風上記の丘37』 1979  
「安井の村付近のドルメン群に隣接する横穴墓」出土のロクロ使用の土師器3つを紹介
- 3 野津左馬之助『島根県史4』 1925
- 4 山本清「上塙治方面の横穴群など」『出雲市誌』1951
- 5 門脇俊彦「横穴考」『島根史学4』 1954
- 6 門脇俊彦「出雲國大井谷横穴群の研究」『私たちの考古学8』 1956
- 7 池田満雄「上塙治地区の横穴」『出雲市の文化財1』 1956
- 8 山本清「横穴の型式と時期について」『島根大学論集11』 1962
- 9 山本清「山陰の石棺について」『山陰文化研究紀要10』 1970  
『出雲の古代文化』 1989  
半分連藤山横穴、工業高校裏横穴の家形石棺を紹介
- 10 出雲市教育委員会『半分城跡横穴群発掘調査報告』 1979
- 11 島根県教育委員会他「出雲・上塙治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告」 1980
- 12 門脇俊彦「山陰地方横穴墓序説」『古文化談叢7』 1980  
上塙治横穴墓群を代表させ、出雲市周辺に分布する横穴墓は四注式系整正妻入形とする
- 13 山本清「横穴被葬者の地位をめぐって」『島根考古学会誌1』 1984
- 14 角田徳寧・西尾克己「出雲・上塙治横穴群第22支群」『島根県埋蔵文化財調査報告書VI』 1986
- 15 山本清「出雲地方における石棺を内蔵する横穴について」『斎藤忠先生記念論集 考古学叢考下』 1988
- 16 西尾克己・丹羽野裕「山陰の横穴墓」『おおいた考古』4 1991
- 17 島根県教育委員会『上塙治横穴群第20・21支群』 1995
- 18 出雲市教育委員会『時代を超えて—斐伊川放水路発掘調査現地説明会資料ー』 1997  
出雲市教育委員会『タイムかがませる—斐伊川放水路発掘調査だよりー』 1996~98
- 19 島根県教育委員会『大井谷石切堀跡・上塙治横穴墓群第14・15・16支群』 1997
- 20 島根大学考古学研究会「十干免横穴群発掘調査報告」『吉田考古10』 1968
- 21 島根県教育委員会『狐谷横穴群』『島根県埋蔵文化財調査報告書VII』 1977
- 22 島根県教育委員会他「島田池遺跡・鶴賀遺跡」 1997
- 23 池田満雄「芦渡町深田谷横穴」『出雲市の文化財2』 1960
- 24 勝部明生:「飯の山横穴」『隱岐』 1968
- 25 大阪府教育委員会「阿武山古墳」『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告書7』 1936
- 26 北野耕平・富野「大阪府平石塚廻古墳」『日本考古学協会32』 1982
- 27 加古川市教育委員会『印南野』 1965

- 28 野洲町教育委員会『甲山古墳発掘調査現地説明会資料』 1996
- 29 千葉県教育委員会『上総企鵠塚古墳』 1951
- 30 千葉県企栄庁『公津原』 1975  
安藤鴻基「千葉県成田市瓢塚40号墳の資料吟味」『千葉県立房総風土記の丘年報13』 1990
- 31 高崎市教育委員会『石原福荷山古墳』 1981
- 32 西伯町教育委員会『マケン堀古墳群 北福王子遺跡』 1990
- 33 阿山大学考古学研究室定古墳発掘調査団『定古墳発掘調査現地説明会資料』 1997
- 34 山雲考古学研究会「石棺式石室の研究」「古代の出塗を考える6」 1987
- 35 松江市教育委員会他『イガラビ古墳群他』 1990
- 36 瑞穂町教育委員会『琢道城跡発掘調査報告書』 1989  
瑞穂町教育委員会『琢道城跡発掘調査報告書』 1992
- 37 瑞穂町教育委員会『慶光坊遺跡(崩越城跡)発掘調査報告書』 1995
- 38 瑞穂町教育委員会『長源地本谷城跡発掘調査報告書』 1997
- 39 島根県教育委員会『中間横断自動車道宍道浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』 1991
- 40 石見町教育委員会『日和城跡調査報告書』 1996
- 41 川本町教育委員会『丸山城跡』 1997
- 42 益田市教育委員会『益田氏関連遺跡群－I・II－』 1993、1994
- 43 出雲市教育委員会『中国電力高圧送電線塔工事にともなう大井谷城跡・半分城跡発掘調査報告書』 1979
- 44 広瀬町『史跡富田城跡環境整備に伴う発掘調査報告』 1977  
広瀬町教育委員会『史跡富田城跡菅谷地区』 1985  
島根県教育委員会『史跡富田城関連遺跡群発掘調査報告書』 1983
- 45 松江市教育委員会『史跡松江城－昭和54年度環境整備事業報告書』 1980  
松江市教育委員会『史跡松江城－昭和57年度環境整備事業報告書』 1983  
松江市教育委員会『史跡松江城－昭和59年度保存修理事業報告書』 1985  
松江市教育委員会『史跡松江城－昭和60年度保存修理事業報告書』 1986  
松江市教育委員会『史跡松江城上御殿跡発掘調査報告書』 1987  
松江市教育委員会『史跡松江城発掘調査一二の丸番所跡』 1993
- 46 松江市教育委員会『岩穴平・福葉城跡』 1981
- 47 松江市教育委員会『荒脛城跡』 1982
- 48 島根県教育委員会『風土記の丘地内発掘調査報告VII』 1990
- 49 鹿島町教育委員会『島根原子力発電所2号機資材運搬道路新設に伴う氏平遺跡発掘調査概報』 1983
- 50 斎川町教育委員会『大井城跡発掘調査報告書』 1983
- 51 速岡法隆「加茂・人谷城跡」『島根県埋蔵文化財発掘調査報告書X』 1983
- 52 大東町教育委員会『丸子山城跡・福富城跡・佐世城跡』 1988
- 53 三刀屋町教育委員会『三刀屋城跡調査報告書Ⅰ～Ⅲ』 1982～1987  
三刀屋町教育委員会『半成元年度予防治山事業の施行に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1990
- 54 桂合町教育委員会『羽森城跡・羽森1号炉跡発掘調査報告書』 1997

## 土器・陶磁器観察表

件番 図版	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
6-1 9	上沢II遺跡 里 (土師器)		口径8.2 底高6.2 底径1.5	外面：底部糸切り その他：回転ナデ 内面：回転ナデ	密	良好	橙色	底部内面に形押し文様あり
6-2 9	上沢II遺跡 环 (陶器)		口径5.7 高さ2.2 底径3.0	外面：底部露胎 その他：施釉 内面：全面施釉、3本単位の捺目	密	良好	褐色；黄色 断面：淡黄灰色	
6-3 9	上沢II遺跡 德利 (陶器)		口径2.8	外面：回転ナデ 内面：強いクロ口目 全面施釉	密	良好	淡黄灰色	外面に一部文様あり
6-4 9	上沢II遺跡 櫛鉢 (陶器)		口径 高さ 底径17.8	外面：物なし 内面：全面施釉、細かい捺目	密	良好	褐色；茶褐色 断面：淡黄灰色	肥前系
6-5 9	上沢II遺跡 德利 (陶器)		高台径10.2	外面：回転ナデ 内面：強いクロ口目	密	良好	淡黄灰色	外面に大山の文字全面施釉
22-1 9	大井谷城跡 2C区黒色土 (縄文)	深鉢		外面：ナデ 内面：ナデ	砂粒を多く含む	不良	茶褐色	
22-2 9	大井谷城跡 2C区黒色土 (縄文)	深鉢		外面：ナデ 内面：巻き目条痕のちナデ	砂粒を多く含む	良好	茶褐色	
22-3 9	大井谷城跡 2C区黒色土 (縄文)	深鉢	底径7.2	外面：ナデ 内面：ナデ	砂粒を多く含む	不良	茶褐色	
22-4	大井谷城跡 2C区黒色土 (縄文)		底径9.2	外面：ナデ 内面：ナデ	砂粒を多く含む	不良	暗灰茶褐色	上げ底
22-5	大井谷城跡 2C区黒色土 (縄文)		底径11.2	内面：ナデ	砂粒を多く含む	不良	茶褐色	上げ底
22-6 9	大井谷城跡 2C区黒色土 (土師器)		口径18.2	外面：ナデ 内面：ナデ、ケズリ	2mm程度の砂粒を多く含む	良好	淡黄茶色	
22-7 9	大井谷城跡 2C区 (土師器)	环	口径13.8	外面：回転ナデ 内面：不明	密	良好	黄褐色	
22-8 9	大井谷城跡 2C区 (土師器)	环	口径12	外面：回転ナデ 内面：不明	密	良好	黄褐色	
22-9 9	大井谷城跡 2C区 (土師器)	环	底径5.8	外面：回転ナデ 内面：不明	密	良好	黄褐色	
22-10 9	大井谷城跡 2C区 (土師器)			外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2mm程度の砂粒を含む	良好	茶褐色	
22-11 9	大井谷城跡 2C区 (土師器)	环	底径4.8	外面：不明 内面：不明	密	良好	淡黄褐色	
22-12 9	大井谷城跡 2C区 (土師器)	环	底径3.6	外面：不明 内面：不明	密	良好	黄褐色	
22-13 9	大井谷城跡 2C区 (土師器)	环	底径3.6	外面：底部糸切り、他は回転ナデ 内面：ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	黄褐色	
22-14	大井谷城跡 C区 (須恵器)	环蓋 (須恵器)	口径8.5 底径3.0	外面：L1縦部回転ナデ、天井部ケズリ後ナデ 内面：口縁部回転ナデ、ナデ	2mm以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	
22-15	大井谷城跡 2C区 (須恵器)	蓋 (須恵器)		外面：タタキ 内面：タタキ	1mm以下の砂粒を少し含む	良好	淡黄灰色	
22-16 9	大井谷城跡 2C区 (須恵器)	蓋 (須恵器)		外面：タタキ 内面：タタキ	1mm以下の砂粒を少し含む	良好	淡黄灰色	
27-1 17	35 1 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径3.4	L1縦10.0 天井部外面：ナデ その他：回転ナデ	1mm前後の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約2/3残存

探査番号	写真版	山土地点	種類	法量(cm)	手法の特徴	胎土 焼成	色調	備考
27-2	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径9.8 器高3.8	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm前後の 砂粒を若干 良好 含む	濃青灰色	全体の約6/7残存、 大井部外山自然輪 少々付着
27-3	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径8.5 器高2.0	天井部外面：回転ヘラケズリ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	2mm程度の 砂粒を数個 含む	良好 青灰色	全体の約4/5残存
27-4	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径8.0 器高2.2	天井部外面：ヘラケズリ衝撃ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少し 含む	良好 灰色	全体の約7/8残存、 外面に7mm、4mm程 度の擦り1個含む
27-5	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径10.8 器高(3.15)	天井部外面：ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少し 含む	良好 灰色	全体の約6/7残存、 風化が悪い 反転復元
27-6	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径(10.6) 器高	内外面：回転ナデ	1mm以下の 砂粒を若干 含む	不適 灰色	口縫部のみ1/6残 存 反転復元
27-7	35-1 玄室		環蓋 (須恵器)	口径10.2 器高2.1	天井部外面：ヘラケズリ一部ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm前後の 砂粒を少し 含む	良好 青灰色	外面部に自然輪付 着
27-8	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径10.1 器高2.3	天井部外面：ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm未満の 砂粒が密に 集まる	良好 青灰色	外面部に自然輪少々 付着
27-9	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径10.0 器高3.8	天井部外面：ナデ、カキ目 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々 含む	良好 青灰色	全体の約2/5残存 反転復元
27-10	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径10.0 器高2.2	天井部外面：回転ナデ、ヘラ ケズリ後ナデ その他：回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少々 含む	不良 濃青灰色	全体の約3/4残存、 ヘラケズリ後ナデ等 0.5mm輪のスジあり
27-11	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径9.8 器高3.2	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm以下の 砂粒を含む	良好 灰色	
27-12	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径9.6 器高4.0	天井部外面：ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm前後の 白い砂粒を 少し含む	良好 灰色	炭化物少々付着
27-13	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径9.6 器高4.0	天井部外面：ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	2mm未満の 砂粒を少し 含む	良好 灰色	
27-14	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径9.0 器高3.6	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.9×4mmの 擦り1個含む 良好 む		
27-15	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径9.5 器高2.5	天井部外面、内面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1~3mm程度 の砂粒を少し 含む	濃青灰色	全体の約3/5残存
27-16	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径9.4 器高3.15	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	2mmの白い 砂粒を数個 含む	良好 青灰色	
27-17	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径9.2 器高	天井部外面：ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm前後の 砂粒を若干 良好 含む	良好 青灰色	体部から口縫部に かけて全体の約1 /5残存
27-18	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径9.2 器高	天井部外面：ナデ、ヘラケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm以下の 砂粒を若干 不良 含む	不良 灰色	体部から口縫部に かけて全体の約1 /3残存
27-19	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径8.8 器高3.25	天井部外面：ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm前後の 砂粒を少し 良好 含む	良好 青灰色	全体の約1/2残存
27-20	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径8.8 器高	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm程度の 砂粒を少々 不良 含む	不良 灰色	体部から口縫部に かけて全体の約2 /5残存
27-21	35-1 玄室		環蓋 (須恵器)	口径8.6 器高3.4	天井部外面：ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm以下の 白い砂粒を 少し含む	青灰色	
27-22	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径8.5 器高2.8	天井部外面：ケズリ後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1~2mm程度 の白い砂粒 良好 含む	良好 灰色	
27-23	35-1 前庭		環蓋 (須恵器)	口径8.3 器高2.4	天井部外面：回転ヘラケズリ後1mm前後の ナデ、回転ヘラケズリ、大井部砂粒を少し 良好 内面：ナデ、その他回転ナデ 含む	良好 青灰色	全体の約9/10残 存	

標因番号	写真 図版	出土地点	種別 法器 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成 色調	備考
27-24		35-1 前庭	口径8.3 壺蓋 (須恵器) 器高2.3	天井部外面: ケズリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の 白い砂粒を 多く含む	不良 灰色	ツマミ部分のみ欠 損
27-25		35-1 前庭	口径8.2 壺蓋 (須恵器) 器高2.3	天井部外: ケズリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 々含む	良好 濃青灰色	全体の約4/5残存
27-26	17	35-1 前庭	口径8.0 壺蓋 (須恵器) 器高2.9	天井部外: ヘラケツリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm程度の 砂粒を少々 含む	良好 濃青灰色	天井部内面に約7 cmのヘラ記号アリ
27-27	17	35-1 前庭	口径8.0 壺蓋 (須恵器) 器高2.6	天井部外: ヘラケツリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm前後の 砂粒を少々 含む	良好 青灰色	
27-28	17	35-1 前庭	口径7.9 壺蓋 (須恵器) 器高2.5	天井部外: ケズリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm程度の 砂粒を含む	良好 濃青灰色	
27-29	17	35-1 前庭	口径7.8 壺蓋 (須恵器) 器高2.1	天井部外: ヘラケツリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm程度の 砂粒を含む	良好 青灰色	全体の約7/8残存
27-30	17	35-1 前庭	口径7.8 壺蓋 (須恵器) 器高2.7	天井部外: ナデ、ヘラケツリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm前後の 白い砂粒を 少し含む	良好 青灰色	
27-31	17	35-1 前庭	口径7.6 壺蓋 (須恵器) 器高3.2	天井部外: 回転ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の白い砂粒 を少し含む	良好 青灰色	全体の約7/8残存 炭化物少々付着
27-32	17	35-1 玄室	口径7.6 壺蓋 (須恵器) 器高3.1	天井部外: パテ、回転ヘラケツリ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少し 含む	良好 青灰色	外面1/3程度剥 離白灰色
27-33	17	35-1 前庭	口径7.6 壺蓋 (須恵器) 器高3.05	天井部外: 回転ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 々含む	良好 青灰色	全体の約7/8残存 内面炭化物少々付 着、風化者しい
27-34		35-1 前庭	口径7.6 壺蓋 (須恵器) 器高	天井部外: ヘラ切り後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を若干 含む	やや 不良 青灰色	全体の約1/3残存 反転復元
28-1	17	35-1 玄室	口径7.5 壺蓋 (須恵器) 器高3.1	天井部外: ヘラケツリ後回転ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 々含む	良好 青灰色	
28-2	17	35-1 前庭	口径7.5 壺蓋 (須恵器) 器高2.8	天井部外: ナデ、ヘラケツリ後ナデ 天井部内面: ナデ、回転ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少し 含む	良好 青灰色	
28-3		35-1 前庭	口径7.5 壺蓋 (須恵器) 器高	外外面: 回転ナデ 内外面: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々 含む	良好 青灰色	口縁部のみ1/6残 存 反転復元
28-4	17	35-1 前庭	口径7.4 壺蓋 (須恵器) 器高2.7	天井部外: ケズリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm前後の 白い砂粒を 少し含む	良好 青灰色	
28-5	17	35-1 前庭	口径7.4 壺蓋 (須恵器) 器高2.25	天井部外: ナデ、ヘラケツリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を数 個含む	良好 青灰色	炭化物少々付着 反転復元
28-6	17	35-1 前庭	口径7.2 壺蓋 (須恵器) 器高2.6	天井部外: ナデ、ヘラケツリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 々含む	良好 濃青灰色	天井部内面ヘラ記 号アリ
28-7	17	35-1 前庭	口径7.2 壺蓋 (須恵器) 器高2.5	天井部外: ナデ、ヘラケツリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	0.5mm未満 の砂粒を若干 含む	良好 淡灰色	全体の約1/4残存
28-8	17	35-1 前庭	口径7.0 壺蓋 (須恵器) 器高2.8	天井部外: ナデ、ヘラケツリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm未満の 砂粒を多く 含む	良好 濃青灰色	
28-9	17	35-1 前庭	口径7.0 壺蓋 (須恵器) 器高2.75	天井部外: 回転ナデ、回ヘラケツリ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 々含む	良好 青灰色	炭化物少々付着
28-10	17	35-1 玄室	口径6.8 壺蓋 (須恵器) 器高2.3	天井部外: 回転ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を多く 含む	良好 青灰色	
28-11	17	35-1 前庭	口径6.2 壺蓋 (須恵器) 器高2.5	天井部外: 回転ナデ、ケズリ後ナデ 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	0.1mm程度 の白い砂粒 を多く含む	良好 青灰色	

発掘番号	写真 図版	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
28-12	17	前庭	环身 (須恵器)	口径11.6 器高4.0	底面外側: ケズリ後ナデ 底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm前後の 砂粒を少々 含む	良好	青灰色	全体の約1/3残存 反転復元
28-13	17	前庭	环身 (須恵器)	口径11.0 器高4.0	底面外側: ヘラ切り後ナデ 底面外側: ナデ その他: 回転ナデ	1mm程度の 砂粒を少し 含む	良好	青灰色	反転復元、全体の約 1/5残存、底部内面 にヘラ記号アリ
28-14	17	前庭	环身 (須恵器)	口径10.3 器高3.5	底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm前後の 砂粒を少し 含む	良好	青灰色	全体の約1/4残存
28-15	17	前庭	环身 (須恵器)	口径9.6 器高3.5	底部内面: ナデ その他: 回転ナデ	2mm前後の 砂粒を数個 含む	良好	濃青灰色	全体の約1/4残存
28-16	17	玄室	环身 (須恵器)	口径8.7 器高3.4	底部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 し含む	良好	濃青灰色	全体の約1/4残存 反転復元
28-17	17	前庭	环身 (須恵器)	口径9.4 器高3.5	底面外側: 粗いナデ 底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	2mm程度の 白い砂粒を 数個含む	良好	灰色	全体の約1/4残存 反転復元
28-18	17	前庭	环身 (須恵器)	口径9.3 器高3.05	底面外側: ケズリ後ナデ 底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	0.5mm程 度の 白い砂粒	良好	青灰色	全体の約2/5残存 反転復元
28-19	17	前庭	环身 (須恵器)	口径9.1 器高3.7	底面外側: ヘラ切り後ナデ 底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を少 し含む	良好	青灰色	全体の約1/4残存 内面に炭化物少々 付着
28-20	17	前庭	环身 (須恵器)	口径9.0 器高3.5	底面外側: ヘラ切り後ナデ 底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	2mm以下 の砂粒を若干 含む	良好	濃青灰色	底面外側へラ記号 アリ
28-21	17	前庭	环身 (須恵器)	口径9.0 器高2.9	底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 し含む	良好	濃青灰色	全体の約3/4残存
28-22	17	前庭	环身 (須恵器)	口径8.8 器高3.0	底面外側: ヘラ切り後ナデ 底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm未満の 白い砂粒を 含む	良好	灰色	全体の約1/2残存
28-23	17	前庭	环身 (須恵器)	口径8.6 器高3.6	底面外側: ヘラ切り後ナデ 底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm前後の 砂粒を数個 含む	良好	青灰色	全体の約1/2残存 反転復元
28-24	17	前庭	环身 (須恵器)	口径8.6 器高3.0	底面外側: ナデ(板状工具) 底面内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm前後の 砂粒を少々 含む	良好	濃青灰色	全体の約2/3残存
28-25	17	前庭	环身 (須恵器)	口径8.6 器高(3.2)	外面: 底部ナデ、その他の回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他の回転ナデ	1mm前後の 砂粒を多く 含む	良好	濃青灰色	全体の約1/2残存
28-26		前庭	环身 (須恵器)	口径8.5 器高2.5	外面: 底部ナデ、その他の回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他の回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 し含む	良好	濃青灰色	全体の約4/5残存
28-27		前庭	环身 (須恵器)	口径8.2 器高3.25	外面: 底部ナデ、その他の回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他の回転ナデ	1mm以上 の砂粒は認め ない	良好	青灰色	全体の約1/3残存
28-28		前庭	环身 (須恵器)	口径10.0 器高	外面: 底部回転ヘラケズリ その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他の回転ナデ	1mm前後の 砂粒を多く 含む	良好	青灰色	全体の約1/4残存 自然剥離付着 反転復元
28-29		前庭	环身 (須恵器)	口径10.0 器高	外面: 底部ナデ、その他の回転ナデ 内面: 回転ナデ	0.5mm未満 の砂粒を多 く含む	良好	濃青灰色	全体の約1/4残存 反転復元
28-30	17	玄室	环身 (須恵器)	口径9.8 器高2.95	外面: 底部ヘラケズリ後ナデ、 その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他の回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 し含む	良好	青灰色	全体の約3/4残存
29-1	18	玄室	环身 (須恵器)	口径9.6 器高3.3	外面: 底部ヘラケズリ後ナデ、 その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他の回転ナデ	砂粒を数個 含む	良好	青灰色	
29-2	18	玄室	环身 (須恵器)	口径9.5 器高3.5	外面: 底部手持ケズリ後ナデ、 その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他の回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 し含む	良好	青灰色	
29-3	18	前庭	环身 (須恵器)	口径9.4 器高3.5	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他の回転ナデ	微細	良好	青灰色	内面に炭化物付着

神岡番号	写真 図版	山土地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
29-4	18	前庭	环身 (須恵器)	口径9.4 高さ3.5	外面: 底部ケズり後ナデ、その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm前後の砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約5/6残存
29-5	18	前庭	环身 (須恵器)	口径9.5 高さ2.6	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm前後の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約2/3残存 底部自然釉付着
29-6		前庭	环身 (須恵器)	口径9.2 高さ	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を若干含む	良好	青灰色	口縁部の約1/4残存 反転復元
29-7	18	玄室	环身 (須恵器)	口径9.1 器高3.2	外面: ヘラケズり後ナデ、その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	2~3mmの砂粒を多く含む	良好	青灰色	全体の約1/4残存
29-8	18	前庭	环身 (須恵器)	口径9.0 高さ3.0	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm前後の砂粒を少し含む	良好	濃青灰色	全体の約1/4残存 反転復元
29-9	18	前庭	环身 (須恵器)	口径8.6 器高3.3	外面: 底部へラ切り後ナデ、その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1~2mm程度の砂粒を数個含む	良好	青灰色	全体の約4/5残存
29-10	18	前庭	环身 (須恵器)	口径8.6 高さ3.05	外面: 底部ヘラケズり後ナデ、その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm程度の砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約1/2残存 ヘラ記号あり
29-11	18	前庭	环身 (須恵器)	口径8.4 器高2.5	外面: 底部へラケズり後ナデ、その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1~2mm程度の砂粒を少しある	良好	濃青灰色	全体の約9/10残存
29-12	18	前庭	环身 (須恵器)	口径3.3 器高8.0	外面: 底部ナデ、その他山断ナデ 内面: 回転ナデ	1mm前後の白い砂粒を良好に含む	良好	濃青灰色	全体の約3/5残存
29-13	18	玄室	环身 (須恵器)	口径7.8 器高2.75	外面: 底部部へラケズり後ナデ、口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm前後の砂粒を多く含む	良好	青灰色	口縁部が外側に広い
29-14	18	前庭	环身 (高台付) (須恵器)	口径11.4 器高3.9	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ口縁部回転ナデ	1~3mmの砂粒を少し含む	良好	青灰色	全体の約2/3残存
29-15	18	前庭	高环 (須恵器)	口径10.0 底径5.1 器高6.0	外面: 回転ナデ、ナデ 内面: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	
29-16	18	前庭	高环 (須恵器)	口径5.1 底径5.5 器高	外面: 回転ナデ、ナデ 内面: 回転ナデ	1mm以内の砂粒を含む	良好	青灰色	脚部のみ
29-17	18	前庭	高环 (須恵器)	口径9.4 底径 器高	外面: 回転ナデ、ナデ 内面: 回転ナデ	1mm以内の砂粒を含む	良好	濃青灰色	环部のみ
29-18	18	前庭	高环 (須恵器)	口径16.0 底径 器高	外面: 回転ナデ、ナデ 内面: 回転ナデ	1mm以上の砂粒を含む	良好	青灰色	2段2方向透し
29-19	18	前庭	高环 (須恵器)	口径15.4 底径4.4 器高11.9	外面: 回転ナデ、ナデ 内面: 回転ナデ	2mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	1段2方向横状透し 底部外面にヘラ記号
29-20		前庭	はそう (須恵器)	口径 底径 器高	外面: 底部タキ、体部回転ナデ 内面: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	反転復元
29-21	18	前庭	壺 (須恵器)	口径7.2 高さ	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	反転復元
29-22	18	玄室	壺 (須恵器)	口径8.5 高さ17.4	外面: 底部ヘラケズり、その他回転ナデ 内面: 回転ナデ	2mm以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	
29-23	18	前庭	壺 (須恵器)	口径8.7 底径11.0 高さ27.6	外面: 体部カキド、その他回転ナデ 内面: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	頭部にヘラ記号
29-24	18	前庭・玄室	环身 (土師器)	口径14.2 高さ	外面: 横方向のミガキ 内面: 体部下部風化、上部暗文	良好或赤褐色			暗文2段 底部外面に黒斑あり

標印番号	写真 図版	出土地点	種別	法縦(cm)	手法の特徴	胎土	焼成色調	備考
40-1		36-1 20 玄室	壺蓋 (須恵器)	口径10.8 器高4.0	外面: 天井部ナデ 内山: 天井部ナデ その他: 回転ナデ	緻密	良好 青灰色	ヘラ記号あり
40-2		36-1 20 玄室	壺蓋 (須恵器)	口径7.4 器高2.2	外面: 大井部ケズリ、口縫部 内面: 回転ナデ	1mm以上の砂粒を数個 含む	良好 濃青灰色	
40-3		36-1 20 前庭	壺蓋 (須恵器)	口径9.8 器高	外面: 天井部ナデ 内面: 天井部ナデ、回転ナデ	外面に4mm程度の白い砂 粒を数個含む	良好 青灰色	全体の約2/5残存
40-4		36-1 20 前庭	壺蓋 (須恵器)	口径8.5 器高2.9	外面: ヘラケズリ後ナデ 内山: 天井部ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好 灰色	全体の2/3残存
40-5		36-1 前庭	壺蓋 (須恵器)	口径8.5 器高	外面: 山根部回転ナデ、天井 部ケズリ後ナデ 内面: 回転ナデ	2mm程度の砂粒を数個 含む	良好 青灰色	全体の約1/4、山 根部のみ残存
40-6		36-1 20 玄室	壺蓋 (須恵器)	口径8.0 器高3.0	外面: 天井部ケズリ後ナデ、 口縫部回転ナデ、 内面: 天井部ナデ、口縫部回転ナデ	1mm前後の砂粒を少々 含む	良好 濃青灰色	
40-7		36-1 20 前庭	壺蓋 (須恵器)	口径8.0 器高2.9	外面: 天井部ヘラケズリ後回転 ナデ、口縫部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縫部回転ナデ	2mm以下の砂粒を含む	青灰色 (やや黄味を含む)	
40-8		36-1 20 前庭	壺蓋 (須恵器)	口径7.8 器高2.9	外面: まろみ手形、天井部ヘラケズリ ナデ、口縫部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縫部回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好 灰色	
40-9		36-1 20 前庭	壺蓋 (須恵器)	口径7.8 器高2.7	外面: 天井部ケズリ後回転ナデ、ヘラケズリ後 ナデ、口縫部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縫部回転ナデ	2mm程度の白い砂粒 を少々含む	良好 青灰色	
40-10		36-1 20 前庭	壺蓋 (須恵器)	口径7.5 器高2.8	外面: 天井部ヘラケズリ後ナデ、 口縫部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縫部回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好 灰色	
40-11		36-1 20 前庭	壺蓋 (須恵器)	口径7.3 器高3.2	外面: まろみ手形回転回転ナデ その他ヘラケズリ後ナデ 内面: 天井部ナデ、口縫部回転ナデ	2mm前後の砂粒を数個 含む	良好 青灰色	ヘラ記号あり
40-12		36-1 前庭	壺身 (須恵器)	口径9.8 器高3.5	外面: 底部ケズリ後ナデ、 縫部回転ナデ 内面: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を若干 含む	良好 青灰色	全体の約1/6残存
40-13		36-1 20 玄室	壺身 (須恵器)	口径9.6 器高3.3	外面: 底部ケズリ後ナデ、 縫部回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、口縫部回転ナデ	1mm前後の砂粒を多く 含む	良好 青灰色	
40-14		36-1 前庭	壺身 (須恵器)	口径9.6 器高3.1	外面: 底部ヘラケズリ後ナデ、 口縫部回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、口縫部回転ナデ	2mm以下 の砂粒を含む	良好 灰色	
40-15		36-1 前庭	壺身 (須恵器)	口径9.4 器高	外面: 底部ケズリ後ナデ、 縫部回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、口縫部回転ナデ	2mm以下のやや 砂粒を若干 含む	不良 青灰色	全体の約2/5残存
40-16		36-1 20 玄室	壺身 (須恵器)	口径9.0 器高3.1	外面: 底部ヘラケズリ、 その他回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、その他回転ナデ	緻密	良好 青灰色	
40-17		36-1 前庭	壺身 (須恵器)	口径8.8 器高3.2	外面: 底部ヘラケズリ、 口縫部回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、口縫部回転ナデ	1mm未満の 砂粒を若干 含む	良好 灰色	
40-18		36-1 前庭 (高台付)	壺身 (須恵器)	口径11.1 器高3.8	外面: 底部ケズリ切り、 その他の回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少量 含む	良好 青灰色	全体の約2/3残存
40-19		36-1 玄室 (高台付)	壺身 (須恵器)	口径10.9 器高4.05	外面: ハラ切り後ナデ、 その他回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、その他回転ナデ	2mm未満の 白い砂粒を 多く含む	良好 青灰色	
40-20		36-1 玄室 (高台付)	壺身 (須恵器)	口径10.4 器高3.95	外面: 底部ヘラケズリ後ナデ、 その他回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、その他回転ナデ	1~2mm前後 の砂粒を少 し含む	良好 青灰色	
40-21		36-1 前庭 (高台付)	壺身 (須恵器)	口径10.4 器高3.9	外面: 底部ナデ、その他回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、その他回転ナデ	2mm前後の 砂粒を少量 含む	良好 灰色	全体の約1/2残存、 反転復元
40-22		36-1 前庭 (高台付)	壺身 (須恵器)	口径9.8 器高4.0	外面: 回転ナデ 内面: 滲毛ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の 砂粒を含む	良好 青灰色	
				器高7.0				

検査番号	写真 図版	出土地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
40-23	20	36-1 前庭	はそう (須恵器)	口径10.0 高さ13.5	外底部: ケズリ後ナデ その他: 回転ナデ	1~2mmの砂粒を若干含む	良好	灰色	削りを行なう丸底である
40-24		36-1 玄室	壺 (須恵器)	口径7.0	外面: 口唇部から体部回転ナデ、底径2mm以内のケズリ後タキ、その他のナデ 内面: 回転ナデ	砂粒を含む	良好	濃青灰色	
40-25	20	36-1 前庭	高环 (須恵器)	口径8.7 底径6.6 高さ6.5	内面: 环底部: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度の砂粒を若干含む	良好	濃青灰色	透し2段、下の透しは裏につながっていない
40-26	20	36-1 前庭	高环 (須恵器)	口径16.6 底径13.2 高さ	外面: 回転ナデ 内面: ナデ	1mm以上砂粒を認めない	良好	濃青灰色	全体の約1/4残存
40-27	20	36-1 前庭	高环 (須恵器)	口径15.0 底径9.6 高さ12.6	内面: 环底部: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	濃青灰色	2ヶ所線状の透し
40-28	20	36-1 玄室	壺 (須恵器)	口径7.4 底径5.7 高さ16.2	外面: 口唇部から体部回転ナデ、底部ナデ、その他ヘラケナデ 内面: 口唇部回転ナデ、その他のナデ	3mm未満の砂粒を若干含む	良好	青灰色	底面にヘラ記号あり
40-29	20	36-1 前庭	壺 (須恵器)	口径6.8 底径7.3 高さ17.7	外面: 口唇部から底部回転ナデ、其の外、輪郭部及び底、底部回転ナデ 内面: 口唇部回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	平底
41-1	21	36-2 前庭	坏壺 (須恵器)	口径8.6 高さ2.9	外面: フマキ部ナデ、その他回転ナデ 内面: 天井部ナデ、その他のナデ	3mm前後の白い砂粒を含む	良好	青灰色	
41-2	17	36-2 前庭	坏壺 (須恵器)	口径10.9 高さ2.75	外面: フマキ部(井戸型)回転ナデ、体部一部ヘラケナデ 内面: 天井部ナデ、その他のナデ	2mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	口縁部一部破損
41-3	21	36-2 玄室	坏壺 (須恵器)	口径12.8 高さ3.3	外面: フマキ部、体部ケツイナデ 内面: 回転ナデ、口唇部回転ナデ	1mm前後の砂粒を少々含む	良好	青灰色	つまみ内部にヘラ記号あり
41-4	21	36-2 玄室	坏身 (須恵器)	口径14.4 高さ4.0 底径7.7	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mmまでの砂粒を多く含む	良好	青灰色	底面にヘラ記号あり
41-5	21	36-2 玄室	坏身 (須恵器)	口径8.4 高さ3.6	外面: 底部ナデ、その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm前後の砂粒を少し含む	良好	青灰色	
41-6		36-2 玄室	坏身 (須恵器)	口径8.5 高さ3.6	外面: 底部ナデ、その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	3mm前後の砂粒を数個含む	良好	青灰色	
41-7	21	36-2 玄室	高环 (須恵器)	口径16.6 底径12.7 高さ9.8	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mmまでの砂粒を多く含む	良好	青灰色	
41-8	21	36-2 前庭	高环 (須恵器)	口径9.5 底径5.3	外面: 体部・源ナデ、その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	2mm前後の白い砂粒を含む	良好	青灰色	
41-9	21	36-2 玄室	壺 (須恵器)	口径7.4 底径7.1	外底: 口唇部から体部下まで回転ナデ、底部ケツイナデ 内面: 天井部回転ナデ、その他のナデ	1mm程度の砂粒を含む	良好	青灰色	
41-10	22	36-3 前庭	坏壺 (須恵器)	口径13.2 高さ	外面: 天井部ケズリ後ナデ、1mm前後の他の回転ナデ 内面: 天井部ナデ、その他回転ナデ	砂粒を若干含む	良好	灰色	全体の約1/7残存
41-11	22	36-3 前庭	坏壺 (須恵器)	口径10.4 高さ2.8	外面: 大井部ケズリ後ナデ、1~2mm程度の回転ナデ 内面: 天井部ナデ、その他のナデ	砂粒を少々含む	不良	青灰色	全体の約1/5残存、約1/2がいびつな自燃付着、炭化物付着
41-12	22	36-3 前庭	坏壺 (須恵器)	口径9.8 高さ3.1	外面: フマキ部回転ナデ、1mm程度の底部回転ナデ 内面: 大井部ナデ、その他のナデ	砂粒を良好と認める	良好	濃青灰色	内面中央部にヘラ記号あり
41-13	22	36-3 前庭	坏壺 (須恵器)	口径9.4 高さ	外面: 回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口唇部回転ナデ	1mm程度の砂粒を若干含む	良好	濃青灰色	自然剥付有
41-14	22	36-3 前庭	坏壺 (須恵器)	口径9.2 高さ2.3	外面: フマキ部ナデ、その他のナデ 内面: 天井部ナデ、その他のナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	濃青灰色	全体の約3/4残存
41-15	22	36-3 前庭	坏壺 (須恵器)	口径8.4 高さ3.0	外面: 大井部ケズリ後ナデ、1~3mm前後の他の回転ナデ 内面: 天井部ナデ、その他のナデ	砂粒を含む	良好	灰色	

測定番号	写真 図版	出土地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
41-16	22	前庭	环身 (須恵器)	口径8.4 器高3.8	外面：底部ケズリ切り後粒ナ ダ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1mm前後のやや 砂粒を若干含む	不良	濃青灰色	内面中央部にヘラ 記号あり 炭化物付着
41-17	22	前庭	环身 (須恵器)	口径10.8 器高3.7	外面：底部ヘラケズリ後ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1~3mm程度 の砂粒を含む	良好	濃青灰色	
41-18	22	前庭	环身 (須恵器)	口径10.6 器高3.3	外面：底部回転ヘラ切り後ナ ダ、その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	0.5~1mm程 度の砂粒を含 若干含む	良好	灰色	全体の約4/5残存 底部にヘラ記号あ り
41-19	22	前庭	环身 (須恵器)	口径10.4 器高3.5	外面：口縁部削毛ナデ、その 他ヘラケズリ後ナデ 内面：底盛ナデ、その他回転ナデ	1mm未満の 砂粒を少々含む	良好	濃青灰色	
41-20	22	前庭	环身 (須恵器)	口径11.4 (高台付) 器高3.8 底径6.6	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、 その他回転ナデ 内面：底盛ナデ、回転ナデ	2mm未満の 砂粒を多く含む	良好	青灰色	全体の約4/5残存
41-21	22	前庭	高环 (須恵器)	口径12.0 器高3.6 底径	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	0.5~1mm程 度の砂粒を含 若干含む	良好	濃青灰色	口縁部のみ残存
41-22	22	玄室	高环 (須恵器)	口径10.8 器高9.7 底径7.6	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ 底径	2mm前後の 砂粒を若干含む	良好	青灰色	透し2方向の線状 痕跡
41-23	22	玄室	壺 (須恵器)	口径8.5 器高18.5 底径6.3	外面：口縁部から体部削毛ナデ、体 部下端底面へヘラケズリ後ナ 内面：口縁部削毛ナデ、その他削 不規則	3mm以下 の砂粒を含む	良好	青灰色	肩部に自然釉付着
43-1	19	前庭	壺 (須恵器)	口径22.5 器高57.7	外面：口縁部削毛ナデ、体部タキ 内面：口縁部削毛ナデ、体部タキ	2mm以下の 砂粒を含む	良好	青灰色	
43-2	19	前庭	壺 (須恵器)	口径19.2 器高51.5	外面：口縁部削毛ナデ、体部タキ 内面：口縁部削毛ナデ、体部タキ	2mm以下の 砂粒を含む	良好	灰色	肩部に自然釉付着
43-3	3	前庭	壺 (須恵器)	口径40.4 器高100	外面：口縁部削毛ナデ、体部タキ 内面：口縁部削毛ナデ、体部タキ	2mm以下の 砂粒を含む	良好	灰色	口縁部、体部、底 部は接合しない
60-1	3	玄室	环蓋 (須恵器)	口径10.6 器高4.3	外面：天井部ナデ、その他回転ナ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を多 く含む	良好	青灰色	
60-2	34	玄室	环蓋 (須恵器)	口径10.9 器高4.0	外面：天井部ナデ、その他回転ナ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を少 し含む	良好	青灰色	
60-3	34	玄室	环身 (須恵器)	口径9.6 器高3.2	外面：底部ヘラ切り後ナデ、 その他回転ナデ 内面：底部ナデ、その他削毛ナ デ	1mm以下の 砂粒を多く含 む	良好	青灰色	底面にヘラ記号あ り
60-4	34	玄室	环身 (須恵器)	底径9.4 器高3.7	外面：底部ナデ、その他削毛ナ デ 内面：底部ナデ、その他回転ナ デ	1~2mmの砂 粒を少し含 む	良好	青灰色	外面上に自然釉
60-5	3	玄室	皿 (磁器)	底径4.0	外面：底部溶脂、その他施釉 内面：底部から上部にかけて施 釉、釉目張、釉かきとり、施釉	良好	白色		高台は段になって いる
60-6	3	玄室	皿 (磁器)	口径11.4 底径3.2 器高4.2	外面：底盛から体部遷移、11部施釉 内面：底盛内側に釉かきとり、口縁 部施釉	良好	乳白色		伊万里系磁器 内面にやや緑色を帯 びた異色で文様あり
60-7	3	玄室	碗 (磁器)		外面：施釉 内面：施釉	良好	綠灰色		高台底部墨茶色に なっている
60-8	33	玄室	环 (土器)	口径7.0 底径5.5 器高2.0	外面：底部糸切り その他回転ナデ 内面：回転ナデ	3mm未満の 砂粒を少々含 む	良好	淡黃茶色	口縁部に灰付着 (不明瞭?)
60-9	34	大井谷古墳	环蓋 (須恵器)	口径10.4	外面：回転ナデ 内面：大井谷ナデ、その他回転ナ デ	1mm以下の 白色砂粒を含 む	良好	青灰色	
60-10	34	大井谷古墳	环蓋 (須恵器)	口径10.3	外面：回転ナデ 内面：大井谷ナデ、その他回転ナ デ	1mm以下の 砂粒を少し含 む	良好	青灰色	外部にヘラ記号あ り
60-11	33	大井谷古墳	环身 (須恵器)	口径10.4 器高3.2	外面：底部ヘラケズリ後ナデ、0.5mm以 下その他回転ナ 内面：底部ナデ、その他回転ナ デ	0.5mm以下 の砂粒を多 く含む	良好	淡青灰色	

神岡番号	写真 図版	出土地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成 色調	備考
60-12	34	大井谷古墳	壺 (須恵器)	口径13.6 器高31.5	外面：口縁部回転ナデ、その他タキナ 内面：口縁部回転ナデ、その他タキナ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好 灰色	底部焼成後穿孔
60-13	7支群	环 (土師器)	底径5.6	外面：底部糸切り、ヨコナデ 内面：ヨコナデ			良好 黒褐色	
60-14	7支群	环 (土師器)	底径5.2	外面：底部糸切り、ヨコナデ 内面：ヨコナデ	1mm以下の 砂粒を含む	良好	淡黄褐色	
60-15	7支群	环 (土師器)	底径4.6	外面：底部糸切り 内面：風化	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	淡黄褐色	反転復元
60-16	33	7支群	环 (土師器)	脚径7.4	外面：底部糸切り 内面：風化	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好 赤褐色	
60-17	7支群	环 (土師器)	底径4.8	外面：底部糸切り、ヨコナデ 内面：ヨコナデ		精良	良好 褐色	
60-18	7支群	环 (土師器)	底径9.2	外面：底部糸切り 内面：風化	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	赤褐色	反転復元
60-19	7支群	环 (土師器)		外面：風化 内面：風化	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	赤褐色	反転復元
60-20	7支群	环 (土師器)		外面：底部糸切り、ヨコナデ 内面：ヨコナデ	精良	良好	淡黄褐色	
60-21	33	壺 (土師器)		外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ		精良	良好 淡黄褐色	
60-22	7支群	深鉢 (縄文)		外面：風化 内面：風化	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	黄灰色	
60-23	7支群	深鉢 (縄文)	底径4.6	外面：風化 内面：風化	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	黄灰色	
60-24	7支群	壺 (土師器)	口径16.0	外面：ヨコナデ、一部ハケ目 内面：ヨコナデ、一部ハケ目	3mm以下の 小石を含む	良好	赤褐色	
60-25	7支群	壺 (土師器)	口径21.4	外面：ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、底部ケズリ	2mm程度の 小石を含む	良好	淡赤褐色	
60-26	7支群	壺 (土師器)	口径21.6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	2mm程度の 小石を含む	良好	褐色	
82-1	62	玄室 (須恵器)	口径10.1 器高4.0	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、1mm以下の 口縁部回転ナデ 内面：天井ナデ、口縁部回転ナデ	白・黒砂粒 を含む	良好	濃青灰色	外面にヘラ記号あり
82-2	62	玄室 (須恵器)	口径8.9 器高4.1	外面：底部ヘラ切り後ナデ、 内面：口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	外面にヘラ記号あり、自然釉付着
82-3	62	玄室 (須恵器)	口径5.2 器高12.2	外面：藍部ヘラケツリ後ナデ、肩部 カキ目、口縁部回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	
82-4	62	玄室 (須恵器)	口径8.2 器高8.3 脚径6.0	外面：回転ナデ 内面：ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	線状の透し 1段3方向
82-5	63	前庭 (須恵器)	口径5.0	外面：口縁部回転ナデ、その他不明 内面：口縁部回転ナデ、その他不明	1mm程度の 砂粒を含む	良好	青灰色	外全体に自然釉付着
82-6	63	玄室 (須恵器)	口径10.0 器高3.7	外面：底部ヘラ切り後ナデ、 内面：口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
82-7	63	前庭 (須恵器)	口径12.0 器高4.0	外面：天井部ヘラ切り後ナデ、 内面：天井ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 黒い粒子を 多く含む	良好	青灰色	外全体にヘラ記号あり

採集番号	写真 図版	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
82-8		33-4 前庭	环状 (須恵器)	口径13.4 器高3.7	外面：口縁部回転ナメ、その他不明 内面：口縁部回転ナメ、その他不明	1mm以下の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	反転復元
82-9	63	33-4 前庭	环身 (須恵器)	口径10.5 器高3.7	外面：底部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 黒い粒子を含む	良好	青灰色	
82-10	63	33-4 玄室	环身 (須恵器)	口径10.2 器高3.9	外面：底部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	外間に自然釉付着
82-11	63	33-4 前庭	环身 (須恵器)	口径10.8 器高3.9	外面：底部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	
82-12	63	33-4 前庭	横瓶 (須恵器)	口径 器高	外面：ナメ 内面：タキ	1mm以下の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	
82-13	63	33-4 前庭	横瓶 (須恵器)	口径13.0 器高	外面：口縁部から腹部回転ナメ、 その他タキ矢切カ目 内面：回転ナメ	所々に1mm の砂粒を含む	良好	淡青灰色	底部穿孔
82-14	63	33-4 前庭	平瓶 (須恵器)	口径7.6 器高	外面：口縁部から頸部回転ナメ、 肩部カ目、その他不明 内面：口縁部回転ナメ、その他不明	1mm以下の 白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	
82-15	63	33-4 前庭	平瓶 (須恵器)	口径7.4 器高	外面：口縁部回転ナメ、底部カ目 内面：口縁部回転ナメ、その他不明	1mm以下の 白色砂粒を含む	良好	黄灰色	
82-16	62	33-5 前庭	横瓶 (須恵器)	口径10.2 器高21.8	外面：口縁部から腹部回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	片側に凹形の穴あり
82-17	62	33-5 玄室	壺 (須恵器)	口径6.0 器高8.8	外面：底部ナメ、その他山型、 縁部回転ナメ 内面：回転ナメ	白色砂粒を 少し含む	良好	淡青灰色	頸部にヘラ記号
82-18	62	33-5 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.2 器高4.1	外面：天井部へラケズリ後ナメ、 口縁部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	
82-19	62	33-5 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.4 器高4.2	外面：天井部へラケズリ後ナメ、 口縁部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	1-2mmの大 きい粒子を含む	良好	青灰色	
82-20	62	33-5 玄室	环身 (須恵器)	口径11.5 器高3.7	外面：底部へラケズリ後ナメ、 口縁部回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	0.5-1mmの 黒い粒子を含む	良好	淡青灰色	
82-21	62	33-5 玄室	环身 (須恵器)	口径13.4 器高3.8	外面：底部へラケズリ後ナメ、 口縁部回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	2mmの大 きい粒子を含む	良好	青灰色	
82-22	67	33-8 玄室	环蓋 (須恵器)	口径13.0 器高3.7	外面：天井部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白色砂粒を多く含む	良好	淡青灰色	
82-23	67	33-8 玄室	环身 (須恵器)	口径11.5 器高3.7	外面：底部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
82-24	67	33-8 玄室	环身 (須恵器)	口径11.0 器高4.0	外面：底部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm程度の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	
82-25	67	33-8 玄室	环身 (須恵器)	口径10.5 器高3.6	外面：底部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	1-2mmの白 色粒子を含む	良好	青灰色	
82-26	67	33-8 玄室	环身 (須恵器)	口径10.0 器高4.0	外面：回転ナメ 内面：底部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm程度の 灰色砂粒を多く含む	良好	青灰色	外間に自然釉 (黄褐色)付着
82-27		33-8 玄室	はそう (須恵器)	口径(10.0) 器高	外面：回転ナメ 内面：回転ナメ	1mm程度の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	反転復元
83-1	64	33-6 玄室	环蓋 (須恵器)	口径11.8 器高4.5	外面：天井部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：天井部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	
83-2	64	33-6 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.6 器高4.0	外面：天井部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：天井部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白色砂粒を含む	良好	淡青灰色	

標図番号	写真 図版	出土地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
83-3	64	33-6 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.1 器高3.7	外面：天井部へラケズリナデ、体部 窓ハラズリ、口縁部窓ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	
83-4	64	33-6 玄室	环蓋 (高台付) (須恵器)	口径11.9 器高4.2 高台厚6.8	外面：天井部へラケズリ、口 縁部窓ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 黒い粒子を 多く含む	良好 (やや黄色)	濃青灰色	
83-5	64	33-6 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.4 器高4.5	外面：天井部へラケズリ、口 縁部窓ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm前後の 白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
83-6	64	33-6 玄室	环蓋 (須恵器)	口径11.6 器高3.5	外面：天井部へラケズリ、口 縁部窓ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 多く含む	良好	濃青灰色	
83-7	64	33-6 玄室	环身 (須恵器)	口径10.4 器高3.5	外面：底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白・黒色砂 粒を含む	良好	濃青灰色	
83-8	64	33-6 玄室	环身 (須恵器)	口径10.6 器高3.6	外面：底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
83-9	64	33-6 玄室	环身 (須恵器)	口径9.9 器高4.1	外面：底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白・黒色砂 粒を含む	良好	濃青灰色	
83-10	64	33-6 玄室	环身 (須恵器)	口径10.7 器高4.0	外面：底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 含む	良好	濃青灰色	
83-11	64	33-6 玄室	环身 (須恵器)	口径10.4 器高4.0	外面：底部ナデ、口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1~2mmのやや 大きな白色砂 粒を含む	良好	青灰色	
83-12	64	33-6 玄室	环身 (須恵器)	口径10.6 器高4.0	外面：底部へラケズリ後ナデ口、 底部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 含む	良好	青灰色	底部外にヘラ記 号
83-13	64	33-6 前庭	提瓶 (須恵器)	口径8.3 器高21.6	外面：カキメ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 含む	良好	青灰色	焼成後、底部穿穴
83-14	64	33-6 玄室	高环 (須恵器)	口径10.7 器高14.4 脚径9.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 含む	良好	濃青灰色	3方向2段
83-15	64	33-6 前庭	はそう (須恵器)	口径高4.0	外面：カキメ、底部ケズリ 体部側突炎 内面：回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 少し含む	良好	黄灰色	
83-16	64	33-6 玄室・前庭	裏 (須恵器)	口径16.2 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 含む	良好	灰白色	
84-1	66	33-7 玄室	环蓋 (須恵器)	口径13.2 器高4.0	外面：天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	0.5mm大の 黒い粒子を 多く含む	良好	灰色	
84-2	66	33-7 玄室	环蓋 (須恵器)	口径13.2 器高4.5	外面：天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 黒い砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
84-3	66	33-7 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.9 器高4.0	外面：天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：大井部ナデ、口縁部回転ナデ	0.5~2mm大 の白色砂粒 を多く含む	良好	青灰色	
84-4	65	33-7 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.5 器高4.4	外面：天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 黒い粒子を 多く含む	良好	青灰色	外面全体に自然釉 付着
84-5	65	33-7 玄室	环蓋 (須恵器)	口径11.8 器高4.05	外面：天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1~2mmの白 色砂粒を少 し含む	良好	青灰色	
84-6	65	33-7 玄室	环蓋 (須恵器)	口径13.5 器高4.1	外面：天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 含む	良好	灰色	
84-7	65	33-7 玄室	环蓋 (須恵器)	口径13.3 器高4.3	外面：天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：大井部ナデ、口縁部回転ナデ	白色砂粒を 良好 青灰色			
84-8	65	33-7 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.9 器高4.0	外面：天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 多く含む	良好	濃青灰色	

鉢図番号	写真 版	山土地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
84-9		33-7 玄室	壺蓋 (須恵器)	口径13.2 高さ4.1	外面: 天井部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1~2mmの白 色砂粒を多く含む	良好	青灰色	
84-10		33-7 玄室	壺蓋 (須恵器)	口径13.1 高さ3.5	外面: 天井部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
84-11	65	33-7 玄室	壺身 (須恵器)	口径11.2 器高4.0	外面: 底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1~2mm大の 白・黒色砂 粒を含む	良好	青灰色	
84-12		33-7 玄室	壺身 (須恵器)	口径11.7 器高3.9	外面: 底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良好	灰色	
84-13	65	33-7 玄室	壺身 (須恵器)	口径10.6 器高4.0	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	
84-14	65	33-7 玄室	壺身 (須恵器)	口径11.5 器高4.1	外面: 底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	2~3mm以下 の白色砂粒 を多く含む	良好	濃青灰色	
84-15	65	33-7 玄室	壺蓋 (須恵器)	口径8.6 器高2.9	外面: 天井部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 黒い粒子を 多く含む	良好	青灰色	
84-16	65	33-7 玄室	壺身 (須恵器)	口径10.2 器高3.5	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 回転ナデ	1.5mm以下の 黒い粒子を 多量に含む	良好	濃青灰色	
84-17		33-7 玄室	高环 (須恵器)	口径12.2 器高11.4 脚径11.4	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 若干含む			三角透し、一段一 方向かなりひずんでいる
84-18	66	33-7 玄室	高环 (須恵器)	口径12.0 器高10.8	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	青灰色	三角透し、一段二 方向
84-19		33-7 玄室	高环 (須恵器)	口径11.0 器高10.3 脚径11.3	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の 白・黒色砂 粒を含む	良好	濃青灰色	三角透し、一段一 方向
84-20	65	33-7 玄室	高环 (須恵器)	口径10.6 器高10.4 脚径11.0	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1~2mm前後の 白色砂粒を 含む	良好	濃青灰色	三角透し、一段一 方向
84-21	65	33-7 玄室	高环 (須恵器)	口径10.9 器高10.4 脚径11.3	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 少し含む	良好	濃青灰色	三角透し、一段二 方向
84-22	65	33-7 玄室	高环 (須恵器)	口径11.7 器高9.9 脚径10.7	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	黄灰色	二角透し、一段三 方向
84-23	65	33-7 玄室	高环 (須恵器)	口径10.2 器高10.3 脚径8.6	外面: 回転ナデ 内面: 自然釉付のため剥落不明	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	青灰色 良好	自然釉	反転復元 二段三方向透し
84-24	65	33-7 玄室	高环 (須恵器)	口径9.3 器高11.4 脚径6.8	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の 白・黒色砂 粒を含む	良好	濃青灰色 (自然釉付着)	線上の透し、一段 三方向
84-25	65	33-7 玄室	高环 (須恵器)	口径8.5 器高8.6 脚径7.6	外面: 底部ケズリ、その他回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	三角透し、一段二 方向
84-26		33-7 前庭	壺 (須恵器)		外面: 回転ナデ、底部へラケズリ 内面: その他回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	反転復元 肩部に自然釉
85-1	65	33-7 玄室・前庭	提瓶 (須恵器)		外面: カキ目 内面: 口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	淡灰色	
85-2	65	33-7 玄室	提瓶 (須恵器)	口径7.0 器高17.8	外面: 口縁部回転ナデ、その 他カキ目 内面: 底部回転ナデ、その他不明	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	
85-3		33-7 前庭	壺 (須恵器)	口径10.0	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	反転復元 二段三方向透し
85-4	65	33-7 玄室	平瓶 (須恵器)	口径7.4 器高15.6	外面: 底部ナデ、口縁部から 体部下部まで回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	

補岡番号	写真 図版	出土地点	種別	法皇(cm)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
85-5	65	33-7 玄室	壺 (須恵器)	口径7.6 器高17.6 脚径7.0	外面：底板平ナメ、口縁部から折曲1~2mmの白色砂粒を多く含む 内面：底板平ナメ、脚部有目文タキナ	1mm以下 の白色砂粒を少し含む	良好	灰	外面に朱色顔料
85-6	66	33-7 玄室	高环 (土師器)	口径17.0 器高13.8 脚径12.2	外面：脚部の一部回転ナメ、その他のハケ日 内面：天井部ナメ、口縁部4転ナメ	1mm以下 の白色砂粒を少し含む	良好	黄灰色	外面に朱色顔料
85-7	66	33-7 玄室	高环 (土師器)	口径16.5 器高13.7 脚径12.5	外面：脚部の一部回転ナメ、その他のハケ日 内面：底板平ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下 の白色砂粒を少し含む	良好	黄褐色	外面に朱色顔料
85-8		33-7 玄室	高环 (土師器)	口径15.4 器高12.7 脚径12.2	外面：脚部の一部回転ナメ後日 内面：底板平ナメ、その他の回転ナメ	1mm以下 の白色砂粒を少し含む	良好	淡赤褐色	外面に朱色顔料
85-9	65	33-7 玄室	高环 (土師器)	口径15.5 器高12.5 脚径11.8	外面：脚部の一部回転ナメ後日 内面：底板平ナメ、その他の回転ナメ	1mm以下 の白色砂粒を少し含む	良好	淡赤褐色	外面に朱色顔料
85-10	65	33-7 玄室	高环 (土師器)	口径16.0 器高12.0 脚径15.5	外面：口縁部回転ナメ、その他のナメ 内面：底板ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下 の白色砂粒を少し含む	良好	淡赤褐色	外面に朱色顔料
88-1	67	三田谷2号墳	壺 (須恵器)	口径45.0 器高109.6	外面：口縁部回転ナメ、体部タキナ 内面：口縁部回転ナメ、体部タキナ	1mm程度の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	
88-2	67	一田谷2号墳	壺 (須恵器)	口径21.0	外面：口縁部中凹ナメ、体部タキナ 内面：口縁部回転ナメ、体部タキナ	1mm程度の 白色砂粒を含む	やや 不良	淡灰色	底部穿孔
88-3		二田谷2号墳	壺 (須恵器)		外面：体部タキナ 内面：体部タキナ	1mm程度の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	
88-4	67	33-7 前庭	壺 (須恵器)	口径19.1 器高	外面：口縁部回転ナメ、体部タキナ 内面：口縁部回転ナメ、体部タキナ	1mm程度の 白色砂粒を含む	良好	青灰色	
88-5		33-7 前庭	壺 (須恵器)	口径50.4 器高	外面：口縁部回転ナメ、体部タキナ 内面：口縁部回転ナメ、体部タキナ	1mm以下 の白色砂粒を少し含む	良好	淡青灰色	
90-1	68	SX01	壺蓋 (須恵器)	口径12.8 器高4.4	外面：天井部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	1mmの大 きな砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
90-2	68	SX01	壺蓋 (須恵器)	口径13.0 器高3.7	外面：天井部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	0.5~2mm大 きな砂粒を多く含む	良好	淡灰色	鉛質
90-3	68	SX01	壺身 (須恵器)	口径10.6 器高4.3	外面：底部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：底板ナメ、口縁部回転ナメ	1mm前後の 白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	
90-4	68	SX01	壺身 (須恵器)	口径11.6 器高4.6	外面：底部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：底板ナメ、口縁部回転ナメ	1mm前後の 白色砂粒を多く含む	良好	(外)黄灰色 (内)濃青灰色	
90-5	68	SX01	壺 (須恵器)	口径7.6 器高10.5	外面：底部へラケズリ、11mmの脚部回転ナメ 内面：口縁部回転ナメ、その他の不明	1mm以下の 白色砂粒を含む	良好	濃青灰色	外面の一部に自然 物付着
90-6	68	SX01	はそう (須恵器)	口径12.0 器高12.0	外面：底部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：底板ナメ、口縁部回転ナメ	微少の白色 砂粒を少量 含む	良好	青灰色	全体の約1/2残存
99-1		三田谷2号墳	壺蓋 (須恵器)	口径14.4 器高6.7	外面：天井部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白・黒色砂 粒を含む	良好	青灰色	
99-2		一田谷2号墳	壺蓋 (須恵器)	口径13.8 器高3.65	外面：天井部へラケズリ、口縁部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	きめ細かい 砂粒	良好	青灰色	
99-3		三田谷2号墳	壺身 (須恵器)	口径11.9 器高4.2	外面：大井部丁寧なへラケズ リ、口縁部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白・黒色砂 粒を含む	良好	濃青灰色	
99-4	69	二田谷2号墳	壺蓋 (須恵器)	口径12.9 器高4.1	外面：天井部へラケズリ、11mmの脚部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 白・黒色砂 粒を含む	良好	濃青灰色	反転復元
99-5		三田谷2号墳	壺蓋 (須恵器)	口径13.0 器高3.3	外面：天井部へラケズリ後板口 ナメ、11mmの脚部回転ナメ 内面：大井部ナメ、口縁部回転ナメ	1mm以下の 黒色粒子を 多く含む	良好	濃青灰色	环身の可能性あり

鉢岡番号	写真 図版	出土地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
99-6	69	二田谷2号墳	环蓋 (須恵器)	口径12.5 器高4.0	外面: 天井部へラケズリ、口きめ細かい 縁部回転ナデ 内面: 天井部、口縁部回転ナデ	良好	淡黃灰色		
99-7	69	三田谷2号墳	环蓋 (須恵器)	口径13.1 器高4.8	外面: 天井部へラケズリ、口1mm以下の 縁部回転ナデ 内面: 天井部、口縁部回転ナデ	良好	淡黃灰色		
99-8	69	二田谷2号墳	环蓋 (須恵器)	口径12.5 器高3.5	外面: 天井部へラケズリ、 口縁部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		
99-9		三田谷2号墳	环蓋 (須恵器)	口径11.8 器高3.8	外面: 天井部「弓」字へラケズリ、 口縁部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	青灰色		反転復元
99-10	69	一田谷2号墳	环蓋 (須恵器)	口径12.4 器高	外面: 天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		反転復元
99-11		二田谷2号墳	环蓋 (須恵器)	口径11.9 器高3.9	外面: 天井部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		反転復元
99-12		三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径13.2 器高3.6	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		反転復元
99-13	69	一田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径14.8 器高3.8	外面: 底部へラケズリ、口縁きめ細かい 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	青灰色		
99-14		二田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.4 器高3.5	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		反転復元
99-15		三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.7 器高4.3	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	淡黃灰色		
99-16		三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.4 器高4.3	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	淡黃灰色		
99-17	69	三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径14.2 器高3.3	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	淡黃灰色		
99-18		二田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.5 器高4.1	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		
99-19	69	三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.2 器高3.7	外面: 底部へラケズリ、 口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		
99-20		一田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.1 器高4.3	外面: 底部へラケズリ、 口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	青灰色		
99-21	69	二田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径10.7 器高3.2	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	青灰色		
99-22		三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.0 器高4.0	外面: 底部へラケズリ、 口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		
99-23		一田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径10.9 器高4.2	外面: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		反転復元
99-24		一田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径10.6 器高3.8	外面: 底部へラケズリ、 口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	青灰色		
99-25		三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径10.7 器高4.0	外面: 底部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	黃灰色		环蓋の可能性あり
99-26	69	三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径(12.2) 器高	外面: 回転ナデ(底部は板状 工具による押さえ) 内面: 回転ナデ	良好	青灰色		外面にヘラ記号あり 反転復元
99-27		一田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径12.6 器高4.1	外面: 底部へラケズリ後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	良好	淡黃灰色		

掲図番号	写真 図版	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	施成	色調	備考
99-28		三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径10.7 器高3.6	外面：底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 良好		黄灰色	外面に自然釉付着
99-29		三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.5 器高3.4	外面：底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 良好		黄灰色	反転復元
99-30		三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.3 器高3.3	外面：底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 良好		黄灰色	
99-31		三田谷2号墳	环身 (須恵器)	口径11.4 器高4.1	外面：底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下 白色砂粒を 良好		青灰色	
100-1		三田谷2号墳	臺 (須恵器)	口径 器高	外面：底部へラケズリ、その 他回転ナデ 内面：回転ナデ	白色砂粒を 少し含む	良好	紫灰色	反転復元
100-2		三田谷2号墳	臺 (須恵器)	口径10.0 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2mm程度の 白色砂粒を 少し含む	良好	淡灰色	反転復元
100-3		三田谷2号墳	高环 (須恵器)	口径 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 含む	(外)青灰色 (内)濃青灰色	3方向透し 反転復元	
100-4	69	三田谷2号墳	高环 (須恵器)	口径 器高	外面：环部回転ナデ 内面：ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 良好		淡青灰色	3方向透し 反転復元
100-5		三田谷2号墳	提瓶 (須恵器)	口径12.0 器高	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm以下の 白色・黒色 砂粒を含む	良好	黄灰色	全面に自然釉付着 反転復元
100-6		三田谷2号墳	臺 (土師器)		外面：ハケメ 内面：風化	1~3mm程度の 白色砂粒 を含む	良好	淡黄褐色	
100-7	69	三田谷2号墳	高环 (土師器)		外面：ナデ 内面：ナデ、輪部ケズリのちナデ	1~3mm程度の 白色砂粒 を含む	良好	淡黄褐色	
100-8		三田谷2号墳	高环 (土師器)		外面：ナデ 内面：ナデ	1~3mm程度の 白色砂粒 を含む	良好	明黄褐色	
100-9		三田谷2号墳	高环 (土師器)		外面：ナデ 内面：ナデ、輪部ケズリのちナデ	1~3mm程度の 白色砂粒 を含む	良好	淡黄褐色	
100-10	69	三田谷2号墳	高环 (土師器)		外面：ナデ 内面：ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 良好		淡黄褐色	
106-1	70	S K 0 1	环身 (土師器)	口径13.2 器高1.7	外面：底部糸切り、その他の回転ナデ 内面：底部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 良好		淡黄褐色	
106-2	70	S K 0 1	环身 (土師器)	口径13.0 器高6.6	外面：底部糸切り、その 他の回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	淡黄褐色	反転復元
106-3	70	S K 0 1	小瓶 (青磁)	口径11.0 器高4.4 高台径3.8	外面：体部ナデ、底部ケズリ 内面：ナデ	密	良好	淡綠青色	
106-5	70	33支群	环身 (須恵器)	口径12.6 器高4.1	外面：底部糸切り後ナデ、その 他の回転ナデ 内面：底部ナデ、その他の回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 良好		青灰色	
106-6		33支群	こね鉢 (瓦質)		外面：ナデ 内面：ハケメ	密	良好	暗灰色	
106-7		33支群	盃 (須恵器)底径	口径9.4 器高	外面：口縁から内部繊維ナデ、その後 内面：口縁から内部繊維ナデ、その後	密	良好	黄灰色	反転復元

辨認番号	写真 版面	出土地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
113-1	12-1 玄室	蓋片 (須恵器)			外面: タタキ 内面: タタキ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	灰色	*
113-2	12-1 玄室	蓋片 (須恵器)			外面: タタキ 内面: タタキ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	灰色	
113-3	12-2 138 玄室	壺 (須恵器)		口径7.8 高さ19.2	外面: 山継から透跡有ナデ、口縁ナデ 内面: フチ部ナデ及び底部ヘラズナ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	内面にヘラ記号あ り
113-4	12-2 138 玄室	壺蓋 (須恵器)		口径11.9 高さ3.9	外面: 天井部ヘラ切りナデ、 口縁部凹凸ナデ 内面: 天井部ナデ、口縁部凹凸ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	内面にヘラ記号あ り
113-5	12-2 138 玄室	壺蓋 (須恵器)		口径11.6 高さ4.1	外面: 天井部ヘラ切りナデ、 口縁部凹凸ナデ 内面: 天井部ナデ、口縁部凹凸ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	内面に竹管状刺突 文あり
113-6	12-2 138 玄室	壺蓋 (須恵器)		口径11.4 高さ3.9	外面: つまみ部斜削有ナデ、モ の他ヘラズリ後回転ナデ 内面: 天井部ナデ、口縁部凹凸ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	内面にヘラ記号あ り
113-7	12-2 138 玄室	壺身 (須恵器)		口径9.8 高さ3.5	外面: 底部ヘラ切り後ナデ、 口縁部凹凸ナデ 内面: フチナデ、口縁部凹凸ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	内面にヘラ記号あ り
113-8	12-2 138 玄室	壺身 (須恵器)		口径9.6 高さ3.5	外面: 底部ヘラグリリ後ナデ、 口縁部凹凸ナデ 内面: フチナデ、口縁部凹凸ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	灰色	外底に竹管状 刺突文
113-9	12-2 138 玄室	壺身 (須恵器)		口径12.4 高さ4.8 台脚6.8	外面: 回転ナデ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	反転復元
166-1	22-2 139 前庭	壺蓋 (須恵器)		口径12.6 高さ3.5	外面: 口縁部凹凸ナデ 天井部ヘラズリ後回転ナデ 内面: 口縁部凹凸ナデ、モの他ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 少し含む	良好	黄灰色	完形
166-2	22-2 139 玄室	壺身 (須恵器)		口径10.5 高さ12.6	底面部外: ヘラ切り後ナデ 底面部内: ナデ その他: 回転ナデ	1.0~1.5mm 大的白い砂 粒を含む	良好	青灰色	
166-3	22-2 139 玄室	壺身 (須恵器)		口径10.6 高さ3.4	底面部外: ヘラズリ後回転ナデ 底面部内: 静止ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm程度 の白色砂粒 を含む	良好	黄灰色	残存1/2以上
166-4	22-2 139 前庭	壺身 (須恵器)		口径9.4 高さ3.1	底面部外: ハサクリ後回転ナデ 底面部内: 静止ナデ その他: 回転ナデ	1mm大の砂 粒を少量含 む	良好	青灰色	残存1/2以下 反転復元
166-5	22-2 前庭	壺身 (須恵器)		口径(9.3) 器高	その他: 回転ナデ	微砂粒を含 む	良好	灰色	小片 反転復元
166-6	22-2 前庭	壺 (須恵器)		口径4.9 器高	その他: 回転ナデ	密、白色砂 粒を若干含 む	良好	青灰色	
166-7	22-2 前庭	壺 (上端部)		口径14.6 高さ4.8	底面部外: 回転糸切り その他: 回転ナデ	2mm程度の 砂粒を微量 に含む	良好	赤褐色	反転復元
166-8	22-3 140 前庭・玄室	碗 (須恵器)		口径11.0 器高	外面: 氏部ヘラズリ後回転ナデ その他回転ナデ 内面: 回転ナデ	1~5mm程度 の砂粒を多 く含む	良好	青灰色	ほぼ完形 天井部外にヘラ 記号
166-9	22-3 140 前庭	壺蓋 (須恵器)		口径12.0 器高4.1	天井部外: ナデ 天井部内: ナデ その他: 回転ナデ	1mm大の砂 粒を含む	良好	青灰色	残存1/2以上
166-10	22-3 140 前庭	壺蓋 (須恵器)		口径10.8 器高3.6	天井部外: ヘラ切り後ナデ 天井部内: ナデ その他: 回転ナデ	1~2mm大の 砂粒を含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元
166-11	22-3 140 前庭	壺蓋 (須恵器)		口径(9.0) 器高	天井部外: 不明 天井部内: ナデ その他: 回転ナデ	白色微砂粒 を含む	良好	黒灰色	外面に自然物付着
166-12	22-3 140 前庭	蓋 (須恵器)		口径7.5 器高2.7	外面: 不明 内面: 天井部ナデ、口縁部凹凸ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	
166-13	22-3 140 前庭	壺身 (須恵器)		口径10.2 器高4.2	外面: 氏部ヘラ切り後ナデ、 口縁部凹凸ナデ 内面: 底部ナデ、口縁部凹凸ナデ	2mm程の白 色砂粒を含 む	良好	青灰色	

桟岡番号	写真 図版	出上地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	船上	焼成	色調	備考
166-14	22-3 140 前庭	环身 (須恵器)	口径10.3 器高3.9	外面：底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底漆ナデ、口縁部回転ナデ	1mm程の白 色砂粒を含む	良好	黄灰色		
166-15	22-3 140 前庭	环身 (須恵器)	口径9.6 器高3.6	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：静止ナデ その他：回転ナデ	1mm大の砂 粒黒い粒子 を含む	良好	青灰色	完形	
166-16	22-3 140 前庭	环身 (須恵器)	口径8.9 器高3.6	底部外面：回転ヘラ削り後ナデ 底部内面：山形回転ナデ その他：回転ナデ	1mm大の砂 粒を含む	良好	青灰色	反転復元	
166-17	22-3 140 前庭	环身 (須恵器)	口径12.9 器高4.5 高台径7.6	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5~1mm大 の白色砂粒 良好 を含む	良好	黄灰色	1/2以上 反転復元	
166-18	22-3 140 前庭	环身 (須恵器)	高台径11.8	外面：回転ナデ 内面：底漆ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 良好 青灰色 含む			反転復元	
166-19	22-3 140 前庭	平瓶 (須恵器)	口径9.2 器高15.6	底部外面：回転ヘラ削り 底部内面：ナデ その他：カキナフカはカタシモ-ナデ	白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	1/2以下	
166-20	22-3 140 前庭	盃 (須恵器)	口径	底部外面：回転ヘラ削り その他：回転ナデ	密、白色砂 粒を若干含む	良好	黄灰色	1/2以上 底山にヘラ記号あり	
166-21	22-3 140 前庭	はそう (須恵器)	口径11.4 器高13.7	外面：底部へラケズリ、その 他回転ナデ 内面：回転ナデ	1~5mmの白 色砂粒を多 く含む	良好	黄灰色		反転復元
166-22	22-3 140 玄室	环 (土師器)	口径18.0 器高4.8	底部外面：糸切り 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の白 色砂粒を含 む	良好	淡黃灰色	心形 底部に穴が開いて いる	
166-23	22-4 前庭	环蓋 (須恵器)	口径12.4	外面：ヘラ切り後ナデ、口縁1~2mm以下 内面：大井筒ナデ、口縁部回転ナデ	1mm大の白 色砂粒を 若干含む	良好	黄白色		反転復元
166-24	22-4 140 前庭	环蓋 (須恵器)	口径11.0 器高4.2	外面：天井部へラ切り後ナデ、 1段級部回転ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 良好 黄灰色 含む				
166-25	22-4 140 前庭	环身 (須恵器)	口径8.6 器高3.3	外面：底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底漆ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	黄灰色		
166-26	22-4 前庭	环身 (須恵器)	口径 器高	回転ナデ	密、白色砂 粒を少し含 む	良好	黄灰色		小片
166-27	22-4 前庭	壺 (須恵器)	口径(7.6) 器高	回転ナデ	密	良好	濃灰色	小片 全面に自然釉 反転復元	
166-28	22-4 前庭	高环 (須恵器)	脚径11.4	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm程の白 色砂粒を含 む	良好	黄灰色		反転復元 外面上に自然釉付着
167-1	22-3 141 前庭	壺 (須恵器)	口径21.6 器高55.4	外面：口縁部回転ナデ、その5mmの白色 砂粒を含む 内面：口縁部回転ナデ、その他のタキ	良好	青灰色		1/2以上 底部穿孔	
167-2	22-3 141 前庭	壺 (須恵器)	口径18.0	外面：口縁部回転ナデ、その1mm以下の 白色砂粒を 良好 灰色 含む				1/2以上 反転復元、外面上 に自然釉付着	
167-3	22-2、3 141 前庭	壺 (須恵器)	口径46.0	外面：口縁部平行タキ、その 他平行タキ 内面：口縁部回転ナデ、その他のタキ	1~5mmの白 色砂粒を含 む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元	
167-4	22-2、3 前庭	壺 (須恵器)	口径	体部平行タキ、その 他回転ナデ 内面：体部タキ、その他のタキ	1~2mmの白 色砂粒を含 む	良好	青灰色	1/2以下	
167-5	22-2、3 前庭	横瓶 (須恵器)	口径11.6	外面：口縁部、肩部回転ナデ、 その他平行タキ 内面：口縁部回転ナデ、その他のタキ	白色砂粒を 若干含む	良好	灰色	反転復元 外面上に自然釉 付着	
167-6	22-2 前庭、玄室	壺 (須恵器)	口径19.8	外面：口縁部回転ナデ、その他のタキ 内面：口縁部回転ナデ、その他のタキ	1~3mmの白 色砂粒を多 く含む	良好	黄灰色	1/2以下 反転復元	

押出番号	写真 図版	出土地点	種別	法規(cm)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
168-1	141	22-5 玄室	环蓋 (須恵器)	口径11.4 器高4.0	外面：大井部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：大井部ナデ、口縁部回転ナデ	1~5mmの白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	1/2以上 反転復元 内面にヘラ記号あり
168-2		22-5 玄室	环蓋 (須恵器)	口径13.6	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他ナデ	1mm程度の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	小片 反転復元
168-3		22-5 玄室	环蓋 (須恵器)	口径11.6	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm程度の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	小片 反転復元
168-4		22-5 前庭	环身 (須恵器)	口径(12.6) 器高3.5	底部外表面：ナデ その他：回転ナデ	密	良好	黄灰色	1/2以下 反転復元
168-5		22-5 玄室	环身 (須恵器)	口径11.0	外面：口縁部回転ナデ、その他ナデ 内面：口縁部回転ナデ、その他ナデ	1mm以下の白色砂粒を良好	灰色	少し含む	小片 反転復元
168-6		22-5 玄室	环身 (須恵器)	口径10.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	小片 反転復元
168-7	141	22-5 前庭	壺 (須恵器)		外面：口縁部削回転ナデ、その他ナデ 内面：回転ナデ	1~2mmの白色砂粒を含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元
168-8		22-6 前庭	高杯 (須恵器)	口径13.2 器高(3.75)	回転ナデ	砂粒を少し含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元
168-9		22-6 前庭	环身 (須恵器)	口径11.0 器高(3.75)	底部外表面：ナデ その他：回転ナデ	密	良好	黄灰色	1/2以下 反転復元
168-10	141	22-6 玄室	环身 (須恵器)	口径9.7 最大径12.7 器高3.7	底部外表面：ナデ その他：回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を含む	良好	青灰色	完形
168-11		22-6 前庭	壺 (須恵器)	口径 器高	底部外表面：回転ナデ 底部外表面：回転ヘラケズリ	砂粒を多く含む	良好	青灰色	1/2以下
168-12		22-6 前庭	壺 (須恵器)	口径12.8 器高	回転ナデ	密	良好	黄灰色	小片 反転復元
168-13	141	22-7 前庭	环蓋 (須恵器)	口径11.6 器高4.3	外面：天井部へラ切り後ナデ、 その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	青灰色	完形
168-14	142	22-7 前庭・玄室	环蓋 (須恵器)	口径11.8 器高3.8	外面：天井部へラ切り後ナデ、 その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を少し含む	良好	黄灰色	1/2以上 反転復元 外面天井部にヘラ記号あり
168-15	142	22-7 前庭	环蓋 (須恵器)	口径11.4 器高4.5	天井部外表面：ナデ 底部内表面：ナデ その他：回転ナデ	0.5~1mmの砂粒を含む	良好	灰色	ほぼ完形
168-16	142	22-7 前庭	环蓋 (須恵器)	口径12.3 器高(3.6)	外面：天井部へラ切り後ナデ、 その他回転ナデ 内面：天井部ナデ、その他回転ナデ	1mm程度の白色砂粒を少し含む	良好	灰色	1/2以上 外面に自然物付着
168-17	142	22-7 前庭	环身 (須恵器)	口径10.6 器高4.0	外面：底部へラ切り後ナデ、 その他回転ナデ 内面：長ナケ、その他回転ナデ	1mm程度の白色砂粒を多く含む	良好	黄灰色	完形 外面底部にヘラ記号あり
168-18	142	22-7 前庭	环身 (須恵器)	口径10.4 最大径12.8 器高4.2	底部外表面：へラ切り後ナデ 底部内表面：ナデ その他：回転ナデ	1mmの砂粒を含む	良好	青灰色	完形 底部外表面にヘラ記号あり
168-19	142	22-7 前庭	环身 (須恵器)	口径10.3 器高4.1	外面：底面部ナデ、その他回転ナデ 内面：底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ	1~2mmの白色、黒色粒子を多く含む	良好	灰色	1/2以上
168-20	142	22-7 前庭	环身 (須恵器)	口径10.2 器高4.0	外面：底面部ナデ、その他回転ナデ 内面：底面部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を含む	良好	黄灰色	1/2以上
168-21	142	22-7 前庭	环身 (須恵器)	口径10.0 器高4.0	底部外表面：へラ切り後ナデ 底部内表面：ナデ その他：回転ナデ	2mm以下の砂粒を含む	外面は灰色 内面は青灰色	完形 外面に自然物付着	
168-22	142	22-7 前庭・玄室	环身 (須恵器)	口径9.0 器高7.9 口径6.4	外面：回転ナデ 内面：底面部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の白色砂粒を多く含む	良好	濃青灰色	1/2以上 反転復元 3方向1段透

辨認番号	写真 図版	出土土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎上	焼成	色調	備考
168-23	142	22-7 前庭	平窓 (須恵器)	口径6.2 器高	回転ナデ、カキ目	密	良好	青灰色	小片 反転復元
168-24	142	22-7 前庭	壺 (須恵器)	口径 器高	底部外面、その他：回転ヘラ削り	微小の白色 砂粒を含む	良好	灰	小片
168-25	142	22-8 前庭	壺 (須恵器)	口径7.0 器高3.1	天井部外面：回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ヘラ削り	1mm大の白 色砂粒を含む	良好	青灰色	完形 外面にヘラ記号あり
168-26	142	22-8 前庭	壺 (須恵器)	口径11.8 器高2.8	底部外面：ヘラ削り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	密	良好	青灰色	1/2以上
168-27	142	22-8 前庭	壺 (須恵器)	口径9.4 器高3.3	底部外面：ヘラ削り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	2mm以下の白 色砂粒を含む	良好	青灰色	完形
168-28	142	22-8 前庭	壺 (土師器)	口径9.5 器高2.9	底部外面：ナデor指押正 底部内面：不明 その他：ミガキ	精良	良好	褐色	
168-29	142	22-8 前庭	壺 (須恵器)	口径 器高	底部内面：ナデ その他：回転ナデ	密	良好	濃青灰色	一方向の台形通し 底部側面に自然釉 付着
168-30	142	22-8 前庭	高壺 (須恵器)	口径9.2 脚径6.8 器高3.0	底部内面：ナデ その他：回転ナデ、沈線あり	1mm度の白 色砂粒を含む	良好	濃青灰色	
168-31	143	22-11 玄室	壺蓋 (須恵器)	口径11.5 最大径13.6 器高3.1	天井部外面：回転ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1.0~1.5mm大 の白色・黒色 砂粒を含む	良好	青灰色	完形
168-32	143	22-11 玄室	壺蓋 (須恵器)	口径10.2 最大径13.3 器高3.4	天井部外面：回転ヘラ切り後 丁寧なナデ、天井部内面：静 止ナデ、その他：回転ナデ	1mm大の黒 色砂粒を含む	良好	灰色	完形 口縁にゆがみあり
168-33	143	22-11 玄室	高壺 (須恵器)	口径12.7 高台径8.7 器高4.7	底部内外面：静止ナデ その他：回転ナデ	1mm大白色砂、 0.5~2mmの黒 色砂粒を含む	良好	灰色	
168-34		22-13 前庭	壺 (須恵器)	口径(10.6) 器高	回転ナデ	0.5~1mm大 の黒色砂粒を含む	良好	淡灰色	小片
168-35		22-13 前庭	高壺 (須恵器)	口径10.2 器高	底部内面：ナデ 底部外面その他：回転ナデ	0.5~1mm大 の黒色粒子を含む	良好	青灰色	残存1/2以下
169-1	143	22-9 前庭	壺蓋 (須恵器)	口径10.4 器高3.7	大井部外面：静止ナデ その他：回転ナデ	1~3mm大の 黒い粒子を含む	良好	濃青褐色	ほぼ完形 外側にヘラ記号あり
169-2	143	22-9 玄室	壺蓋 (須恵器)	口径10.0 器高4.3	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内面：静止ナデ その他：回転ナデ	1~2mm大の 砂粒を含む	良好	濃青灰色	完形
169-3	143	22-9 玄室	壺身 (須恵器)	口径9.6 最大径11.9 器高3.8	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の砂 粒を含む	良好	灰白色	完形
169-4	143	22-9 玄室	壺身 (須恵器)	口径9.6 最大径11.6 器高3.3	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色粒子を 少し含む	良好	青灰色	
169-5		22-9 前庭	高壺 (須恵器)	口径(8.0) 沈線あり	回転ナデ	密	良好	濃青灰色	小片 反転復元
169-6	143	22-9 前庭	高壺 (須恵器)	口径 器高	底部内面：ナデ その他回転ナデ	密 すかすか	良好	濃青灰色	反転復元
169-7	143	22-9 前庭	高壺 (須恵器)	口径 器高	回転ナデ	密	良好	濃青灰色	反転復元
169-8	143	22-9 玄室	はそう (須恵器)	口径9.2	回転ナデ	白色砂粒を 多く含む 豆わりを認める	良好	青灰色	反転復元
169-9	143	22-9 前庭	壺 (須恵器)	口径15.0 器高24.7	内側：タキ 外側：タキ後カキ目 口縁：回転ナデ	砂粒を若干 含む	良好	青灰色	完形

辨証番号	写真版	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎七	焼成	色調	備考
169-10 144	22-14 玄室		壺蓋 (須恵器)	口径11.0 器高4.1	天井部外面:ナデ 大井部内面:ナデ その他:回転ナデ	1~3mmの砂粒を含む 1mm以上の砂粒 甚者多く含む	良好	青灰色	完形、外面の一部に 自然釉、大井部外面 にヘラ木弓あり
169-11 144	22-14 玄室		高环 (須恵器)	口径8.5 器高8.8 脚径6.6	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	反転復元 3方向1段透し
169-12 144	22-14 玄室		蓋 (須恵器)	口径5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	1~5mmの白 色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	反転復元
169-13 144	22-15 玄室		环身 (須恵器)	口径8.6 器高3.2	外面:底膨ナデ、11瓣部回転ナデ 内面:回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 多く含む	良好	灰色	
169-14 144	22-15 玄室		壺蓋 (須恵器)	口径10.7 器高3.45	外面:つまみ部・口縁部回転ナデ、 その他ヘラケズリ後ナデ 内面:口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	
169-15 144	22-17 前庭		壺蓋 (須恵器)	口径(10.2) 器高(3.8)	外面:天井部ヘラ切後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面:大井部ナデ、口縁部回転ナデ	1~5mmの白 色砂粒を 多く含む	良好	濃青灰色	反転復元
169-16 144	22-17 前庭		壺蓋 (須恵器)		外面:回転ナデ、ヘラケズリ 後回転ナデ 内面:口縁部回転ナデ、その他のナデ	1mm以下 の白色砂粒が 多く含む	良好	黄灰色	反転復元
169-17 144	22-17 前庭		环身 (須恵器)	口径(10.4) 器高(4.0)	外面:底部ヘラケズリ、その他 他回転ナデ 内面:底膨ナデ、その他のナデ	1~5mmの白 色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	反転復元
169-18 146	22-18 玄室		壺蓋 (須恵器)	口径9.6 器高3.2 最大径11.3	天井部外面:底膨り削り後回転ナデ 天井部内面:ナデ その他:口縁ヘラ削り	0.5~1mmの砂 粒を含む	良好	灰色	完形 内面に7.5cmの円 形重ね焼き痕あり
169-19 146	22-18 玄室		壺蓋 (須恵器)	口径10.6 器高2.8 最大径13.2	天井部外面:底膨り削り後回転ナデ 天井部内面:ナデ その他:回転ナデ	0.5~1mmの砂 粒を含む	良好	暗灰色 (一部淡褐色帶 びる)	完形 内面に7.5cmの円 形の重ね焼き痕あり、同時に 窓の合板と対応する
169-20 146	22-18 玄室		壺蓋 (須恵器)	口径10.8 器高2.6 最大径13.4	天井部外面:ナデ 天井部内面:ナデ その他:回転ナデ	1mmの大 砂粒を少 量含む	良好	青灰色	完形
169-21 146	22-18 玄室		蓋环 (須恵器)	口径10.9 器高2.3	天井部内面:ナデ その他:回転ナデ	1~2mmの大 砂粒を少 量含む	良好	紫色	完形 外は全面に自然 釉付着
169-22 146	22-18 玄室		环身 (須恵器)	口径12.6 器高4.6 高台径7.7	底部外面:ナデ 底部内面:ナデ その他:回転ナデ	1mmの大 砂粒を含む	良好	紫色	ほぼ完形
169-23 146	22-18 玄室		环身 (須恵器)	口径10.8 器高3.9 高台径7.0	底部外面:ナデ 底部内面:回転ナデ その他:回転ナデ	1~2mmの砂 粒を含む 1mmの良好 黑色斑を含む	良好	灰色	完形
169-24 146	22-18 玄室		环身 (須恵器)	口径12.3 器高7.8 器高4.9	底部外面:回転ナデ 底部内面:ナデ その他:回転ナデ	1mmの大 砂粒を含む	良好	暗灰色	完形
169-25 146	22-18 玄室		环身 (須恵器)	口径12.0	外面:不明 内面:回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	反転復元 外はに自然釉付着
169-26 146	22-18 玄室		壺 (須恵器)	口径9.0 器高18.8 脚径7.7	底部外面:回転ナデ その他:割り後回転ナデ 外側部部カキ目、回転ナデ	白色砂粒を 多く含む	良好	濃青灰色	完形、一部に自然 釉付着、片側にター ル状付着物あり
169-27 146	22-18 玄室		高环 (須恵器)	口径16.7 器高11.1	底部内面:ナデ 底部内面:ナデ その他:回転ヘラ削り	1mmの大 砂粒を含む	良好	青灰色	完形 外にヘラ記号あり
169-28 146	22-18 玄室		高环 (須恵器)	口径17.5 器高12.6 器高14.0	底部内面:ナデ 底部内面:ナデ その他:回転ナデ	白色砂粒を 少し含む	良好	黄灰色	完形 沈線あり 2方向1段透し
170-1 145	22-16 前庭		环身 (須恵器)	口径10.0 器高9.6	天井部外面:ナデ 天井部内面:ナデ その他:回転ナデ	1mmの大 砂粒を多く含 む	良好	青灰色	完形
170-2	22-16 前庭		壺蓋 (須恵器)	口径9.6 器高3.9	天井部外山:ヘラ切り後ナデ 天井部内面:静止ナデ その他:回転ナデ	1mmの大 砂粒を少 量含む	良好	青灰色	1/2以上 反転復元
170-3	22-16 前庭		壺蓋 (須恵器)	口径8.4 最大径10.8 器高2.7	天井部外山:ヘラ削り後回転ナデ 天井部内面:ナデ その他:ヘラ削りナデ、回転ナデ	1~2mmの白 色砂粒を少 量含む	良好	濃青灰色	

押送番号	写真 図版	出土地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
170-4		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径8.8	外面：口縁部凹凸ナデ、その他の凹凸ナデ 内面：天井部ナデ、その他凹凸ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元
170-5		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径8.4	外面：1mm切削凹凸ナデ、その他の凹凸ナデ 内面：天井部ナデ、口縁部凹凸ナデ		良好	青灰色	1/2以下 反転復元
170-6 145		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径8.3 最大径10.5 器高2.7	天井部外面：削り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	白色、黒色 砂粒を少し 含む	良好	青灰色	内面にヘラ記号あり
170-7 145		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径12.3 器高2.8	天井部外面：ヘラ削り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の砂 粒を含む	良好	青灰色	1/2以上 反転復元
170-8 145		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径11.6 器高2.8 最大径14.0	天井部外面：削り後ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	砂粒を含む			完形
170-9 145		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径10.6 器高	大井部外面：回転ヘラ削り後 回転ナデ、天井部内面：ナデ、その他：回転ナデ	白色砂粒を 含む	良好	青灰色	1/2以上 反転復元
170-10 145		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径14.2 最大径17.0 器高3.2	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の白 色砂粒を含 む	良好	暗灰色	大井部外面に竹管 文あり
170-11 145		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径12.9 器高3.8	天井部外面：凹凸ナデ、回転ヘラ削 り削り後ナデ、大井部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の砂 粒を含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元
170-12		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径16.0 器高	その他：回転ナデ	白色砂粒を含む	良好	灰色	1/2以下 反転復元
170-13 145		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径15.3 器高2.5	大井部外面：回転ナデ、ヘラ削 り削り後ナデ、天井部内面：ナ デ、その他：回転ナデ	1~3mm大の 砂粒を多く 含む	良好	青灰色	残存1/2以上
170-14 145		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径13.4 器高2.6	天井部外面：ナデ 天井部内面：ナデ その他：回転ナデ、ヘラ削り後ナデ	1~2mm大の 砂粒を多く 含む	良好	暗灰色	1/2以上、外側と内側の一 部に白色點状、内側に深 7.5cm位の重ね焼きの跡あり
170-15		22-16 前庭	坏蓋 (須恵器)	口径16.0 器高	外面：口縁部回転ナデ、天井部 回転ナデ、その他ヘラケツリ 後回転ナデ、内面：回転ナデ		良好	灰色	小片 反転復元
170-16 145		22-16 前庭	坏身 (須恵器)	口径8.9 器高4.5	底面部外面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の砂 粒を含む	良好	灰色	ほぼ完形
170-17		22-16 前庭	坏身 (須恵器)	口径9.0 器高5.3	底面部外面：ヘラ切り後ナデ 底面部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の砂 粒を含む	良好	青灰色	反転復元
170-18		22-16 前庭	坏身 (須恵器)	口径9.5 器高3.3	底面部外面：ヘラ切り後ナデ 底面部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の砂 粒を含む	良好	淡紫灰色	1/2以上 反転復元
170-19 145		22-16 前庭	坏身 (須恵器)	口径9.8 器高3.6	外面：底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内面：底部ナデ、口縁部削り後ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	灰色	1/2以上
170-20 145		22-16 前庭	坏身 (須恵器)	口径9.0 器高3.2	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の砂 粒を多く含 む	良好	青灰色	1/2以上 反転復元
170-21 145		22-16 前庭	坏身 (須恵器)	口径12.6 高台径4.7 器高4.7	底部外面：ヘラ切り後ナデ 底部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm大の白 色砂粒を含 む	良好	青灰色	1/2以上 反転復元
170-22 145		22-16 前庭	坏身 (須恵器)	高台径7.8	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ(使用痕)口縁 部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	濃青灰色	1/2以下 反転復元 外面に自然釉付着
170-23 145		22-16 前庭	坏身 (須恵器)	口径12.7 器高4.9	外面：1mm切削回転ナデ、ヘラ ケツリ後回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	青灰色	
170-24 145		22-16 前庭	高杯 (須恵器)	口径8.6 器高5.0 器脚6.0	外面：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	濃青灰色 2方向段落透し	1/2以上 反転復元
170-25		22-16 前庭	高杯 (須恵器)	口径8.6 器高5.5 器脚4.7	外山：回転ナデ 内面：底部ナデ、その他回転ナデ	1mm程の白 色砂粒を多 く含む	良好	濃青灰色	1/2以上

鉢岡番号	写真 図版	出土地点	種 別	法量 (cm)	手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
170-26	145	22-16 前庭	高环 (須恵器)	口径8.5 器高5.2 脚径4.6	外面：回転ナデ 内部：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm程の白 色砂粒を多 く含む	山打	濃青灰色	1/2以上
170-27	145	22-16 前庭	高环 (須恵器)	口径10.1	外面：回転ナデ 内部：底部ナデ、その他の回転ナデ	1mm程の白 色砂粒を少 し含む	良好	濃青灰色	1/2以上 2方向透し
170-28		22-16 前庭	高环 (須恵器)	口径 器高 脚径8.0	回転ナデ	白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	
170-29	145	22-16 前庭	高环 (須恵器)	口径8.6 器高8.4 脚径6.2	回転ナデ 底部内部：ナデ	白色砂粒を 少し含む	良好	灰色	1/2以上 反転復元
170-30		22-16 前庭	高环 (須恵器)	口径(16.0)	底部内部：静止ナデ その他：回転：ナデ	0.5~1mm大 の白色砂粒 を含む	良好	暗青灰色	1/2以下 反転復元
170-31	145	22-16 前庭	高环 (須恵器)		外面：回転ナデ 内部：側面回転ナデ、その他ナデ	1mm程度の 白色砂粒を	良好	灰色	1/2以下 2方向透し
170-32		22-16 前庭	壺 (須恵器)	口径(8.8) 器高	外面：回転ナデ	白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
170-33	145	22-16 前庭	壺 (須恵器)	口径(8.6) 器高18.2	外面：底部ヘラケズリ、口縁部回転ナデ その他：口縁ヘラケズリ+ナデ 内部：回転ナデ	1~2mmの白 色砂粒を	良好	灰色	1/2以上 半周部に凹凸感 有無部、底部に自然
170-34		22-16 前庭	壺 (須恵器)	口径 器高	底部外部：回転ヘラ削り 底部内部：ナデ その他：回転ナデ	白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
170-35		22-19 前庭	环蓋 (須恵器)	口径12.0 器高4.0	外面：天井部ナデ、その他回転ナデ 内部：天井部ナデ、その他回転ナデ	1~2mm程の 白色砂粒を	良好	青灰色	反転復元
170-36	144	22-19 前庭	环蓋 (須恵器)	口径9.4 器高2.7	外面：天井部ヘラケズリナデ その他：他の回転ナデ 内部：天井部ナデ、その他の回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を	良好	灰色	
170-37		22-19 前庭	环蓋 (須恵器)	口径13.4	外面：口縁部回転ナデ、その他ヘラケズリ後ナデ 内部：回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を	良好	灰色	反転復元
170-38		22-19 前庭	环身 (須恵器)	口径10.0 器高3.6	外面：底部ナデ、口縁部回転ナデ 内部：底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を	良好	灰色	反転復元
170-39		22-21 前庭	环蓋 (須恵器)	口径12.7 器高4.5	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内部：ナデ その他：回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を	良好	灰黄色	ヘラ記号あり
170-40		22-21 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.7 器高4.5	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内部：ナデ その他：回転ナデ	1mmの白 色砂粒を	良好	淡灰黄色	光形 天井部外面にヘラ 記号あり
170-41		22-21 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.6 器高4.7	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内部：ナデ その他：回転ナデ	1mmの砂 粒を含む	良好	青灰色	ほぼ光形 天井部外面にヘラ 記号
170-42	144	22-21 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.6 器高4.0	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内部：ナデ その他：回転ナデ	1~2mmの砂 粒を多く含む	良好	青灰色	完形 天井部外面にヘラ 記号
194-1	150	23-1 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.6 器高4.2	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内部：ナデ その他：回転ナデ	1mmの砂 粒を多く含む	良好	濃青灰色	完形 大井部外側にヘラ 記号あり
194-2	150	23-1 前庭	环蓋 (須恵器)	口径12.7 器高4.5	天井部外面：ヘラ切り後ナデ 天井部内部：ナデ その他：回転ナデ	0.5~1mm大 の白色砂粒 を含む	良好	灰色	反転復元 1/2以上
194-3		23-1 前庭	环身 (須恵器)	口径12.0 器高	回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を	良好	灰色	反転復元
194-4	150	23-1 玄室	高环 (須恵器)	口径15.1 器高9.5 脚径9.0	底部外面：回転ナデ 底部内部：ナデ その他：回転ナデ	白色砂粒を 含む	やや 不良	黄色	光形 2方向1段
194-5	150	23-1 前庭	高环 (須恵器)	口径13.5 器高	天井部内部：ナデ その他：回転ナデ	2mm以下の 砂粒を含む	良好	黄色	1/2以下

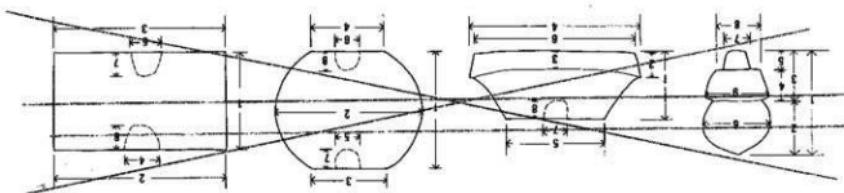
辨認番号	写真 図版	山土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成色調	備考
194-6	150	23-1 前庭	高环 (須恵器)	口径9.4 器高	底部内面:ナデ その他:回転ナデ	密	良好 濃青灰色	1/2以下 2方向の輪状透し
194-7	150	23-1 前庭	高环 (須恵器)	口径10.5 器高	底部内面:ナデ その他:回転ナデ、1条の沈 線あり	0.5~1mm大 の黒色砂粒 を含む	良好 黄灰色	全体の1/2以下 透し2段3方向 反転復元
194-8	150	23-1 前庭	高环 (土師器)	口径13.2 器高	その他:回転ナデ	白色砂粒を 多く含む	良好 黄灰色	小片 反転復元
194-9	150	23-1 玄室	环 (土師器) 底径7.0	口径 器高	底部外面:糸切り その他:回転ナデ	少し白色砂 粒を含む	良好 淡赤褐色	小片 底急外間にわずか な段あり
194-10		23-2 前庭	环 (須恵器)	口径(12.6) 器高	回転ナデ	密	良好 灰色	小片 反転復元
194-11		23-2+3 前庭	环蓋 (須恵器)	口径10.8 器高3.1	大井部外面:回転ヘラケズリ のナデ、大井部内面ナデ、 の砂粒を含む その他回転ナデ	1~1.5mm大 の砂粒を含む	良好 濃青灰色	1/2以下 反転復元
194-12		23-2 玄室	环 (土師器)	口径	底部内面:回転ナデ 底部外面:ナデ	精良	良好 全面赤彩	小片
194-13		23-2 前庭	环身 (須恵器)	口径(11.4) 器高	回転ナデ	密	良好 灰色	小片 反転復元
194-14	151	23-2 前庭	环身 (須恵器)	口径12.4 器高4.7 高合径6.5	底部外面:ナデ 底部内面:ナデ その他:回転ナデ	1mm大の砂 粒を多く含む	良好 青灰色	1/2以上残存
194-15		23-3 前庭	环蓋 (須恵器)	口径10.6 器高	大井部内面:ナデ その他:回転ナデ	0.5~1mm大 の黒色砂粒 を含む	良好 青灰色	1/2以下 口縁部は重ね燒き のため暗黄灰色
194-16	150	23-3 前庭	环蓋 (須恵器)	口径12.0 器高3.3	天井部外面:ナデ 天井部内面:ナデ、その他 ヘラ削り後回転ナデ	白色砂粒を 多く含む	良好 青灰色	1/2以上残存 外面に自然釉付着
194-17	150	23-3 前庭	环蓋 (須恵器)	口径14.7 器高3.8	天井部外面:内面 天井部外面、その他:回転 ナデ後回転ナデ	白色砂粒を 含む	良好 淡白色	完形
194-18	150	23-3 前庭	环身 (須恵器)	口径12.6 器高6 高合形7.6	天井部外面:ヘラ切り後ナデ、 底部内面:ナデ その他:回転ナデ	1mm以下の 砂粒を含む	外部 青灰色 内部 灰色	ほぼ完形
194-19	150	23-3 前庭	环身 (須恵器)	口径13.1 器高5.4 高合形8.6	天井部外面:ナデ 底部内面:ナデ その他:回転ナデ	白色砂粒を 含む	良好 淡灰色	完形
194-20	150	23-3 前庭	高环 (須恵器)	口径17.6 器高	その他:回転ナデ	砂粒を少し 含む	やや 不良 青灰色 (やや黄色)	全体の約1/2以下
194-21	150	23-3 前庭	壺 (須恵器)	口径7.4 器高19.1	底部外面:回転ヘラケズリ後 回転ナデ その他:回転ナデ	1mm大の砂 粒を含む	良好 濃青褐色	青灰色、外側に完形 外側に自然釉付着
194-22	150	23-3 前庭	壺 (須恵器)	口径8.4 器高20.7 脚径7.7	底部外面:ヘラケズリ後ナデ 1~2mm大の 砂粒を含む	1~2mm大の 砂粒を含む	良好 青灰色	完形
194-23	150	23-3 前庭	环 (土師器)	口径9.2 器高3.45	全面風化のため調整不明	白色砂粒を 多く含む	良好 濃色	もとは赤彩とされ ていたと思われる
194-24	151	23-4 前庭	环蓋 (須恵器)	口径11.2 器高4.0	大井部外面:ヘラ切り後ナデ その他:回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少 々含む	良好 灰色	
194-25	151	23-4 玄室	环蓋 (須恵器)	口径10.3 器高3.7	天井部外面:ヘラ切り後ナデ 天井部内面:ナデ その他:回転ナデ	砂粒を含む	良好 暗灰色	完形
194-26	151	23-4+5 前庭	环身 (須恵器)	口径9.1 器高3.5	底部外面:ヘラ切り後ナデ 底部内面:ナデ その他:回転ナデ	0.5~1mm大 の砂粒を多 く含む	良好 青灰色	1/2以上
194-27	151	23-4 前庭	环身 (須恵器)	口径9.8 器高3.7	底部外面:ヘラ切り後ナデ 底部内面:ナデ	1~2mmの 砂粒を少 々含む	良好 青灰色	完形

鉢番号	写真 図版	出土地点	種別	法環 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
195-1	152	23-5 玄室	蓋 (須恵器)	口径12.5 高さ4.4	天井部外面: ヘラ切り後ナデ 大井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mmの大粒 い粒子を少々 含む	良好	淡灰色	完形 大井部外面にヘラ記号あり
195-2	152	23-5 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.6 器高4	天井部外面: ヘラ切り後ナデ 大井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の大粒 砂粒を少々 含む	良好 (-事) 暗青灰色	青灰色	完形
195-3	152	23-5 玄室	坏身 (須恵器)	口径10.6 器高4.3 最大径11.1	底面部外面: ヘラ切り後ナデ 底面部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々 含む	良好 (一部黒變あり)	青灰色	完形
195-4		23-5 玄室	坏身 (須恵器)	口径 器高	底面部外面: ナデ 底面部内面: ナデ その他: 回転ナデ	白色の砂粒 を少々含む	良好	黄灰色	残存1/2以下 反転復元
195-5	152	23-5 玄室	环蓋 (須恵器)	口径12.9 器高4.3 最大径15	天井部外面: ヘラケズリのちナデ 大井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	0.5mm程の 砂粒を少し 含む	良好	黄灰色	完形 大井部内面にヘラ記号あり
195-6	152	23-5 玄室	坏蓋 (須恵器)	口径12.2 器高2.8 最大径15	天井部外面: ヘラケズリのちナデ 1~3mmの黒 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々 含む	良好	灰色	ほぼ完形 天井部内 面にヘラ記号あり
195-7	152	23-5 玄室	坏身 (須恵器)	口径13.7 器高7.3	底面部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々 含む	良好 (黄味おびる)	青灰色	完形 底部内面にヘラ記号あり
195-8	152	23-5 玄室	坏身 (須恵器)	口径14.0 器高5.2 高台径8.3	底面部外面: ヘラ切り後回転ナデ その他の: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々 含む	良好	黄灰色	完形 底部内面にヘラ記号あり
195-9		23-6 玄室	坏身 (須恵器)	口径 器高	その他: 回転ナデ	白色砂粒を 若干含む	良好	青灰色	小片
195-10		23-7 前庭	坏身 (須恵器)	口径 器高	その他: 回転ナデ	白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	小片
195-11	152	23-7 前庭	高环 (上部器)	口径 器高	底面部外面: ケズリ 底面部内面: ナデ その他: ナデ	砂粒を多く 含む	良好	淡黄褐色	外面は全面赤彩
165-1		22-3 玄室	坏 (上部器)	口径8.0 器高1.95 底径3.6	外面: 底部糸切り、その他回転ナデ 内面: 回転ナデ	精良	良好	黄褐色	
165-2		22-3 玄室	坏 (土蔵器)	口径8.4 器高1.7 底径4.8	外面: 底部糸切り、その他回転ナデ 内面: 回転ナデ	精良	良好	淡黄褐色	
207-1	152	22-23 谷	环蓋 (須恵器)	口径11.4 器高3.9	外面: 天井部ヘラ切り後ナデ、0.5~1mm大 口部最深回転ナデ 内面: 天井部ナデ、L字形回転ナデ	砂粒を少々 含む	良好	淡灰色	外面にヘラ記号あり
207-2		22-23 谷	坏蓋 (須恵器)	口径13.0 器高4.4	天井部外面: ヘラ削り 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	1/2以上
207-3		22-23 谷	坏蓋 (須恵器)	口径12.6 器高4.0	天井部外面: ヘラ削り 天井部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 少含む	良好	白灰色	1/2以上 反転復元
207-4	152	22-23 谷	坏蓋 (須恵器)	口径13.4 器高4.0	外面: 天井部ヘラケズリ、1mm以下の 縫隙部回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縫部回転ナデ	白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	反転復元
207-5		22-23 谷	坏蓋 (須恵器)	口径10.4 器高3.9	外面: 天井部ナデ、口縫部回転ナデ 内面: 天井部ナデ、L字形回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 若干含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元
207-6	152	22-23 谷	环蓋 (須恵器)	口径11.0 器高2.2	外面: つまみ部口縫部回転ナデ その他: ヘラケズリ後ナデ 内面: 天井部ナデ、I型回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 若干含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元
207-7		22-23 谷	坏身 (須恵器)	口径11.4 器高3.9	底面部外面: ヘラ削り 底面部内面: ナデ その他: 回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	1/2以下
207-8		22-23 谷	坏身 (須恵器)	口径11.0 器高3.9	外面: 底部ヘラケズリ、1mm以下の 窪印回転ナデ 内面: 底部ナデ、口縫部回転ナデ	白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	反転復元
207-9		22-23 谷	坏身 (須恵器)	口径 器高	外面: 口縫部回転ナデ、その他 他ヘラケズリ 内面: 底部ナデ、その他回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元

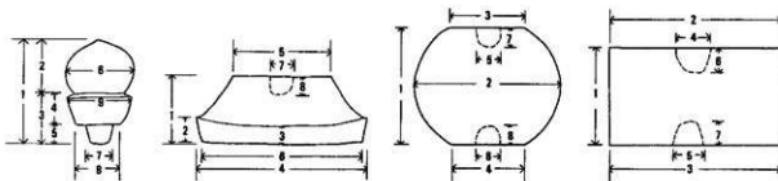
押出番号	写真 図版	出土地点	種別	法皇(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
207-10	22・23 谷	坏身 (須恵器)	口径11.0 高さ3.7	外側: 底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内側: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少量含む	良好	暗青灰色		
207-11 152	22・23 谷	坏身 (須恵器)	口径10.8 高さ3.8	外側: 底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内側: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	暗青灰色		
207-12	22・23 谷	坏身 (須恵器)	口径11.6 高さ4.0	外側: 底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内側: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1~2mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	暗青灰色		
207-13	22・23 谷	坏身 (須恵器)	口径9.6 高さ3.5	外側: 底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内側: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色		
207-14	22・23 谷	坏身 (須恵器)	口径11.4 高さ3.1	外側: 底部へラケズリ、口縁 部回転ナデ 内側: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 良好	暗青灰色			反転復元
207-15	22・23 谷	坏身 (須恵器)	口径11.4 高さ3.5	外側: 底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内側: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 砂粒を多く 良好	灰色			反転復元
207-16	22・23 谷	坏身 (須恵器)	口径10.4 高さ3.8	外側: 底部へラ切り後ナデ、 口縁部回転ナデ 内側: 底部ナデ、口縁部回転ナデ	1mm以下の 砂粒を多く 良好	暗青灰色			底部にヘラ記号あり
207-17	22・23 谷	壺 (須恵器)	口径7.0 高さ10.8	外側: 回転ナデ 内側: 脚部回転ナデ 底辺ナデ	1~2mm程度の 砂粒を含む	良好	暗青灰色		反転復元
207-18	22・23 谷	高环 (須恵器)	口径10.8 高さ10.8	外側: 回転ナデ 内側: 回転ナデ	1~2mm程度の 砂粒を含む	良好	暗青灰色		1/2以下 外側面部に自然釉付着 2段2方向の透し
207-19	22・23 谷	高环 (須恵器)	口径 高さ(6.3)	外側: 回転ナデ 内側: ナデ	1~2mm程度の 砂粒を含む	良好	灰色		1/2以上 2方向透し
207-20	22・23 谷	高环 (須恵器)	口径?	底部外側: 回転ナデ 底部内側: ナデ後回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	暗青灰色		1/2以下 反転復元
207-21	22・23 谷	高环 (須恵器)	口径10.6	その他: 回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少しあむ	良好	灰色		小片
207-22	22・23 谷	高环 (須恵器)	口径12.4	その他: 回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	灰色		小片 反転復元
207-23	22・23 谷	壺 (須恵器)	現高12.8 底辺6.2	外側: 底部カキ目後回転ナデ、肩部カキ 目後回転ナデ 内側: ナデ	1~5mm程度の 砂粒を含む	良好	灰褐色		1/2以下
207-24	22・23 谷	壺 (須恵器)	高さ (須恵器)	底部外側: ヘラ削り 底部内側: 回転ナデ その他: 回転ナデ	0.5~2mm程 度の砂粒を多 く含む	良好	暗青灰色		底部にヘラ記号あり
207-25	22・23 谷	壺 (須恵器)	現高5.0 底辺4.8	外側: 底部回転へラケズリ後 ナデ、肩部カキ目 内側: ナデ	1mm程度の 砂粒を含む	良好	灰褐色		1/2以下 内山底部に自然釉 付着
207-26	22・23 谷	壺 (須恵器)	高さ (須恵器)	底部外側: ヘラ削り後ナデ 底部内側: 回転ナデ その他: 回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色		1/2以下 反転復元 底部内面・背部に自然釉 付着
208-1 155	22・23 谷	壺 (須恵器)	口径(13.0)	その他: 回転ナデ	1mm程度の 白色砂粒を 多く含む	良好	暗青灰色		小片 反転復元
208-2 155	22・23 谷	壺 (須恵器)	口径6.4	その他: 回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	灰色		1/2以下 反転復元
208-3	22・23 谷	壺 (須恵器)	口径 高さ	外側: 底部へラケズリ後ナデ、2~3mmの白 色砂粒を含む その他回転ナデ 内側: 回転ナデ	良好	暗青灰色			1/2以下 反転復元 内山底部・外側に自然釉 付着
208-4 155	22・23 谷	横瓶 (須恵器)	口径7.6	外側: 口縁部回転ナデ、その他の カキ目 内側: 回転ナデ	緻密	良好	灰色		小片 内山面部に自然釉付着 反転復元
208-5 155	22・23 谷	はそう (須恵器)	口径 高さ	外側: 口縁部踏み、脚部回転 ナデ、その他の回転カキ目 内側: 脚部回転ナデ	0.5~1mm大 きの白黒・粒 子を多く含む	良好	暗青灰色		

新岡番号	写真版	山下地点	種別	法量 (cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
208-6	155	22・23 谷	はそう (須恵器)	口径 器高9.0	外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	1~2mm程度 の砂粒を含む	良好	灰褐色	1/2以下 反転復元
208-7	155	22・23 谷	はそう (須恵器)	口径 器高	外面: 回転ナデ、ヘラケツリ 内面: 回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 若干含む	良好	青灰色	1/2以下
208-8	155	22・23 谷	高环 (土師器)		外面: 不明 内面: 不明	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	淡青褐色	
208-9	155	22・23 谷	坏 (土師器)	底径5.4	外面: 底部切り、体部回転ナデ 内面: 回転ナデ	密	良好	明赤橙色	
208-10		22・23 谷	焼 (須恵器)	口径21.2 器高9.0	外面: 口縁部・底部回転ナデ その他タキ	1~2mm程度 の砂粒を含む	良好	灰褐色	1/2以下 外山脚部に自然物付着
208-11		22・23 谷	焼 (須恵器)	規高30.4	外面: 築削ナデ、その他引タキ 内面: タキ	1~3mm程度 の砂粒を含む	良好	灰褐色	1/2以下
208-12		半分城跡	甕 (須恵器)	口径19.0	外面: 口縁部不規則、その他の平行タキ 内面: 口縁部回転ナデ、その他タキ	1mm以下の 白色粒子を 若干含む	良好	灰色	1/2以下 反転復元 短・中距離: 自然物付着
208-13		22・23 谷	甕 (須恵器)	口径20.2	外面: 回転ナデ・タキ 内面: 回転ナデ・タキ	1mm以下の 白色砂粒を 若干含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元 中距離に自然物付着
208-14		22・23 谷	甕 (須恵器)	口径21.6	外面: 口縁部強ナデ、その他引タキ 内面: 口縁部回転ナデ、その他タキ	1mm以下の 白色砂粒を 含む	良好	灰色	1/2以下 反転復元 短・中距離に自然物付着
208-15		23-6 前庭	甕 (須恵器)	口径11.0	外面: 口縁部回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	紫色	1/2以下 反転復元
209-1	155	22・23 谷	甕 (須恵器)	口径49.6 器高101.0	外面: 口縁部回転ナデ、体部タキ 内面: 口縁部回転ナデ、体部タキ	1~5mmの白 色砂粒を 多く含む	良好	灰褐色	
209-2	155	22・23 谷	甕 (須恵器)	口径38.0 器高69.8	外面: 口縁部回転ナデ、体部タキ 内面: 口縁部回転ナデ、体部タキ	1~2mmの白 色砂粒を 良好	灰褐色		底部穿孔
209-3		22・23 谷	甕 (須恵器)	口径 器高	外面: 口縁部回転ナデ、体部タキ 内面: 口縁部回転ナデ、体部タキ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
209-4	155	22・23 谷	甕 (須恵器)	口径21.3	外面: 口縁部強ナデ、体部タキ 内面: 口縁部強ナデ、体部タキ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	淡青灰色	
209-5	155	22・23 谷	甕 (須恵器)	口径16.8 器高	外面: 口縁部強ナデ、体部タキ 内面: 口縁部強ナデ、体部タキ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	灰色	四耳あり
210-1		23-7 玄室	甕 (須恵器)	口径50.0	外面: 背部タキ、その他回転ナデ 内面: 口縁部タキナデ、その他タキ	鐵密	良好	青灰色	1/2以下 反転復元
210-2		22・23 谷	焼 (須恵器)		外面: 体部平行タキ、その他強ナデ 内面: 体部タキナデ、その他タキ	1mm以下の 白色砂粒を 多く含む	良好	断山紫色	1/2以下
210-3		22・23 谷	甕 (須恵器)	口径(59.2)	外面: 体部平行タキ、その他強ナデ 内面: 体部タキナデ、その他タキ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	1/2以下 反転復元
210-4		22・23 谷	甕 (須恵器)	口径	外面: 口縁部回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ	1mmの白 色砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
210-5		22・23 谷	甕 (須恵器)	口径21.6 器高55.4	外面: 口縁部回転ナデ 内面: 口縁部回転ナデ	1mmの白 色砂粒を含む	良好	灰色	
210-6		22・23 谷	焼 (須恵器)		外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 少し含む	良好	青灰色	小片 外面に浮文あり
210-7		22・23 谷	甕 (須恵器)		外面: 回転ナデ 内面: 回転ナデ	1~2mmの白 色砂粒を多 く含む	良好	青灰色	小片 外面に浮文あり

検査番号	写真 図版	出土地点	種別	法量(㎤)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
210-8		23支群 尾根上	甕 (須恵器)	口径11.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	1mm以下の 白色砂粒を 良好 多く含む		黄褐色	1/2以下



五輪塔計測地点



五輪塔計測地点

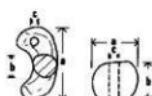
押図番号	図版	器形	部位	法量(cm)									備考
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
102-1		五輪塔	空風輪			15.6	9.8	5.8	17.8	7.8	11.4	17.1	2つに割れる
2	159	"	"	29.4	15.1	14.3	9.1	5.2	16.1	6.4	10.1	14.6	
3	157	"	"	26.5	13.9	12.6	7.9	4.7	16.8	6.8	10.1	15.8	
4		"	"										
5		"	"										
6	157	"	"	24.1	12.9	11.2	5.7	5.5	14.1	6.5	9.8	13.8	
7		"	"		14.8		8.8						反転復元
8		"	"										2つに割れる
9	159	"	"	23.6	12.1	11.5	7.2	4.3	15.1	7.0	9.7	14.3	
10		"	"	31.8	15.0	16.8	11.0	5.8	16.6	4.6	11.0	15.8	
11		"	"	25.1		14.5	10.0	4.5	13.0	5.8	9.0	13.0	2つに割れる
12		"	"		14.6		10.0						
13		"	"			8.0			7.1				
14		"	"										
15		"	"										
16		"	"	26.7	12.4	14.3	9.8	4.6	14.9	3.5	10.0	14.3	
17		"	"										2つに割れる
18	157	"	"		14.1	9.5	4.6	14.0	5.9	7.9	12.6		
19		"	"				7.8			11.0			
20		"	"					15.3					
21		"	"				7.2						
22		"	"										
23		"	"	12.2				15.5					
24		"	"										
25		"	火輪	16.0		6.4				8.5	4.0		
26	157	"	"	15.6	7.7	5.6	26.6			6.6	4.2		
27		"	"	17.4		5.4	28.0	12.4	23.0				
28	157	"	"	17.4	6.4					7.2			
29		"	"		8.8	6.8							
30		"	"		6.3								
31		"	"										
32		"	"	16.0		5.8	11.7			5.4			
33	157	"	"										
34	157	"	"		4.4	4.2							
35		"	"										
36		"	水輪										

押出番号	図版	器形	部位	法量(cm)									備考
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	
102-37		五輪塔	水輪										
38		"	"		6.2		24.6						
39		"	"										
40		"	"	14.0	7.0	5.6	22.9			7.0	4.2		
41		"	"	15.8	8.6						6.1		
42		"	"										
43		"	水輪										反転復元
44	158	"	"	16.2	23.4	14.8	18.5	7.7	8.2	3.0	3.1		
45	158	"	"	16.4	23.6	16.5	13.4	8.4		1.4	1.0		
46		"	"	15.8	23.0	14.8	14.2	7.6	7.4	1.4	1.1		
47		"	"	15.4	22.4	14.8	14.4	10.6	9.2	4.4	4.4		
103-1		"	"		30.7								
2	158	"	"	20.8	16.1	14.8	15.3	6.7	6.9	1.4	2.3		
3	159	"	"	16.4	26.9	18.9	18.4	10.7	11.4	2.8	3.8		
4		"	"					12.0	9.4				
5		"	"	11.0			16.8		14.4		3.4		
6		"	"	20.2						3.6	3.2		反転復元
7		"	"	17.8									反転復元
8		"	"										反転復元
9	158	"	"	16.4	24.6		15.8	9.6	9.0	4.0	4.4		
10		"	"	17.2	23.0								
11		"	"	17.2									反転復元
12		"	地輪	26.0	30.0	30.4	31.2	18.0	7.3				
13	158	"	"	22.2	29.0	31.8	29.2	20.4	7.0				
14	159	"	"	18.2		25.6	25.0	15.5	8.4				墨書き アク
15,16		"	"	13.6	22.6	22.6	12.2	8.4					
17		"	"			21.0	12.8	4.4					
18	159	"	"	19.6	27.8	26.8	26.3	17.0	6.6				
19	158	"	"	18.2	26.0	25.9	26.1	17.6	10.2				
20		"	"	18.2	26.0		26.51	8.8	6.0				2つに割れている
21		"	"										
22		"	基壇										
23	159	宝篋印塔											
24	159	宝篋印塔											

## 五計測値

挿図番号	出土地点	a (mm)	b (mm)	c (mm)	重量 (g)	色
30-5	35-1	23.9	6.9	2.4	3.43	赤橙色
30-4	35-1	7.05	5.55	2.2	0.44	紅色
86-25	33-5	10.0	0.55	0.25	2.21	白色
100-12	三田谷2号墳	7.3	6.4	1.5	0.66	緑色
100-11	三田谷2号墳	10.5	7.3	2.1	1.22	緑色
100-1	22-7	12.3	10.7	3.5	1.95	緑色
175-2	22-7	12.2	10.5	3.7	1.97	緑色
175-3	22-7	13.8	11.3	3.2	2.70	緑色
175-4	22-7	12.6	10.0	2.8	2.02	緑色
175-5	22-7	13.1	11.5	3.6	2.49	緑色
175-6	22-7	13.5	10.9	2.5	2.47	緑色
175-7	22-7	12.6	10.2	3.5	1.89	淡緑色
175-8	22-7	(20.0)	(9.4)	(1.7)	(0.80)	緑色
175-9	22-7	8.2	7.0	1.5	0.60	緑色
175-10	22-7	8.0	7.1	1.1	0.52	緑色
175-11	22-7	7.7	5.6	1.4	0.49	緑色
175-12	22-7	7.4	5.9	2.1	0.42	緑色
175-13	22-7	7.8	6.0	1.6	0.42	緑色
175-14	22-7	7.5	5.6	1.7	0.47	緑色
175-15	22-7	7.3	6.1	2.0	0.45	緑色
175-16	22-7	6.1	6.1	1.1	0.27	緑色
175-17	22-7	6.6	5.1	2.0	0.25	水色
175-18	22-7	6.3	6.4	1.4	0.25	水色
175-19	22-7	5.9	5.0	1.8	0.22	緑色
175-20	22-7	5.2	4.0	1.6	0.15	淡緑色
175-21	22-7	6.2	4.0	1.9	0.17	緑色
175-22	22-7	6.6	3.7	1.8	0.19	水色
175-23	22-7	5.0	(6.4)	1.0	(0.17)	緑色
175-24	22-7	5.0	3.1	1.5	0.10	緑色
175-25	22-7	5.2	3.2	1.2	0.12	緑色
175-26	22-7	5.2	2.9	1.5	0.10	淡緑色
175-27	22-7	4.6	2.8	1.3	0.08	緑色
175-28	22-7	4.8	2.8	1.1	0.09	緑色
175-29	22-7	4.7	1.5	1.1	0.06	緑色
175-30	22-7	4.5	2.5	1.5	0.06	緑色
175-31	22-7	4.5	1.9	1.5	0.05	緑色
198-1	23-5	12.2	10.0	2.6	1.95	茶色

掲出番号	出土地点	a (mm)	b (mm)	c (mm)	重量 (g)	色
198-2	23-5	13.1	10.4	2.2	2.48	茶色
198-3	23-5	11.8	10.7	2.2	(1.86)	茶色
198-4	23-5	12.5	9.3	3.1	2.22	暗緑色
198-5	23-5	13.3	10.7	2.0	2.53	暗緑色
198-6	23-5	10.9	8.0	4.2	0.68	白色
198-7	23-6	8.5	5.7	1.5	0.58	紺色
198-8	23-7	13.2	2.8	2.2	0.83	淡緑色
198-9	23-7	7.3	4.7	1.7	0.39	紺色
198-10	23-7	7.4	4.5	1.9	0.34	紺色
198-11	23-7	6.8	5.8	2.0	0.39	紺色
198-12	23-7	7.0	3.5	1.9	0.25	淡紺色
198-13	23-7	5.9	2.7	0.9	0.15	淡紺色
198-14	23-7	6.3	3.0	2.2	0.19	紺色
198-15	23-7	6.0	3.2	1.7	0.15	淡紺色
198-16	23-7	6.4	3.2	1.2	0.15	淡紺色
198-17	23-7	5.3	2.8	1.5	0.09	淡紺色
198-18	23-7	6.8	3.4	1.7	0.25	紺色
198-19	23-7	6.0	3.1	1.1	0.12	紺色
198-20	23-7	6.1	3.7	1.4	0.17	淡紺色
198-21	23-7	6.0	3.8	1.8	0.16	紺色
198-22	23-7	6.0	3.2	1.5	0.15	紺色
198-23	23-7	5.4	2.7	1.1	0.10	淡紺色
198-24	23-7	5.3	4.4	1.4	0.15	紺色
198-25	23-7	5.2	4.2	1.0	0.13	紺色
198-26	23-7	5.0	3.1	1.4	0.10	紺色
198-27	23-7	5.4	3.0	0.7	0.13	淡紺色
198-28	23-7	5.3	2.8	1.2	0.11	淡紺色
198-29	23-7	5.1	4.6	0.8	0.17	紺色
198-30	23-7	5.7	3.0	1.4	0.14	紺色
198-31	23-7	5.6	2.5	1.3	0.11	紺色
198-32	23-7	4.8	3.0	1.1	0.09	淡紺色
198-33	23-7	5.2	2.8	0.5	0.12	紺色
198-34	23-7	5.2	2.2	1.0	0.11	紺色



玉類計測地点

# 上塩治横穴墓群出土金製品の材質と製作技法

奈良国立文化財研究所

村 上 隆

## 1.はじめに

1993年からの調査で金糸の出土した上塩治横穴墓群第21支群10号穴に続いて、第22支群9号穴からも金糸と金環が出土した。両墓は一連の横穴墓群の中でも近くに位置し、お互いの関係にも注目される。ここでは、22-9号穴から出土した金糸及び金環の材質と製作技法について調査を行った結果を報告する。

## 2. 調査方法

金製品の材質調査には、非破壊的手法によるエネルギー分散型微小領域蛍光X線分析装置㈱テクノス製TREX640Sを用いた。分析条件は電圧45kv、電流0.3mA、300秒。また、微細構造の観察には、走査型電子顕微鏡㈱日本電子製JXA-840を用いた。

## 3. 金製品

### a) 金糸

22支群から出土した金糸は、からまつた状態でかなり大量に出土した(図1)。一度に出土した量は、これまでに日本で出土した金糸の中でも多い方ではないであろうか。螺旋状に巻かれた金糸の中空の芯には、土とともに植物の細い根が部分的に入り込んでいたが、繊維や糸などの遺存は確認できなかった。金糸の長さは絡み合っているので全ての金糸を確認できないが、長いもので10cm程度、短いもので5mm程度と一定しない。金糸としての太さは0.2~0.3mm程度の筒状で、その形状は先に出土した21支群の金糸とほとんど変わらない。ただし、螺旋状にする前のリボン条の幅は、走査型電子顕微鏡による観察(図2)から、0.3~0.6mmとバラツキがある。厚さ約10μm(0.01mm)である。リボン条の切断面には、前回同様、截ち切った痕跡が確認された(図3)。以上の観察結果を総合すると、この金糸は厚さ10μm程度に延ばされた、大きさ10cm角程度の金の薄板を上から截ち切るように幅0.3~0.6mmのリボン条に截断し、これを螺旋状に巻いたものであることがわかる。巻き方は21支群のものと同様「S巻き」である。ただし、21支群の金糸に見られたような、金糸をさらに巻き込んで太いコイル状にしたものは確認できなかった。なお、金板を厚さ10μmまで延ばす作業の最終段階で、上から何かの道具で押し付けて擦って仕上げたと思われる。金糸の大半は、擦った表面が外側に巻かれるのが普通である(図2)が、中にはこの面が内側に巻かれ、擦るときに下側になっていた裏面が表になるように巻かれているものもあり(図4)、金糸製作の工程を考える上で興味深い。

ここで、注目すべきは、金糸の材質である。非破壊的手法による蛍光X線分析の結果、金:90.5%、銀:9.4%、銅:0.1%の結果を得た(ランダムに、3本の金糸を抜き出して分析し、どれもほぼ同様の値を示した)。これは、21.7K(純度は24K)に相当する。銅が微量に含まれるのは、古代金製品の特徴であるが、3~4%程度の銀を含み、約23Kの金濃度を示した21支群の金糸とは組成が異なることがわかる。金糸の製作技術にはほとんど違いないが、このように金糸の組成が異なることはたいへん興味深い。これは、例えば、古代における金糸の使用方法、金糸の製作地、被葬者たちの金糸の入

手方法、被葬者同士の関係など、我々にさまざまなことを想起させてくれる。今後、これまでに日本各地で出土した金糸を比較検討していく中で、これらの疑問に答える糸口を見出したいと考えている。

#### b) 金環

この横穴墓からは、上に述べた金糸とともに金環が大小1個づつ出土している。両方の金環とも、金を細い板状に成形し、その表面にキザミを入れて、連続した山型文様がつけられている(図5)。似たような連続文様であるが、大小で若干異なる。(図6(a)、(b))。それぞれ薄板の両端を鐵付けして環を作っていると考えられるが、今回の調査でこの鐵材を特定するまでは至らなかった。

それぞれの組成は、大きい方の環が、金：88.06%、銀：11.84%、銅：0.10%、小さい方が、金：88.11%、銀：11.80%、銅：0.09%となり、どちらも銅がほとんど含まれず、21.1Kに相当する金の濃度を示す。共にほとんど同じ組成を示すことから、この二つの金環は、同じ材料から同時に作られたものであると考えてよいだろう。しかし、大小を組み合わせた金環の用途解明は、金糸の用途の解明と共に今後の課題である。

#### 4.まとめ

上塩治横穴墓群22支群9号横穴墓から大量に出土した金糸は、山陰地方で3例目にあたる。また、一緒に出土した大小組み合わせの金環はこの地方では初めての出土である。金糸は21支群10号横穴墓から先に出土した金糸とよく似た形状を呈するが、金の含有量は少し少い傾向が見られた。しかし、銅の含有量が少ないなど、古代の金製品の特徴を示している。また、金環は、大小ともにほぼ同様の組成を示し、同じ材料から作られたことがわかった。

今後さらに、我が国で出土した金製品の調査事例を増やし、古代における金製品の製作技法の解明と共に、製作地や流通などに関する考察もおこなっていきたいと考えている。

#### 参考文献

- (1) 村上 隆・林 健亮・松本岩雄・中原 斎：「山陰地方で出土した古代金糸の材質と製作技法」、日本文化財科学会第12回大会研究発表要旨集、1995
- (2) 村上 隆：「島根県出雲市上塩治10号横穴墓出土金糸の材質と製作技法について」、上塩治横穴群第20・21支群、島根県教育委員会



図1  
- 257 -

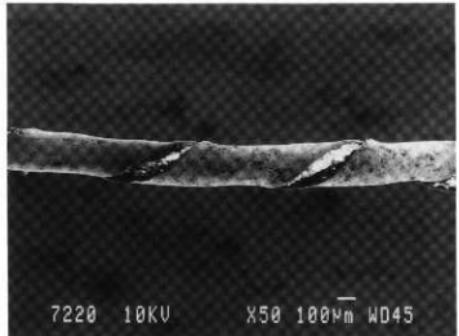


図 2

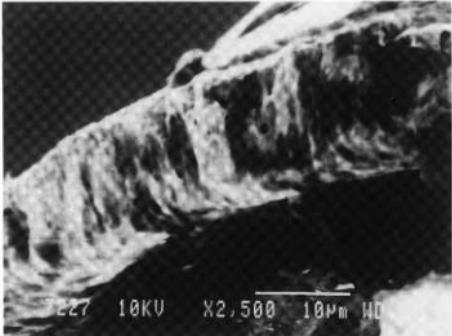


図 3



図 4

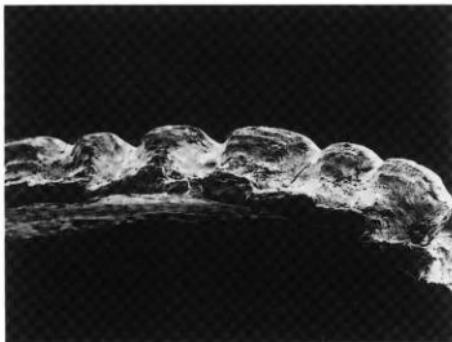


図 5

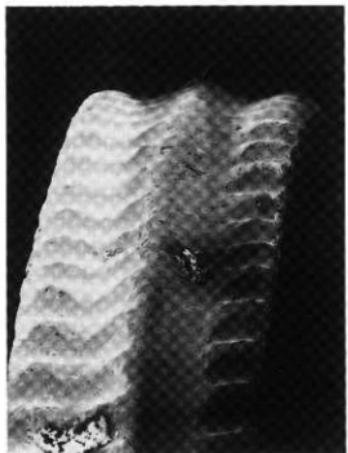


図 6 (a)



図 6 (b)

## 上塩治横穴墓群出土玉類の石材鑑定

鳥根大学総合理工学部地球資源環境学教室

澤田順弘

上塩治横穴墓群から発掘された遺物のうち、丸玉7試料の実体顕微鏡による鑑定とガラス小玉のX線マイクロアナライザーと蛍光X線による組成分析を行った。

### I. 丸玉の鑑定

石材、土器、コインなどの非破壊による精度の良い定量分析は種々の条件により困難である。表面が磨かれているか、滑らかな場合、X線マイクロアナライザーによって定量分析が可能であるが、表面を炭素または金で蒸着しなくてはならない。測定後、遺物を損ねることなく蒸着物質を除去できれば、定量分析が可能であるが、現状復帰できるかどうかの危険が伴なわれるので今回はこの方法での分析は行わなかった。半定量分析は蛍光X線によって可能である。この方法はX線を試料に照射し、そこから得られる特性(固有)X線を用い、ファンダメンタル・パラメータ法あるいは試料に類似した幾つかの標準試料を用いることによって分析することができる。この方法で例えば江戸時代の硬貨などの金属試料では、加速電圧50kV、電流50mAのX線照射条件で何時の時代のものであるかある程度の鑑定は可能であり、また、試料のダメージもない。しかし、今回のような石材を用いた丸玉の場合、上記の加速電圧ではしばしば試料がダメージを受けることからこの方法も危険が伴われる。従って、今回は実体顕微鏡を用いて鉱物種、岩石組織、粒度などを観察することにより岩石種を鑑定し、その産地を推定した。ただし、表面に石材以外の物質が付着しているものもあるが、その場合でもそれらを取り除けないため鑑定が不十分になることは否めない。

以下に結果を報告する。

#### ① 石材の推定

試料番号119(第198図4) 蛇紋岩。

試料番号120(第198図2) アルコース質中粒砂岩。

表面は黄茶色の風化物または、付着物に覆われるところがほとんどであり、鑑定は困難であるが、生の岩石がかろうじて観察する事ができる小領域では石英粒が多く、他に長石や岩片を含むことから砂岩と推定される。1mm程度の粗粒砂サイズの鉱物破片または岩片を含む。

試料番号121(第198図1) 中礫岩

径10mm程度の中粒花崗岩の岩片を含む。4mm以下のカリ長石、斜長石、石英の結晶片を含む。マトリックスは0.2~0.5mm程度の粒径からなるアルコース質砂岩である。

試料番号122(第198図5) 蛇紋岩

1~2mmの金属光沢を呈する黒色の鉱物はクロム鉄鉱と推定される。

試料番号123(第198図3) アルコース質極粗粒砂岩

粒径は最大2mm。長石、石英、苦鉄質鉱物の結晶破片や深成岩片を含む。

試料番号127(第198図6) 流紋岩質凝灰岩または自破碎性溶岩。

淘汰の比較的良好な1mm前後の白色無斑品質流紋岩を主体として、マトリックスは著しく少ない。流

紋岩岩片は角礫ないし亜角礫である。鉄鉱の結晶片を含む。また、流紋岩岩片の間を充填して細粒の鉄鉱粒が認められる。

試料番号160（参考資料として、玉湯町林43号墳出土巣玉） 粘板岩（スレート）

泥質碎屑岩の他に極細粒アルコース質砂岩、細粒石英砂を含む。ラミナおよびスレート劈開が認められる。

## ② 産地の推定

試料番号119と122の蛇紋岩は中国地方の三郡変成帯中に点在する超苦鉄質岩に由来するものと推定される。

試料番号120、121、123の礫岩、砂岩と試料番号127の流紋岩質凝灰岩または自破碎性溶岩は島根県東部の日本海沿岸に分布する中期中新統に由来するものと推定される。

試料番号160の粘板岩は中国帶の非変成堆積岩に由来する可能性がある。

## II ガラス小玉の組成分析

ガラス小玉については破片状のものは破壊分析が可能であるので、波長分散型X線マイクロアナライザーおよび蛍光X線分析装置を用いて組成分析を行った。

### ① 波長分散型X線マイクロアナライザーを用いた定性及び定量分析

ガラスの定性及び定量分析は島根大学汽水域研究センターに設置のX線マイクロアナライザー（J EOL社製 J X A - 8800M）を用いて行った。分析試料はガラス小玉を接着剤でスライドガラスに固定し、表面を削り、最終的に1 μmのダイヤモンドペーストにて研磨したものを用いた。

#### 定性分析

分光結晶としてTAP、LIF、PETを用いて酸素より重い元素がカバーできる波長領域で定性分析を行った。結果を図1～5に示した。G-1～G-5は次に述べる定量分析試料と同じである。定量分析を行った元素（Si、Ti、Al、Fe、Mn、Mg、Na、Ca、K、P、Cu、Pb）以外の元素のピークは認められなかった。

#### 定量分析

定量分析は標準試料として合成酸化物と組成既知のガラスを用い、補正計算はZAFによった。測定条件は加速電圧15 kV、試料電流 $2.00 \times 10^{-2} \mu\text{A}$ 、ビーム径を約10 μmとし、NaとKについてはピーク位置で6秒間、バックグラウンド位置で2秒間測定し、他の元素についてはピーク位置で主元素は10～15秒間、微量元素は30～300秒間、バックグラウンド位置で、主元素は2～5秒間、微量元素は10～60秒間測定した。1試料について4～5点を測定し、その平均値を持って値とした。分析結果を表1に示した。分析値はすべて100%にノルマライズした値である。

分析された試料は濃紺色1試料（表1のG-2）、紺色1試料（G-1）、青色2試料（G-4、5）、淡青色1試料（G-3）の5試料である。分析されたガラス小玉試料はいずれもNa2Oが17～19重量%と高く、ソーダガラスである。鉛（Pb）はごく少量である。G-2、3では銅（Cu）が1重量%を超えることから、青～紺色の発色剤の1つとなっているものと考えられる。

### ② 蛍光X線分析装置を用いた定量分析

上記のX線マイクロアナライザーを用いた方法では、微量元素の定量分析は困難もしくは精度が著

しく悪いので、鳥根大学総合理工学部地球資源環境学教室設置の蛍光X線分析装置（リガク社製RIX-2000）」を用いてガラスピード法により分析した。試料と融剤（四ホウ酸リチウム）の混合比は試料：融剤 = 1 : 5 である。検量線用標準試料としては日本地質調査所およびアメリカ合衆国地質調査所の高い推奨値が報告されている標準試料及び高純度（99.999%～99.99%）の試薬によって作成した標準試料を用いた。マトリックス補正とX線ビーコとの重なり補正係数を多成分重回帰法によって求めた方法とPeak over Back法（Cu, Zn, Ba）を用いた。

分析用ガラスピードの作製には未知試料が0.7 g (700mg) 必要である。しかしながら、分析に用いたガラス小玉破片は重量が0.04 g (40mg) 以下である。従って未知試料（ガラス小玉）のみではガラスピードが作製できないために高純度のシリカ粉末試料（純度：99.999%）および高い推奨値をもつ日本地質調査所の標準試料を混合させ0.7 g とし、その分析値と混合比から計算によってガラス小玉の元素組成を求めた。ガラス小玉と混合させた日本地質調査所の標準試料（JR-2、JP-1）及び高純度のSiO<sub>2</sub>試薬の重量と重量比を表2に、標準試料（JR-2、JP-1）の推奨値、混合試料の分析値、及びガラス小玉の計算値を表3に示した。

ガラス小玉の量が少ないために、希釈による誤差が大きくなる。特に誤差はガラス小玉の組成が混合した標準試料の値に近いものでは大きい。一方、高純度のシリカ粉末試料の場合、SiO<sub>2</sub>以外はほとんど0に近いが、混合試料では希釈のため検出限界以下になる元素（表2にndで示した元素）も多い。

分析結果は以下の通りである。

[JR-2との混合試料] Niが200～500ppmと多い。Cuは7000～9400ppmの高濃度を示すものがあり（濃紺色A-1、紺色B-2）、上記のX線マイクロアナライザによる分析結果と整合的である。Cu濃度が低い紺色A-2、B-1試料は逆にCoが80～150ppmと高い。

[JP-1との混合試料] Srが120ppmと260ppm、Baは700ppmと1600ppmである。Cuは濃紺色のものが1100ppm、淡青色のものが9400ppmでJR-2の結果と異なる。Znは約2000ppm含まれる。

[SiO<sub>2</sub>との混合試料] Niが500ppm、Yが130ppm、Srが200ppmを示す。この試料は濃紺色を示すものであるが、Cuは600ppmと低い。Znは約3500ppm、Coは130ppmと見積もられる。

ガラスの発色剤としてはFe、Mn、Cu、Co、Crなどが考えられる。ここで分析したガラス小玉はX線マイクロアナライザによる分析と蛍光X線分析とともにCu含有量が高いことを示すものがあることからCuが発色剤の一つであることまちがいないが、Co含有量と色及び濃度との関係については結論が得られなかった。

ガラス小玉と標準試料の重量		
	重量(g)	比
2-A-1	0.0211	0.0301
JR-2	0.6789	0.9699
2-B-2	0.0269	0.0384
JR-2	0.6731	0.9616
2-B-1	0.0318	0.0454
JR-2	0.6682	0.9546
2-B-2	0.0104	0.0149
JR-2	0.6896	0.9851
TAMA-1a	0.0219	0.0313
JP-1	0.6775	0.9687
TAMA-1b	0.0165	0.0236
SiO <sub>2</sub>	0.6815	0.9764
TAMA-2	0.0154	0.0220
JP-1	0.6843	0.9780

表1 ガラス小玉と混合させた日本地質調査所の標準試料（JR-2、JP-1）と高純度SiO<sub>2</sub>試薬の重量と重量比

	JR-2	2-A-1+JR-2	2-A-2+JR-2	2-B-1+JR-2	2-B-2+JR-2	S22-72A-1	S22-72A-2	2-B-1	2-B-2
推奨値						濃緑色	紺色	紺色	紺色
SiO <sub>2</sub>	75.65	75.27	76.32	76.28	75.38				
TiO <sub>2</sub>	0.09	0.08	0.07	0.08	0.07				
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	12.82	12.75	12.54	12.40	12.79				
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.86	0.83	0.84	0.81	0.81				
MnO	0.11	0.12	0.12	0.12	0.12				
MgO	0.05	0.05	0.06	0.11	0.04				
CaO	0.45	0.54	0.69	0.70	0.51				
Na <sub>2</sub> O	4.03	4.53	4.59	4.70	4.27				
K <sub>2</sub> O	4.45	4.47	4.40	4.38	4.51				
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.01	0.02	0.02	0.03	0.02				
H <sub>2</sub> O (-)	1.28								
Total	100.26	98.65	99.66	99.61	98.51				
Cr	2.6	nd	4.0	nd	nd	*	39	*	*
Ni	0.84	8.8	9.5	10	9.1	265	226	203	555
Nb	19.2	16.4	17	17	17	*	*	*	*
Zr	98.5	82	85	84	77	*	*	*	*
Y	51	49	49	49	49	*	*	*	*
Sr	8	12	27	25	6.9	*	502	382	*
Rb	297	294	294	296	297	*	*	*	*
V	8	nd	nd	nd	nd	*	*	*	*
Ba	39	65	44	36	40	902	*	*	*
Cu	1.4	233	39	46	142	7685	980	984	9438
Zn	27.2	27	30	32	30	*	*	*	*
Co	0.4	nd	6.3	4.1	nd	*	154	82	*

	JP-1	TAMA-1a + JP-1	TAMA-2 + JP-1	TAMA-1s	TAMA-2	SiO <sub>2</sub>	TAMA-1b SiO <sub>2</sub>	TAMA-1b
推奨値				濃緑色	淡青色	SiO <sub>2</sub>	SiO <sub>2</sub>	濃緑色
SiO <sub>2</sub>	42.39	40.73	40.03			SiO <sub>2</sub>	100	90.12
TiO <sub>2</sub>		0.02	0.02			TiO <sub>2</sub>	0	0.01
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.62	1.70	1.72			Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0	0.92
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	8.34	11.05	11.07			Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0	0.03
MnO	0.12	0.16	0.16			MnO	0	0.01
MgO	44.72	40.93	41.07			MgO	0	0.03
CaO	0.56	0.69	0.57			CaO	0	0.15
Na <sub>2</sub> O	0.02	0.63	0.50			Na <sub>2</sub> O	0	0.42
K <sub>2</sub> O	0.00	0.06	0.07			K <sub>2</sub> O	0	0.06
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.00	0.03	0.03			P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0	0.02
H <sub>2</sub> O (+)	2.68					H <sub>2</sub> O (+)		
Total	99.45	96.00	95.24			Total		
Cr	2970	2441	2526	*	*	Cr	0	nd
Ni	2460	2325	2341	*	*	Ni	0	11
Nb	1.2	1.4	1.5	*	*	Nb	0	3.8
Zr	6	5.8	3.6	*	*	Zr	0	nd
Y	1	1.4	1.8	*	*	Y	0	2.8
Sr	1	3.9	5.5	125	262	Sr	0	4.4
Rb	1	nd	nd	*	*	Rb	0	nd
V	29	28	23	*	*	V	0	nd
Ba	17	23	33	735	1575	Ba	0	12
Cu	5.7	36	192	1150	9163	Cu	0	13
Zn	29.5	54	51	1725	2434	Zn	0	75
Co	116	100	91	*	*	Co	0	3463
							2.9	134

表2a ガラス小玉の螢光X線分析結果。ndは検出限界以下を示す。\*は算出値が意味をもたないことを示す。

ガラス小玉	G-1	G-2	G-3	G-4	G-5
	22-7-2-A	22-7-2-A	B-2	B-2	B-2
	n=5	n=4	n=4	n=5	n=4
	紺色	濃紺色	淡青色	青色	青色
	SiO <sub>2</sub>	67.89	67.52	70.40	67.89
TiO <sub>2</sub>	0.28	0.46	0.39	0.30	0.30
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	4.01	6.67	6.05	3.91	3.92
FeO	1.51	1.20	1.09	1.50	1.46
MnO	0.25	0.31	0.28	0.28	0.30
MgO	0.82	0.26	0.20	0.82	0.83
CaO	5.66	2.07	1.84	5.75	5.74
Na <sub>2</sub> O	18.27	18.55	16.57	18.11	18.07
K <sub>2</sub> O	0.99	1.58	1.82	1.14	1.07
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.10	0.05	0.06	0.09	0.09
CuO	0.12	1.31	1.24	0.12	0.04
PbO	0.12	0.02	0.07	0.10	0.03
Total	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

表3 ガラス小玉のX線マイクロアナライザーによる定量分析結果。nは分析点の個数を表す。



蛇紋岩



アルコース砂岩



カリ長石結晶



花崗岩片



蛇紋岩



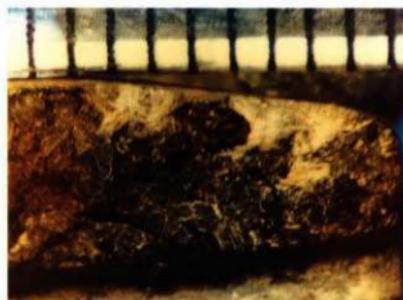
岩片



砂岩



流紋岩片、鐵鉱



ラミナ・スレート劈開

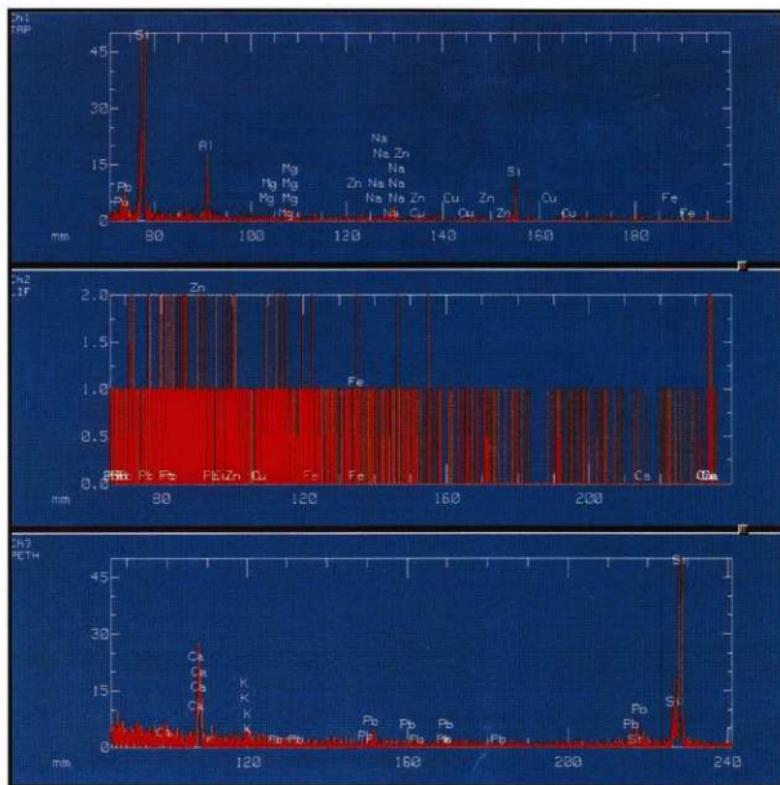


図1 ガラス小玉（G-1）のX線マイクロアナライザーによる定性分析結果

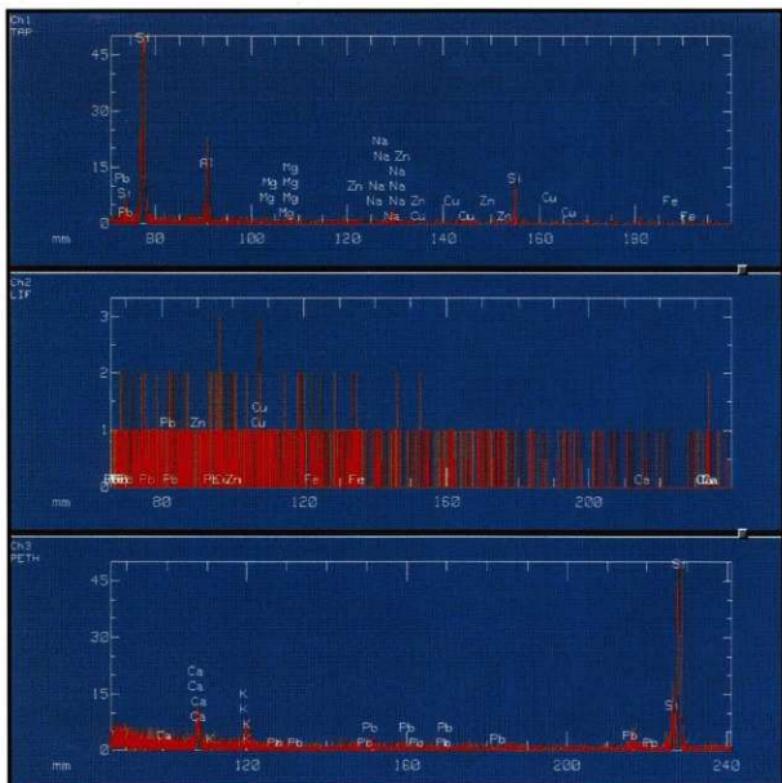


図2 ガラス小玉（G-2）のX線マイクロアナライザーによる定性分析結果

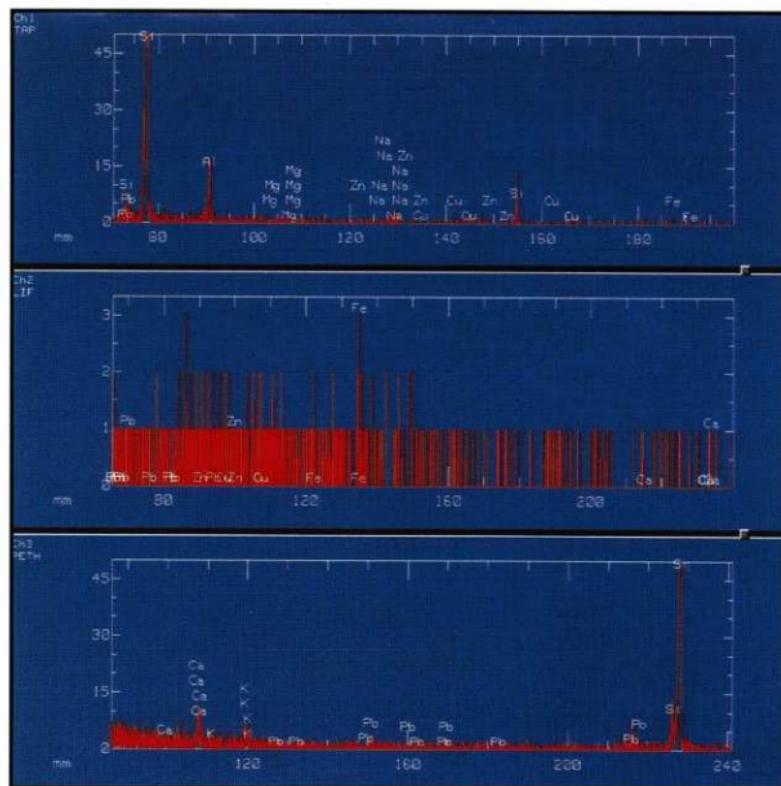


図3 ガラス小玉 (G-3) のX線マイクロアナライザーによる定性分析結果

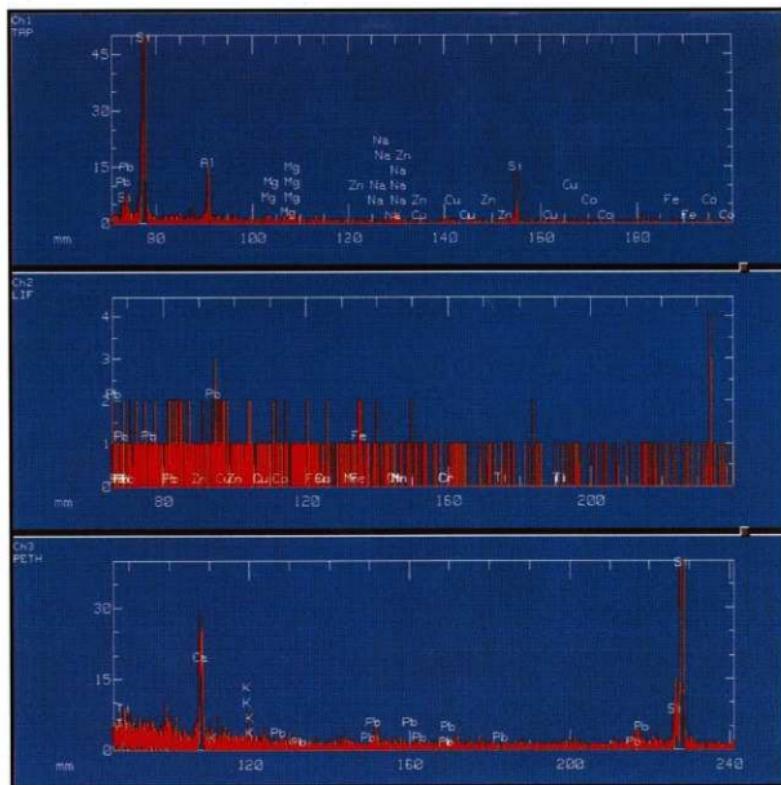


図4 ガラス小玉（G-4）のX線マイクロアナライザーによる定性分析結果

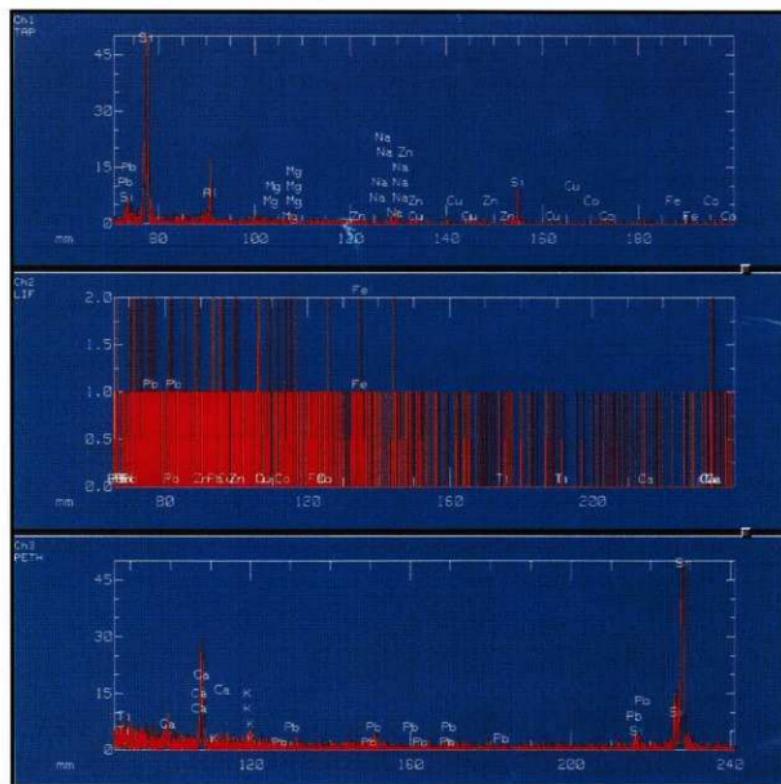


図5 ガラス小玉（G-5）のX線マイクロアナライザーによる定性分析結果

# 出雲市上塩治横穴墓群出土砂滓の調査

日立金属株式会社冶金研究所

和 鋼 博 物 館

上塩治横穴墓群は出雲市上塩治町に所在し、斐伊川放水路事業の敷地内に位置するため、平成7年度に島根県埋蔵文化財調査センターによって事前発掘調査が行われた。遺跡の横穴墓は時期不明であるが、周辺横穴墓の時期は7世紀前半であることから同時期頃の横穴墓と推定される。その玄室から出土した鉄滓について分析の調査の依頼があったので、金属学的調査を行った結果と若干の考察を加えたので併せて報告する。

## 1. 資料

資料の明細及び外観をそれぞれ表1および写真1~3に示す。

表1 各資料の明細

番号	資料名	明 細	重量(g)
No.1	37-1 玄室 No.4鉄滓(951027)	表面や赤味を帯び凸凹状で気泡あるも、やや重い感じ、輪約65mm、長さ50mm、厚み約25mmで、底面側は平坦	500
No.2	37-1 玄室 No.6鉄滓(951027)	長辺側約95mm、短辺側約85mmのやや円形の楕円形である。厚みは中央で約30mm、表面や赤味を帯び、緻密で重い感じ。底面側は凸凹状。	180
No.3	37-1 玄室 No.8鉄滓(951027)	約25mm~30mmの球形鉄滓。表面光沢あり、やや黒色 底面側は凸凹状。	75

## 2. 化学組成

各資料から試料を採取し、化学分析を行った。各資料の化学組成を表2に示す。このうち炭素及び硫黄は堀場製作所EMIA-1200型C・S同時定量装置による赤外線吸収法により、その他の元素は島津製作所製高周波誘導結合プラズマ発光分光分析装置(ICPV-1012型)により定量した。

表2 各種資料の化学組成(重量 %)

番号	資料名	C	SiO <sub>2</sub>	MnO	P	S	Ni	Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Na	K	CaO	MgO	V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	TiO <sub>2</sub>	Cu	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	T.Fe	FeO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	M.P
No.1	37-1玄室 No.4鉄滓	0.032	12.50	0.12	0.064	0.030	0.02	0.11	0.10	0.48	0.81	0.14	0.18	0.56	0.01	2.63	61.15	59.04	22.00	0.16
No.2	37-1玄室 No.6鉄滓	0.029	19.40	0.12	0.10	0.022	0.03	0.02	0.38	0.85	2.53	0.76	0.020	0.25	0.01	2.85	53.28	58.01	11.88	0.32
No.3	37-1玄室 No.8鉄滓	0.024	20.68	0.16	0.063	0.016	0.03	0.02	0.33	0.88	2.27	0.64	0.051	0.52	0.01	5.11	50.69	57.40	8.86	0.37

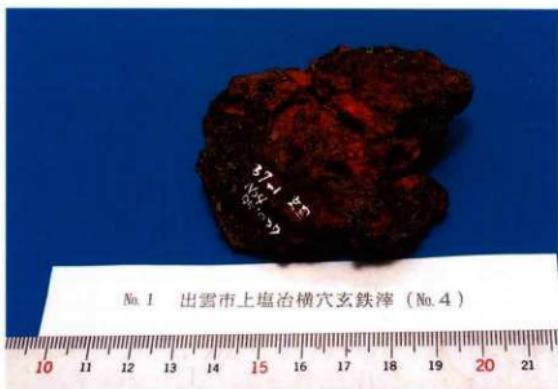
## 3. 顕微鏡組織

各資料の顕微鏡組織を写真4~6に示す。

資料No.1、No.2、No.3ともヴスタイト+ファイライト組織が主体である。

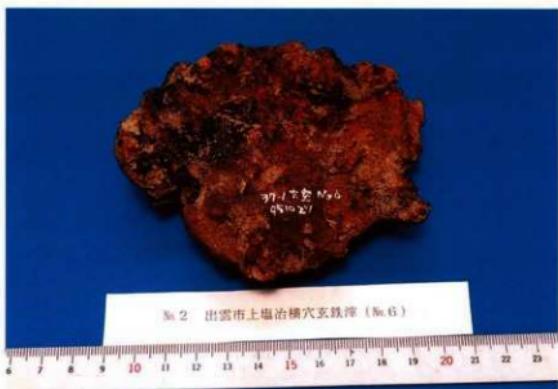
## 4. 構成相の解析

前項で観察した試料を用い、走査型電子顕微鏡(SEM)による微細組織の観察ならびにEDX分析(エネルギー分散型X線分析)による局部分析および粉末X線回折を行った。結果を写真7~9、図1、2、3に、またこれらの結果を総括し、各資料の構成相を示すと表3のようになる。



No. 1 出雲市上塩治横穴玄鉄滓 (No. 4)

写真 1 資料No. 1 鉄滓の外観



No. 2 出雲市上塩治横穴玄鉄滓 (No. 6)

写真 2 資料No. 2 鉄滓の外観



No. 3 出雲市上塩治横穴玄鉄滓 (No. 8)

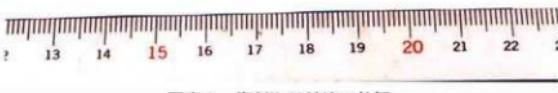


写真 3 資料No.33 鉄滓の外観

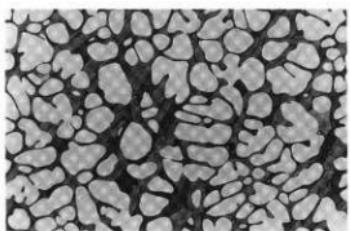
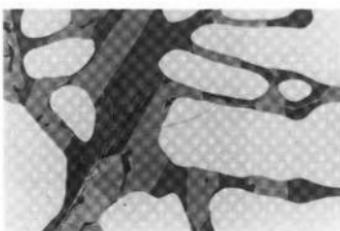


写真4 資料No.1 鉄津

(× 100)

白色結晶はヴスタイト

淡灰色の棒状結晶はアイヤライト



(× 400)



写真5 資料No.2 鉄津

(× 100)

白色結晶はヴスタイト

淡灰色の棒状結晶はアイヤライト



(× 400)

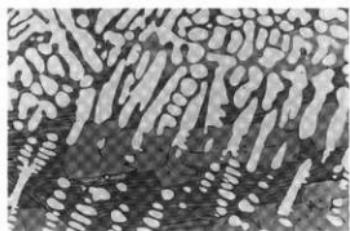


写真6 資料No.3 鉄津

(× 100)

白色結晶はヴスタイト

淡灰色の棒状結晶はアイヤライト



(× 400)

表3 各資料のX線回折による相解析

番号	資料名	(W) ヴスタイト FeO	(F) ファイアライト Fe <sub>2</sub> SiO <sub>4</sub>	(M) マグネタイト Fe <sub>3</sub> O <sub>4</sub>	基底 (ガラス質)
No.1	37-1玄室No.4鉄滓	◎	◎	○	Si-Al-Fe-K-Ca
No.2	37-1玄室No.6鉄滓	◎	◎	—	Si-Al-Ca-Fe-K-Na
No.3	37-1玄室No.8鉄滓	◎	◎	—	Si-Al-Ca-Fe-K-Na

注: ◎多い、○あり

## 5. 考察

大澤正己氏<sup>(1)</sup>が調査された古墳出土鉄滓の化学組成及び構成相のまとめを参考にして本資料をまとめるべく表4のようになる。

これによって製錬滓か鍛冶滓か、あるいは使用原料が砂鉄か鉱石(岩鉄)かについて考察してみる。

表4 資料の化学組成と鉱物組織

組織	資料		
	No.1	No.2	No.3
全鉄分(T.Fe)	61.15	53.28	50.69
造滓成分	16.38	25.54	28.70
TiO <sub>2</sub> 量	0.56	0.25	0.52
バナジウム(V)	0.101	0.0112	0.0286
鉱物組織	W+F+M	W+F	W+F

注: 造滓成分 (SiO<sub>2</sub>+2CaO+MgO+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)

## (1) 資料No.1鉄滓について

鉄分61.15%と高く、造滓成分16.38と低い。また写真4のミクロ組織及び写真7のSEM像には鍛冶滓の特徴であるヴスタイト結晶が大きく発達していることと、表3の構成相もW+Fが主体であることから製錬滓ではなく鍛冶滓と判断される。また、鉄分が高いことから鍛錬鍛冶滓が考えられるが、M、Fe0.16%と低く、それにマグネタイトも含まれることと、TiO<sub>2</sub>量0.56%はやや高いことから鍛錬鍛冶滓ではなく精錬鍛冶滓と推定される。また、TiO<sub>2</sub>量0.56%、V量0.101は砂鉄が原料に用いられたものと推定される。

## (2) 資料No.2、No.3鉄滓について

鉄分50.69%~53.28%とやや高いが、造滓成分25.54~28.70と多い。しかし、写真5、6のミクロ組織、写真8、9のSEM像にはよく発達したヴスタイト組織が見られること。それにX線回折に鍛冶滓の特徴であるヴスタイト+ファイアライトが検出されることから製錬滓ではなく鍛冶滓と判断される。また、鉄分が低く、造滓成分が多いことから鍛錬鍛冶滓ではなく精錬鍛冶滓と推定される。TiO<sub>2</sub>量0.25~0.52%、V量0.0112%~0.0286%は砂鉄が原料に用いられたものと推定される。

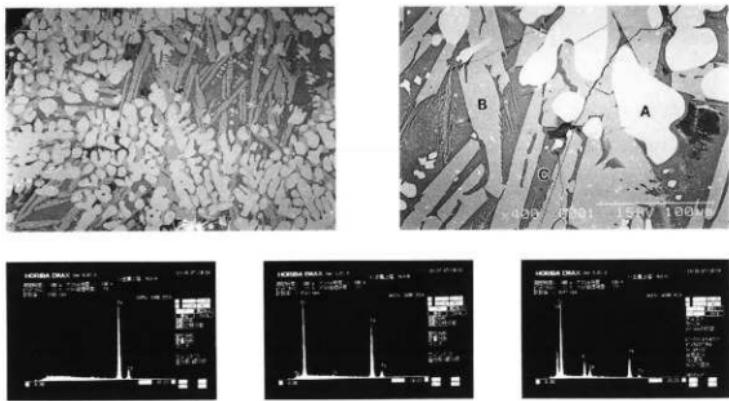


写真7 資料No.1のSEM像とEDX分析

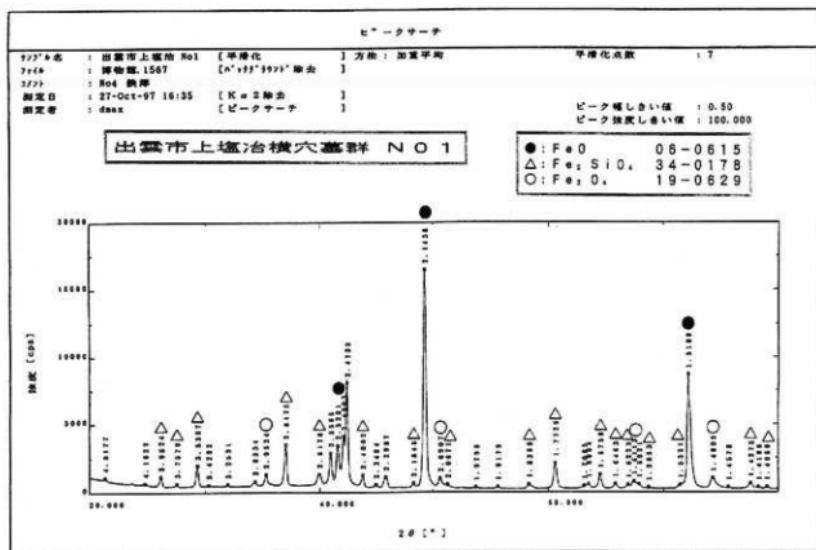


図1 資料No.1のX線回折像

## 6. 結言

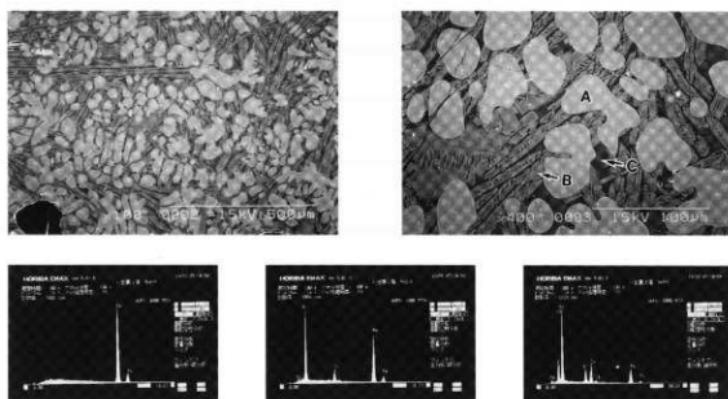
出雲市上塩冶横穴墓群出土鉄滓について調査を行った。結果を要約すると次の通りである。

- (1) 資料No.1、No.2、No.3 鉄滓ともは砂鉄を原料とした精錬鍛冶滓と推定した。

以上の調査は日立金属株式会社冶金研究所で実施し、日立金属テクノクス清水主管コンサルタントにご指導頂いた。

## 参考文献

- (1) 大澤正己：古代出土鉄滓からみた古代製鉄：日本製鉄史論集119P（たたら研究会1984）

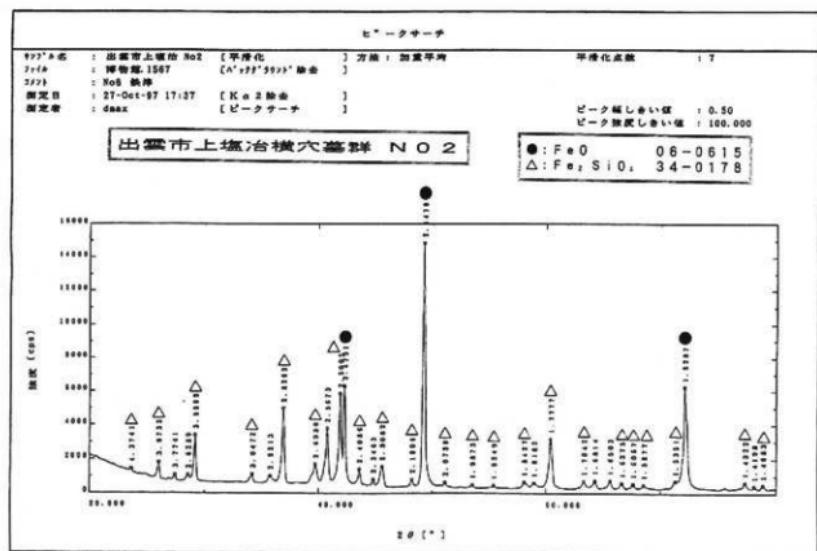


A部 ヴスタイト

B部 ファイヤライト

C部 基 地

写真8 資料No.2のSEM像とEDX分析



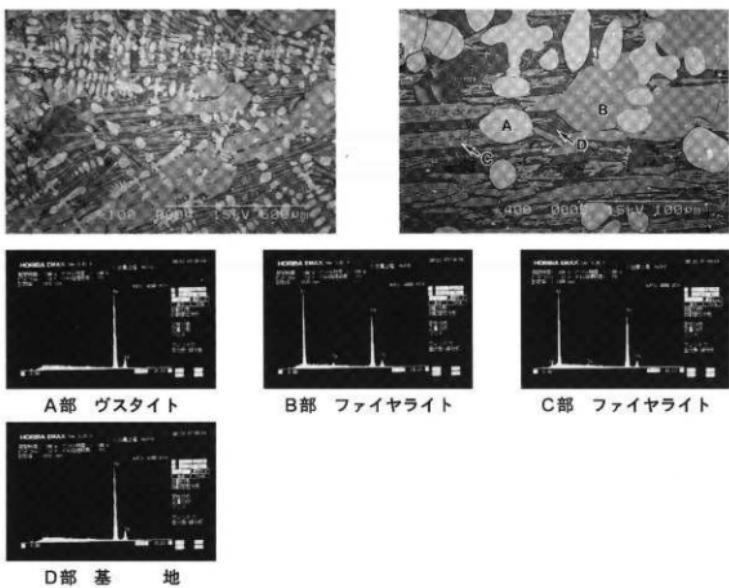


写真9 資料No.3のSEM像とEDX分析

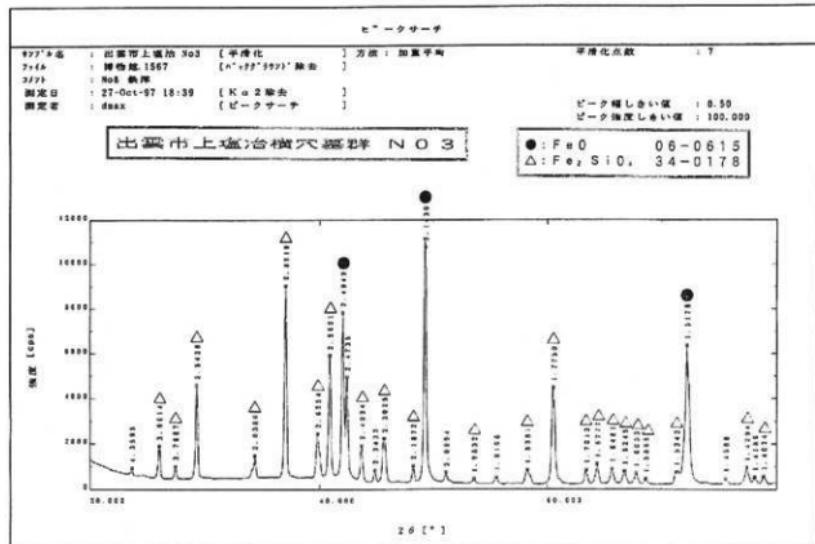


図3 資料No.3のX線回折像



# 図版

図版内の番号は  
挿図番号と同じ



図版 1 上沢Ⅱ遺跡

調査前全景



調査後（南側）



調査後（北側）



図版2 上沢II遺跡



加工痕(1)



加工痕(2)



井戸跡

図版3 上沢II遺跡

土 杭



溝状遺構



穴



図版4 狐廻谷古墳



遠景(上空から)



遠景(上空から)



正面全景

図版 5 狐廻谷古墳

床石・側石の組合せ方



墳丘除去後  
(後方から)



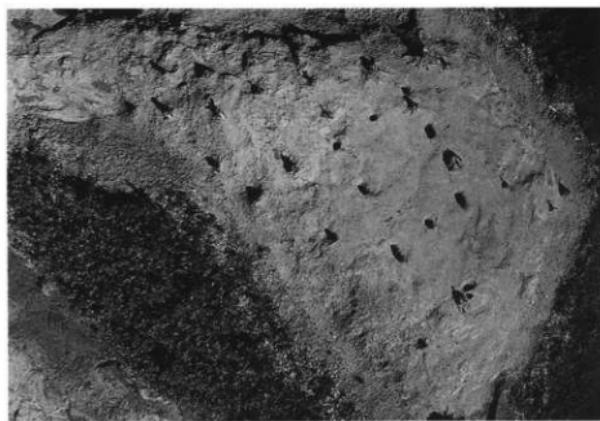
調査後全景



図版 6 大井谷城跡



2区 全景(上空から)



2区  
SB01(上空から)



2区  
調査前遠景(南から)

図版7 大井谷城跡

2区 谷部土層



3区 調査前全景



3区 土層



図版8 大井谷城跡



3区 調査後



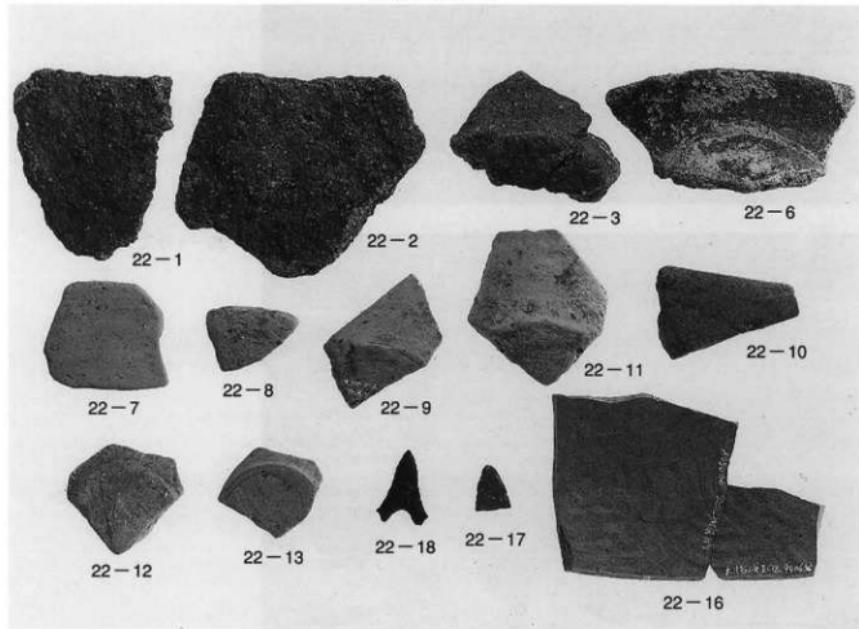
4区  
調査風景（南側）



4区  
調査後（北側）



上沢II遺跡遺物



大井谷城跡遺物

図版10 上塙冶横穴墓群第35支群



35-1号穴 前庭上層



35-1号穴  
前庭部遺物出土状況



35-1号穴 閉塞石

图版 11 上盐冶横穴墓群第35支群

35—1号穴  
玄室内遗物出土状况



35—1号穴 调查后



35—1号穴 工具痕



図版12 上塙冶横穴墓群第36支群



第36支群 調査後全景

36-1号穴 前庭土層



36-1号穴  
前庭部遺物出土状況



36-1号穴 閉塞石



36-1号穴  
玄室内遺物出土状況



36-1号穴 工具痕



図版14 上塙冶横穴墓群第36支群



36-2号穴 閉塞石



36-2号穴  
玄室内遺物出土



36-2号穴  
調査後全景

図版15 上塙冶横穴墓群第36支群

36-2号穴  
工具痕（右袖）



36-2号穴  
工具痕（左袖）



36-2号穴  
工具痕（棟部）



図版16 上塙冶横穴墓群第36支群



36-3号穴  
前庭部遺物出土状況



36-3号穴  
調査後全景

